

障害のある方々の暮らしと福祉についての意識調査  
報告書

平成 29 年 3 月

市川市 福祉部 障害者支援課

## 目次

I 調査の概要 .....	1
II 手帳所持者調査の結果 .....	2
1 対象者の属性.....	2
2 健康について.....	12
3 暮らしを取り巻く環境について .....	15
4 暮らしの場や家計について .....	23
5 介助について.....	26
6 外出について.....	30
7 サービスの利用の状況と今後の展望について.....	32
8 日中活動について .....	35
9 余暇活動、地域活動について.....	47
10 これからの障害福祉について .....	50
III 手帳非所持者調査の結果 .....	57
1 対象者の属性.....	57
2 健康・福祉に対する関心について .....	60
3 日常生活における障害者との関わりについて.....	63
4 余暇活動や障害者を支援する活動について .....	67
5 障害者福祉の情報について .....	76
6 これからの障害福祉について.....	78
IV 自由意見.....	85
V 今後の課題 .....	88
調査票.....	89
用語解説 .....	123

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

○市川市に居住する障害者の生活、教育、就労、社会参加活動等の実態や現状、あるいは国、県、市による障害者施策やサービスに対する具体的な意向を把握し、調査結果を次期計画の基礎資料とする。

## 2 調査の方法

○対象：障害にかかる各種手帳を所持する市民（当事者）、手帳を所持しない市民

○方法：郵送による配布・回収

## 3 調査期間

○平成 28 年 8 月上旬～9 月下旬

## 4 回収結果

障害の種別	身体障害	知的障害	精神障害	合計	手帳を所持しない市民
調査対象者	身体障害者手帳所持者	療育手帳所持者	精神障害者保健福祉手帳所持者		
対象者	1,500	500	500	2,500	500
抽出方法	手帳所持者から無作為抽出				住民基本台帳から16歳以上を無作為抽出
有効回収数 (有効回収率)	868 (57.9%)	269 (53.8%)	240 (48.0%)	1,377 (55.1%)	189 (37.8%)

## 5 調査項目

手帳所持者	手帳非所持者
<ul style="list-style-type: none"><li>・健康について</li><li>・暮らしを取り巻く環境について</li><li>・暮らしの場や家計について</li><li>・介助について</li><li>・外出について</li><li>・サービス利用の現況と今後の展望について</li><li>・日中活動について</li><li>・余暇活動、地域活動について</li><li>・これからの障害福祉について</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・健康・福祉に対する関心について</li><li>・日常生活における障害者との関わりについて</li><li>・余暇活動や障害者を支援する活動について</li><li>・障害者福祉の情報について</li><li>・これからの障害者福祉について</li></ul>

## II 手帳所持者調査の結果

### 1 対象者の属性

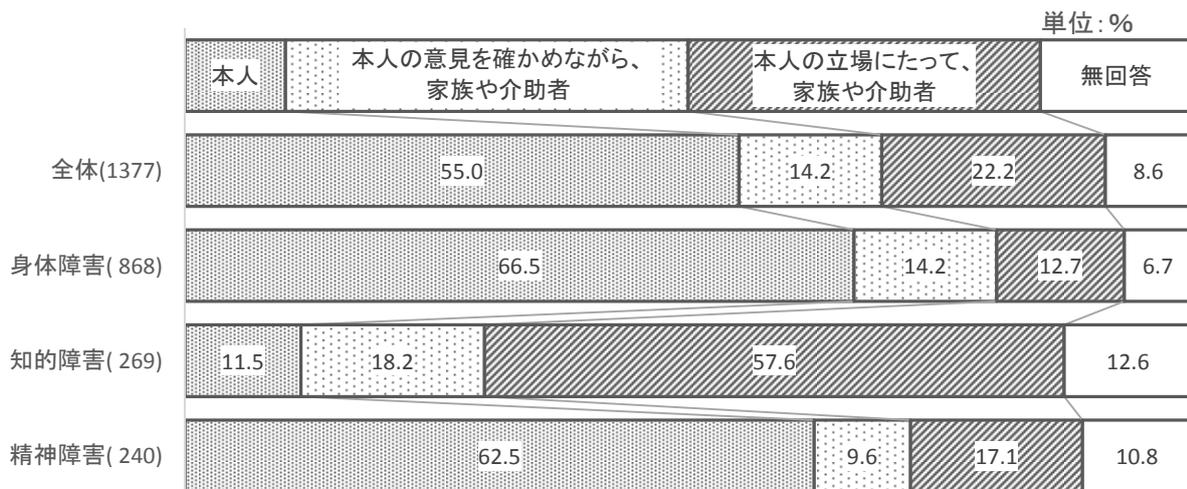
#### (1) 調査票の回答者（記入者）

○身体障害においては、約 67%が「本人」による記入である。

○知的障害においては、約 58%が「本人の立場にたって、家族や介助者が記入」しており、「本人」による記入は約 12%と少なくなっている。

○精神障害においては、約 63%が「本人」による記入である。

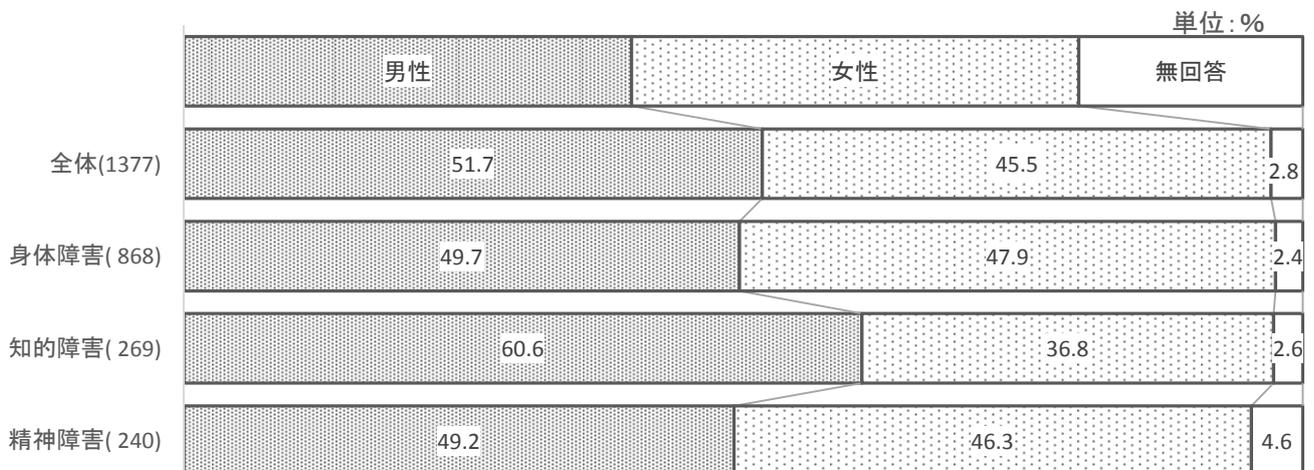
問 1. 調査票の回答者 ×障害種類別



#### (2) 性別

○対象者の性別は、身体障害・精神障害においては男性の方がやや多いが概ね男女とも同程度になっているが、知的障害においては、男性が 6 割と多くなっている。

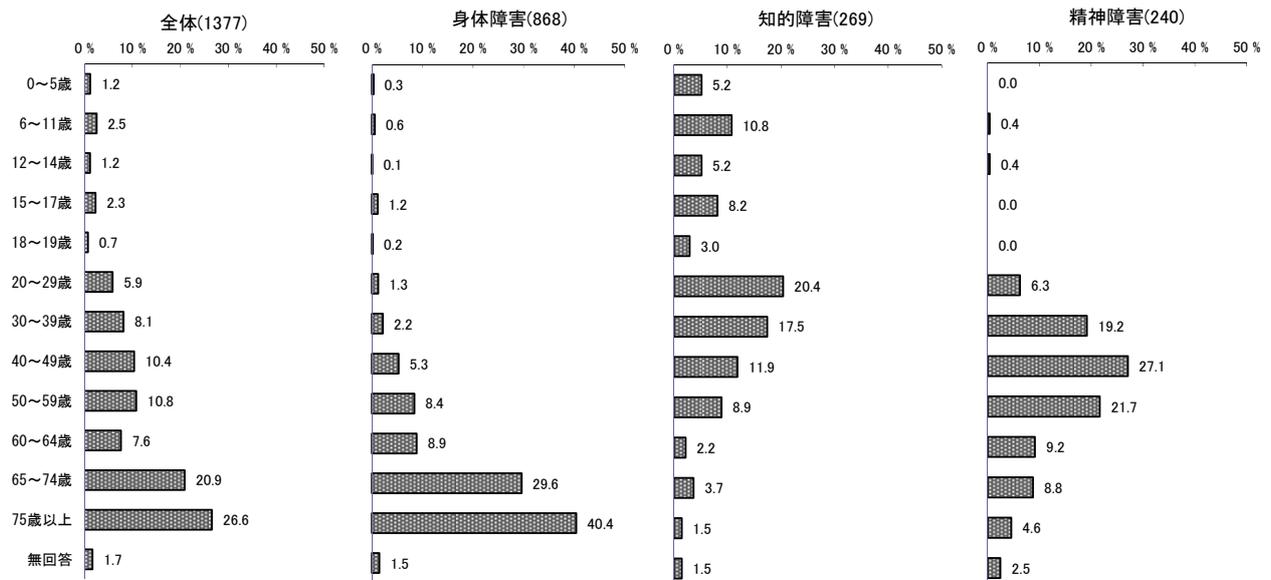
問 2. ①性別 ×障害種類別



### (3) 年齢

- 身体障害においては、65歳以上の高齢者の占める割合が70%を超えている。
- 知的障害においては、20歳代（約20%）、30歳代（約18%）と比較的若い年代層で多くなっている。
- 精神障害においては、未成年は1%未満と少ない。最も多いのは、40歳代で約27%、次いで50歳代が約22%、30歳代が約19%と青壮年層で多くなっている。

#### 問2. ②年齢 × 障害種類別

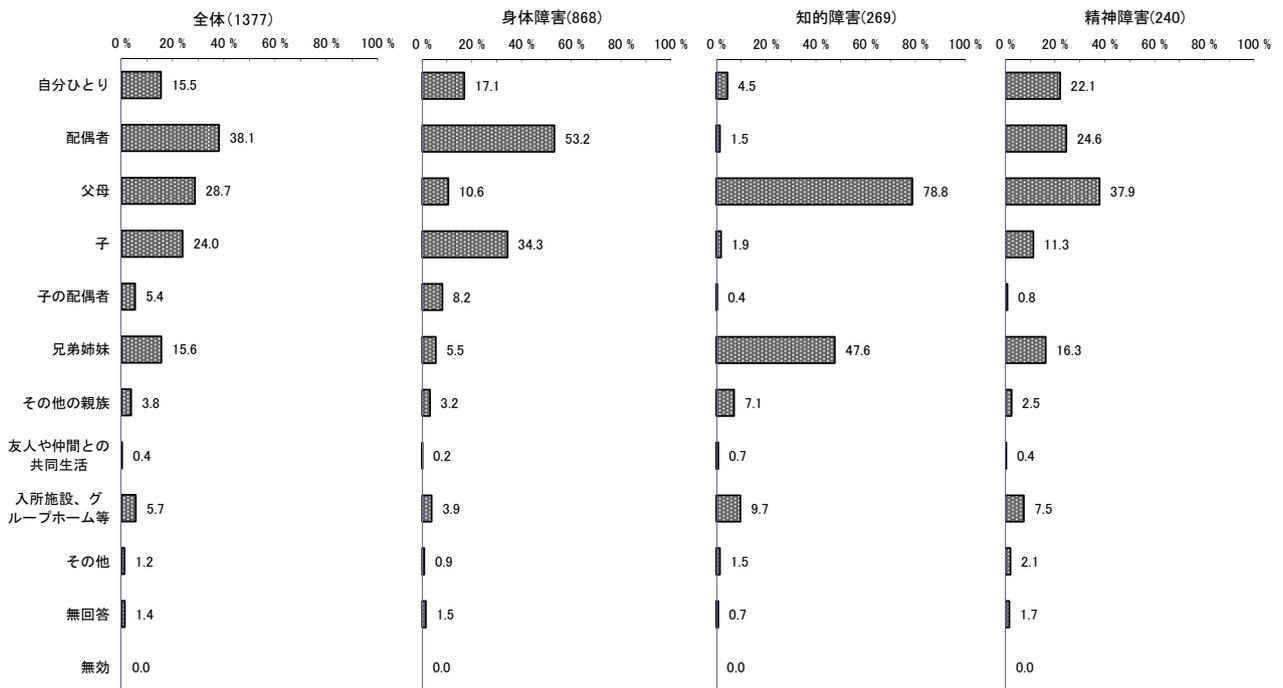




## (5) 同居している方

- 同居している方については、全体では「配偶者」、「父母」、「兄弟姉妹」、「子」が多く、核家族化していることがうかがえる。「自分ひとり」も約16%と比較的多くなっている。
- 身体障害については、「配偶者」「子」が多く、既婚者が多いことがうかがえる。
- 知的障害は、「父母」「兄弟姉妹」が多く、対象者が未成年の若い年代層が多いことから家族と同居していることがうかがえる。また、「入所施設、グループホーム等」が1割程度になっている。
- 精神障害については、他の障害に比べて「自分ひとり」の割合が20%を超えており、入院等で家族から離れて暮らしている人が多いことが推測される。

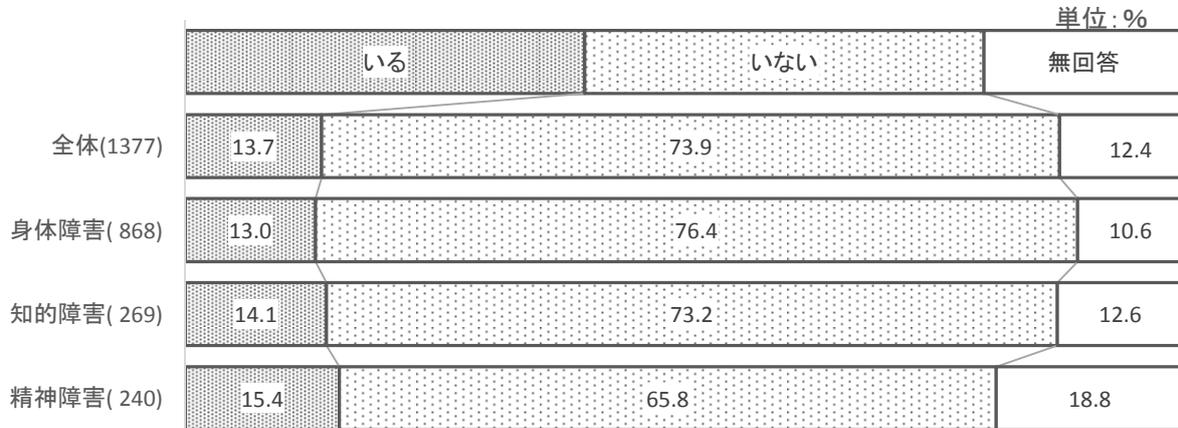
### 問4. 同居している方 × 障害種類別



(6) 本人以外の同居家族で介助が必要な高齢者・障害者・病人等

○本人以外に介助が必要な高齢者等がいるかどうかについては、全体で約 14%の世帯で要介助の人がいる状況である。障害別の大きな傾向の差は見られない。

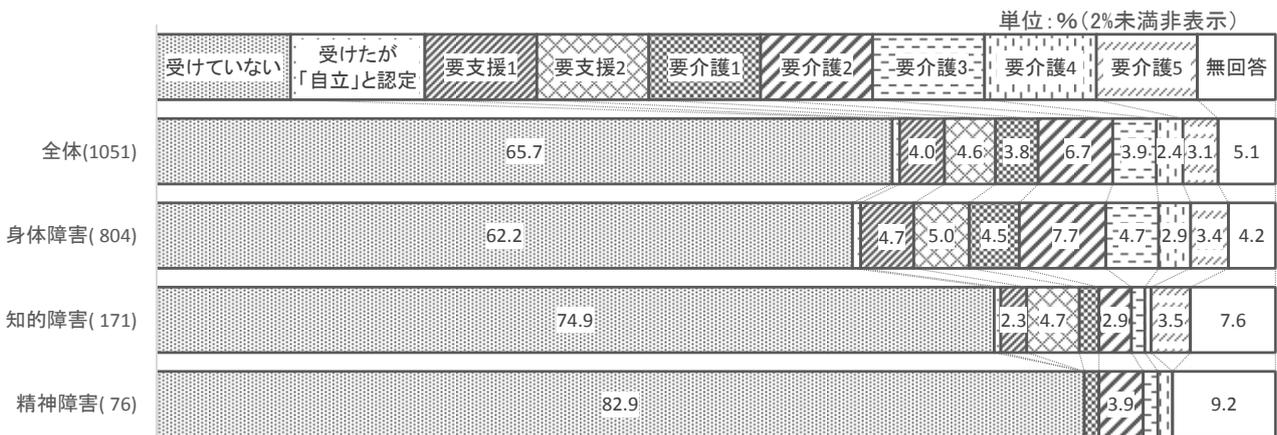
問 5. 本人以外の同居家族で介助が必要な高齢者・障害者・病人等 × 障害種類別



(7) 介護認定

○40 歳以上の人で介護保険制度による要介護認定を受けている人は、全体で 3 割弱となっている。  
 ○障害別では、高齢の人が多い身体障害で認定を受けている人が多く、要介護度が比較的大きい。精神障害は、受けていない割合が多く、身体と比較し 20 ポイントも高くなっている。

問 6. 要介護認定 × 障害種類別



※2%未満数値：全体 (0.7) 身体障害 (0.7) 知的障害 (0.6、1.8、1.2、0.6) 精神障害 (-、-、-、1.3、1.3、1.3、-)

(8) 持っている手帳

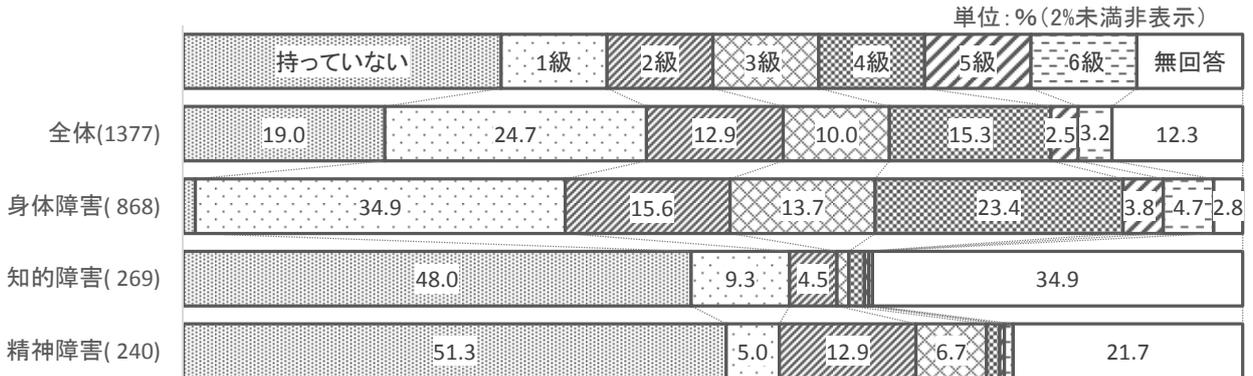
① 身体障害者手帳

○身体障害者手帳については、全体では7割弱の人が所持していると回答している。

○身体障害として調査させていただいた人の中では、「1級」が最も多く約35%、2級の方を合わせると約半数を占めている。

○年齢別では高齢者に手帳所持者が多く、さらに重度の人が多いことがわかる。

問 7. 持っている手帳①身体障害者手帳 × 障害種類別



※2%未満数値：身体障害（1.2）知的障害（1.1、1.5、0.4、0.4）精神障害（1.3、0.4、0.8）

問 7. 持っている手帳①身体障害者手帳 × 年齢別

	全体	持っていない	1級	2級	3級	4級	5級	6級	無回答	
全体	1377	262	340	178	138	210	35	44	170	
	100.0	19.0	24.7	12.9	10.0	15.3	2.5	3.2	12.3	
年齢	0～5歳	17	8	3	-	1	-	-	1	4
		100.0	47.1	17.6	-	5.9	-	-	5.9	23.5
	6～11歳	35	17	5	2	1	1	1	2	6
		100.0	48.6	14.3	5.7	2.9	2.9	2.9	5.7	17.1
	12～14歳	16	9	2	-	1	-	-	-	4
		100.0	56.3	12.5	-	6.3	-	-	-	25.0
	15～17歳	32	14	6	2	3	1	2	-	4
		100.0	43.8	18.8	6.3	9.4	3.1	6.3	-	12.5
	18～19歳	10	6	1	-	1	1	-	-	1
		100.0	60.0	10.0	-	10.0	10.0	-	-	10.0
	20～29歳	81	40	6	8	1	3	1	-	22
		100.0	49.4	7.4	9.9	1.2	3.7	1.2	-	27.2
	30～39歳	112	50	12	6	2	5	1	3	33
		100.0	44.6	10.7	5.4	1.8	4.5	0.9	2.7	29.5
40～49歳	143	48	19	25	6	6	3	6	30	
	100.0	33.6	13.3	17.5	4.2	4.2	2.1	4.2	21.0	
50～59歳	149	31	29	22	19	17	4	6	21	
	100.0	20.8	19.5	14.8	12.8	11.4	2.7	4.0	14.1	
60～64歳	105	14	29	19	11	20	4	1	7	
	100.0	13.3	27.6	18.1	10.5	19.0	3.8	1.0	6.7	
65～74歳	288	12	96	45	36	73	9	9	8	
	100.0	4.2	33.3	15.6	12.5	25.3	3.1	3.1	2.8	
75歳以上	366	13	130	49	55	82	10	15	12	
	100.0	3.6	35.5	13.4	15.0	22.4	2.7	4.1	3.3	
無回答	23	-	2	-	1	1	-	1	18	
	100.0	-	8.7	-	4.3	4.3	-	4.3	78.3	

※クロス項目において上位2位までの割合を網掛け。

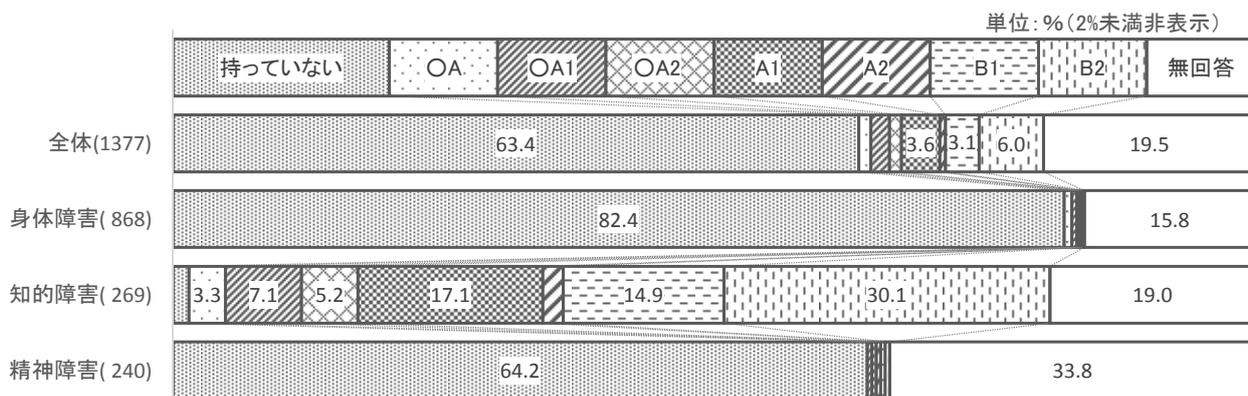
② 療育手帳

○療育手帳については、全体では2割弱の人が所持していると回答している。

○知的障害として調査させていただいた人の中では、「Bの2」が最も多く約30%、ついで「Aの1」が約17%と続いている。

○年齢別で見ると、29歳以下の層で療育手帳を所持している割合が高い。

問 7. 持っている手帳②療育手帳 × 障害種類別



※2%未満数値: 全体 (1.1, 1.7, 1.1, 0.5) 身体障害 (0.7, 0.5, 0.1, 0.2, 0.1, 0.2, -) 知的障害 (1.5, 1.9) 精神障害 (-, 0.4, -, 0.4, 0.4, 0.4, 0.4)

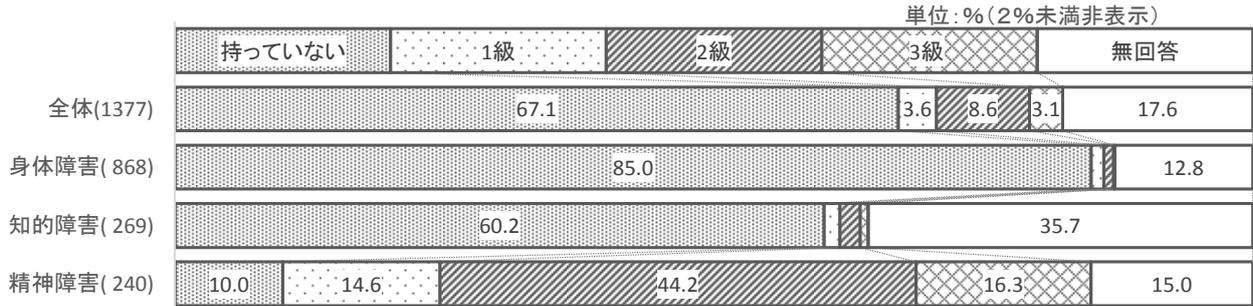
問 7. 持っている手帳②療育手帳 × 年齢別

	全体	持 な っ て い る	○ A	○ A 1	○ A 2	A 1	A 2	B 1	B 2	無 回 答	
全体	1377	873	15	24	15	49	7	43	82	269	
	100.0	63.4	1.1	1.7	1.1	3.6	0.5	3.1	6.0	19.5	
年齢	0~5歳	17	2	-	-	-	1	1	3	7	3
		100.0	11.8	-	-	-	5.9	5.9	17.6	41.2	17.6
	6~11歳	35	3	3	-	-	6	2	7	11	3
		100.0	8.6	8.6	-	-	17.1	5.7	20.0	31.4	8.6
	12~14歳	16	-	2	-	-	2	1	2	6	3
		100.0	-	12.5	-	-	12.5	6.3	12.5	37.5	18.8
	15~17歳	32	5	5	1	-	6	-	1	10	4
		100.0	15.6	15.6	3.1	-	18.8	-	3.1	31.3	12.5
	18~19歳	10	1	2	1	1	-	-	1	3	1
		100.0	10.0	20.0	10.0	10.0	-	-	10.0	30.0	10.0
	20~29歳	81	21	2	7	6	13	-	8	11	13
		100.0	25.9	2.5	8.6	7.4	16.0	-	9.9	13.6	16.0
	30~39歳	112	44	-	5	5	9	-	7	13	29
		100.0	39.3	-	4.5	4.5	8.0	-	6.3	11.6	25.9
40~49歳	143	84	-	4	1	4	2	8	11	29	
	100.0	58.7	-	2.8	0.7	2.8	1.4	5.6	7.7	20.3	
50~59歳	149	98	1	3	1	5	-	2	8	31	
	100.0	65.8	0.7	2.0	0.7	3.4	-	1.3	5.4	20.8	
60~64歳	105	80	-	2	-	-	-	1	1	21	
	100.0	76.2	-	1.9	-	-	-	1.0	1.0	20.0	
65~74歳	288	235	-	1	1	1	1	3	1	45	
	100.0	81.6	-	0.3	0.3	0.3	0.3	1.0	0.3	15.6	
75歳以上	366	298	-	-	-	2	-	-	-	66	
	100.0	81.4	-	-	-	0.5	-	-	-	18.0	
無回答	23	2	-	-	-	-	-	-	-	21	
	100.0	8.7	-	-	-	-	-	-	-	91.3	

③ 精神障害者保健福祉手帳

- 精神障害者保健福祉手帳については、全体では約15%の人が所持していると回答している。
- 精神障害として調査させていただいた人の中では、「2級」が約44%と最も多い。
- 身体障害、知的障害として調査させていただいた人の中で、精神障害者保健福祉手帳を所持している人はわずかである。
- 年齢別では、30～50歳代が比較的多い。

問7. 持っている手帳③精神障害者保健福祉手帳 × 障害種類別



※2%未満数値：身体障害（1.2、0.9、0.1）知的障害（1.5、1.9、0.7）

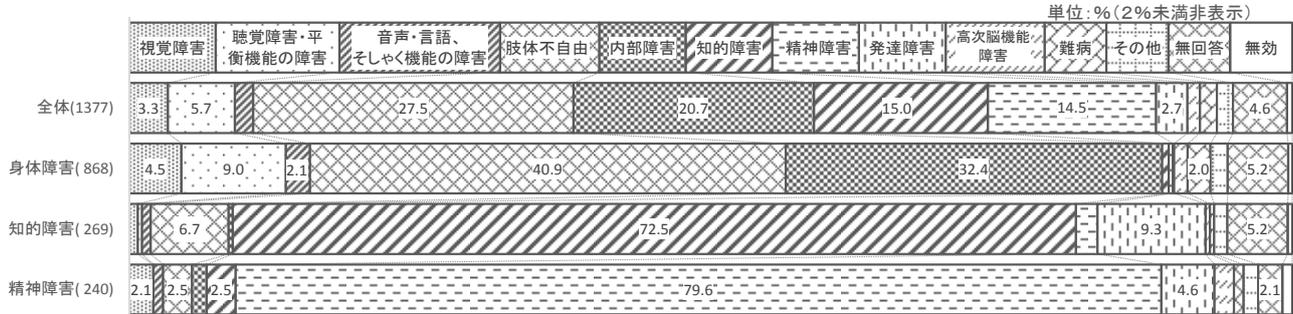
問7. 持っている手帳③精神障害者保健福祉手帳 × 年齢別

	全体	持っていない	1級	2級	3級	無回答
全体	1377	924	49	119	42	243
	100.0	67.1	3.6	8.6	3.1	17.6
年齢	0～5歳	17	13	-	-	4
		100.0	76.5	-	-	23.5
	6～11歳	35	26	-	1	8
		100.0	74.3	-	2.9	22.9
	12～14歳	16	12	-	-	4
		100.0	75.0	-	-	25.0
	15～17歳	32	22	-	-	10
		100.0	68.8	-	-	31.3
	18～19歳	10	9	-	1	-
		100.0	90.0	-	10.0	-
	20～29歳	81	42	1	8	4
		100.0	51.9	1.2	9.9	4.9
	30～39歳	112	47	6	26	11
		100.0	42.0	5.4	23.2	9.8
40～49歳	143	64	7	30	11	
	100.0	44.8	4.9	21.0	7.7	
50～59歳	149	85	6	25	8	
	100.0	57.0	4.0	16.8	5.4	
60～64歳	105	72	7	10	3	
	100.0	68.6	6.7	9.5	2.9	
65～74歳	288	229	9	12	1	
	100.0	79.5	3.1	4.2	0.3	
75歳以上	366	298	9	4	2	
	100.0	81.4	2.5	1.1	0.5	
無回答	23	5	4	2	2	
	100.0	21.7	17.4	8.7	8.7	

(9) 主たる障害

○生活に最も影響のある障害の種類（主たる障害）については、「肢体不自由」が約28%を占め、「内部障害」（約21%）、「知的障害」（約15%）と続いている。

問 8. ①生活にもっとも影響のある障害（主たる障害） × 障害種類別



※2%未満数値：全体（1.6、1.1、1.5、1.4、0.4）身体障害（0.6、0.3、0.1、1.2、1.5、0.3）知的障害（0.7、0.4、0.7、0.4、1.9、0.4、0.4、1.1、0.4）精神障害（-、0.8、1.3、1.7、0.8、1.3、0.8）

○年齢別にみると、主たる障害として「知的障害」を挙げる割合は子どもや若年層に多く、「肢体不自由」「内部障害」は高齢層に多いことがわかる。

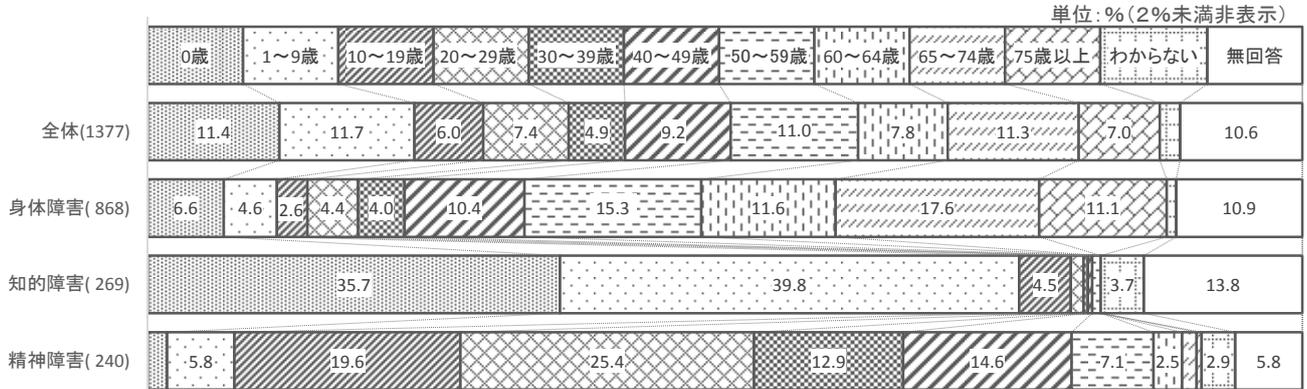
問 8. ①生活にもっとも影響のある障害（主たる障害） × 年齢別

	全体	視覚障害	聴覚障害・平衡機能の障害	音声・言語、そしゃく機能の障害	肢体不自由	内部障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他	無回答	無効
全体	1377	46	79	22	379	285	206	199	37	15	20	19	64	6
	100.0	3.3	5.7	1.6	27.5	20.7	15.0	14.5	2.7	1.1	1.5	1.4	4.6	0.4
年齢	0～5歳	17	-	-	1	3	1	7	-	4	-	1	-	-
		100.0	-	-	5.9	17.6	5.9	41.2	-	23.5	-	5.9	-	-
	6～11歳	35	-	1	1	8	-	15	-	9	-	-	-	1
		100.0	-	2.9	2.9	22.9	-	42.9	-	25.7	-	-	-	2.9
	12～14歳	16	-	-	-	-	-	11	-	3	-	-	-	2
		100.0	-	-	-	-	-	68.8	-	18.8	-	-	-	12.5
	15～17歳	32	-	4	-	4	-	18	-	2	1	1	-	1
		100.0	-	12.5	-	12.5	-	56.3	-	6.3	3.1	3.1	-	3.1
	18～19歳	10	-	-	-	-	1	7	1	-	-	-	-	-
		100.0	-	-	-	-	10.0	70.0	10.0	-	-	-	-	-
	20～29歳	81	-	3	-	10	1	48	10	7	-	-	-	2
		100.0	-	3.7	-	12.3	1.2	59.3	12.3	8.6	-	-	-	2.5
	30～39歳	112	2	4	-	10	5	35	40	8	1	-	-	7
	100.0	1.8	3.6	-	8.9	4.5	31.3	35.7	7.1	0.9	-	-	6.3	
40～49歳	143	3	10	2	17	15	30	54	3	-	3	2	3	
	100.0	2.1	7.0	1.4	11.9	10.5	21.0	37.8	2.1	-	2.1	1.4	2.1	
50～59歳	149	5	10	4	35	20	17	45	-	4	1	2	6	
	100.0	3.4	6.7	2.7	23.5	13.4	11.4	30.2	-	2.7	0.7	1.3	4.0	
60～64歳	105	3	3	2	42	20	5	17	1	-	3	1	7	
	100.0	2.9	2.9	1.9	40.0	19.0	4.8	16.2	1.0	-	2.9	1.0	6.7	
65～74歳	288	13	15	5	108	89	6	20	-	7	4	8	11	
	100.0	4.5	5.2	1.7	37.5	30.9	2.1	6.9	-	2.4	1.4	2.8	3.8	
75歳以上	366	19	29	6	136	128	3	8	-	1	7	6	23	
	100.0	5.2	7.9	1.6	37.2	35.0	0.8	2.2	-	0.3	1.9	1.6	6.3	
無回答	23	1	-	1	6	5	4	4	-	1	-	-	1	
	100.0	4.3	-	4.3	26.1	21.7	17.4	17.4	-	4.3	-	-	4.3	

(10) 障害が生じた年齢

- 障害の生じた年齢については、身体障害では概ね50歳以上で多くなっている。
- 知的障害では、10歳未満が75%程度と誕生当初からの障害発生がほとんどを占める。
- 精神障害では、20歳代が約25%と最も多くなっているが、10～40歳代の若青年層で生じている。

問 8. ②障害が生じた年齢 × 障害種類別



※2%未満数値: 全体 (1.7) 身体障害 (0.8) 知的障害 (1.1、0.4、0.4、0.7、-、-) 精神障害 (1.7、1.3、0.4)

- 主たる障害者が生じた年齢については、10歳未満で「知的障害」「聴覚障害・平衡機能の障害」「発達障害」が多く、10～20歳代で「精神障害」、50歳以上で「音声・言語、そしゃく機能の障害」「肢体不自由」「内部障害」「高次脳機能障害」が多くなっている。

問 8. ②障害が生じた年齢 × 主たる障害別

	全体	(出生前0歳を含む)	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳代	75歳以上	わからない	無回答	
全体	1377	157	161	82	102	67	126	152	107	156	97	24	146	
	100.0	11.4	11.7	6.0	7.4	4.9	9.2	11.0	7.8	11.3	7.0	1.7	10.6	
主たる障害	視覚障害	46	5	2	3	4	1	8	7	4	3	6	2	1
		100.0	10.9	4.3	6.5	8.7	2.2	17.4	15.2	8.7	6.5	13.0	4.3	2.2
	聴覚障害・平衡機能の障害	79	14	16	4	3	4	13	6	6	5	1	2	5
		100.0	17.7	20.3	5.1	3.8	5.1	16.5	7.6	7.6	6.3	1.3	2.5	6.3
	音声・言語、そしゃく機能の障害	22	3	1	1	-	-	2	5	4	6	-	-	-
		100.0	13.6	4.5	4.5	-	-	9.1	22.7	18.2	27.3	-	-	-
	肢体不自由	379	34	28	11	18	18	40	55	41	62	36	1	35
		100.0	9.0	7.4	2.9	4.7	4.7	10.6	14.5	10.8	16.4	9.5	0.3	9.2
	内部障害	285	7	-	2	12	9	27	49	38	66	47	1	27
		100.0	2.5	-	0.7	4.2	3.2	9.5	17.2	13.3	23.2	16.5	0.4	9.5
	知的障害	206	75	85	12	3	1	1	1	-	-	-	7	21
		100.0	36.4	41.3	5.8	1.5	0.5	0.5	0.5	-	-	-	3.4	10.2
	精神障害	199	-	7	44	53	29	27	13	6	2	-	5	13
		100.0	-	3.5	22.1	26.6	14.6	13.6	6.5	3.0	1.0	-	2.5	6.5
発達障害	37	11	15	2	1	1	1	-	-	-	-	3	3	
	100.0	29.7	40.5	5.4	2.7	2.7	2.7	-	-	-	-	8.1	8.1	
高次脳機能障害	15	-	-	3	-	2	1	3	3	3	-	-	-	
	100.0	-	-	20.0	-	13.3	6.7	20.0	20.0	20.0	-	-	-	
難病	20	2	-	-	2	1	1	8	-	3	2	-	1	
	100.0	10.0	-	-	10.0	5.0	5.0	40.0	-	15.0	10.0	-	5.0	
その他	19	-	1	-	2	-	2	2	2	4	2	1	3	
	100.0	-	5.3	-	10.5	-	10.5	10.5	10.5	21.1	10.5	5.3	15.8	
無回答	64	4	5	-	3	1	3	3	2	2	3	2	36	
	100.0	6.3	7.8	-	4.7	1.6	4.7	4.7	3.1	3.1	4.7	3.1	56.3	
無効	6	2	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	
	100.0	33.3	16.7	-	16.7	-	-	-	16.7	-	-	-	16.7	

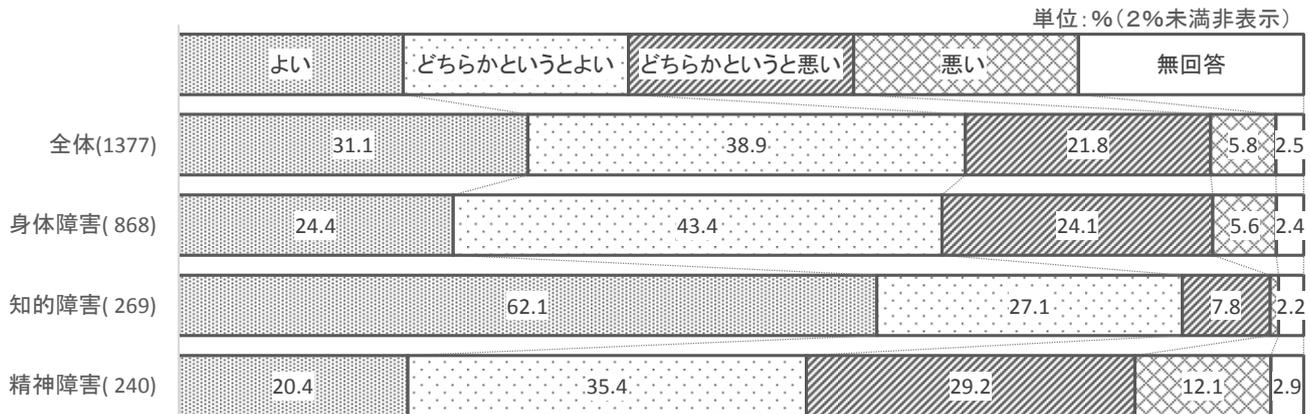
## 2 健康について

### (1) 健康状態

○この1か月程度の健康状態については、全体では「よい」「どちらかというといよい」とする人は約70%で大半を占める。

○健康状態がよい人は知的障害で多く、思わしくない人は、精神障害で比較的多い。

#### 問 9. 健康状態 × 障害種類別



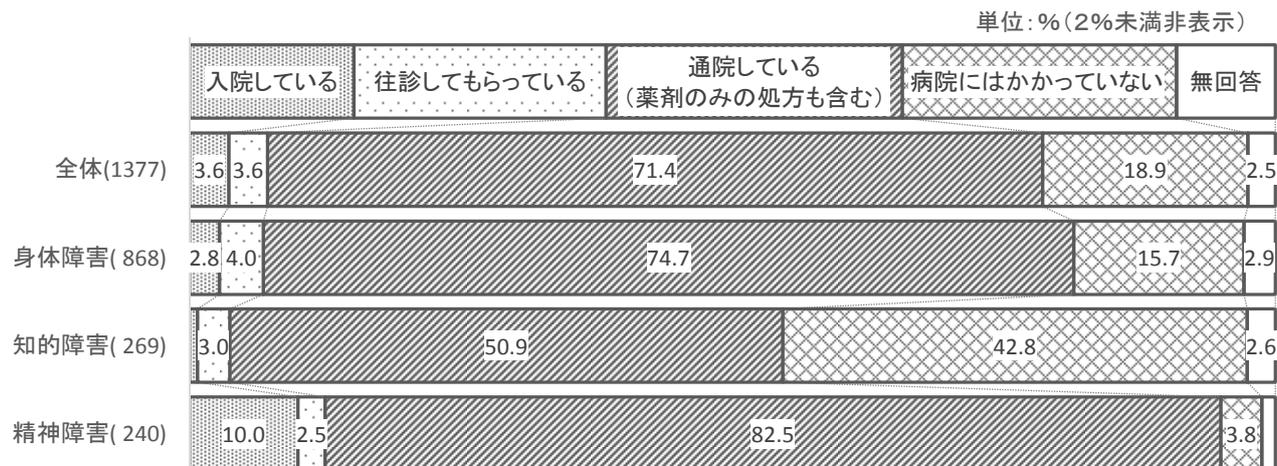
※2%未満数値：知的障害 (0.7)

### (2) 治療中か否かの状況

○健診・検診以外に、治療のために医療機関に通院・入院しているか否かについては、「通院している」人が7割以上を占め、「病院にかかっていない」人は、2割弱にとどまる。

○身体障害、精神障害では、「通院している」割合が知的障害よりも高い。特に、精神障害は「通院している」が8割以上と3障害の中で最も高く、また、「入院している」についても全体より高く1割を占めている。

#### 問 10. 治療中か否かの状況 × 障害種類別

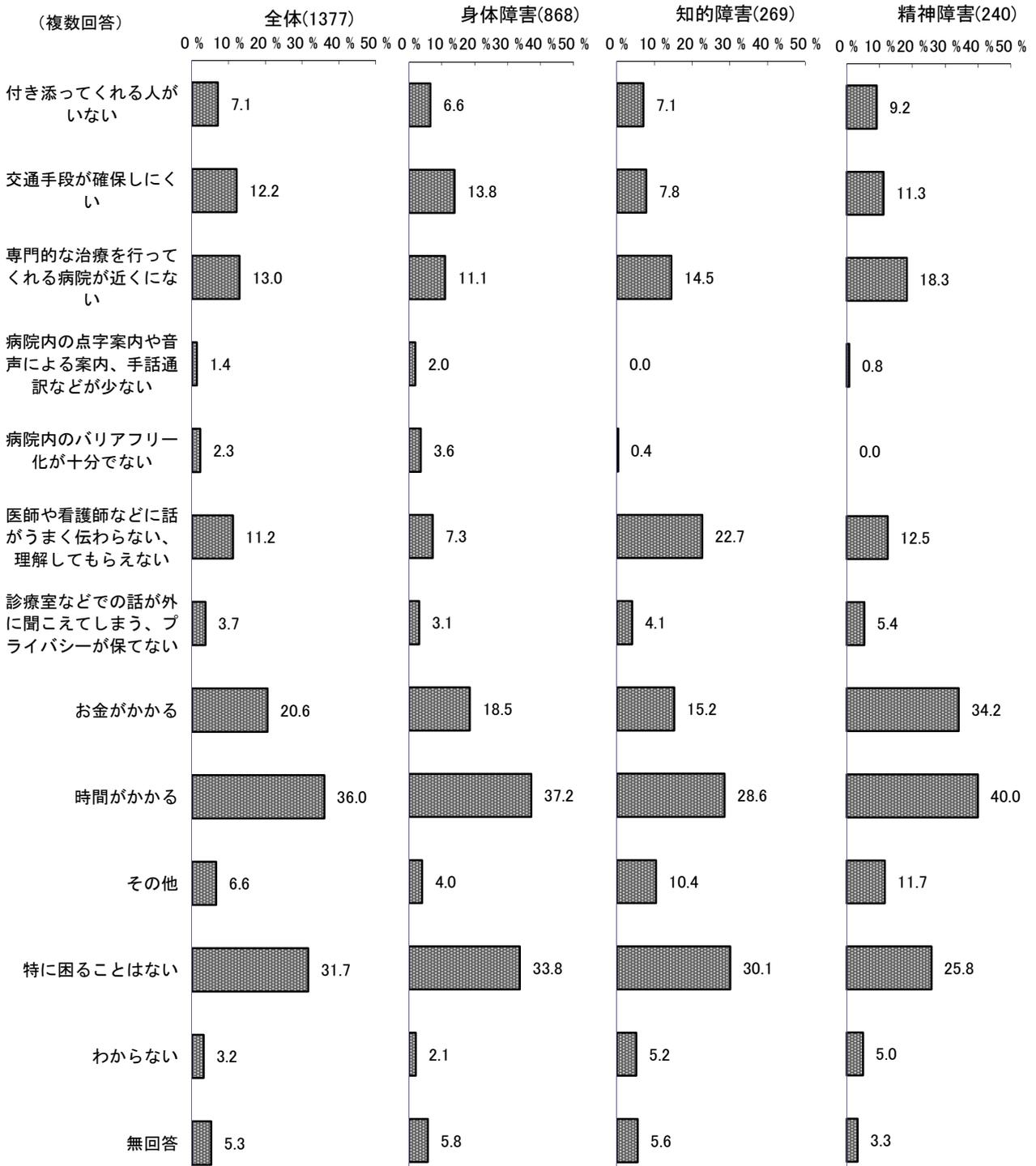


※2%未満数値：知的障害 (0.7) 精神障害 (1.3)

### (3) 病院等を利用するときに不便を感じること

- 全体では、「時間がかかる」という意見が約 36%と最も多く、次いで「お金がかかる」、「専門的な治療を行ってくれる病院が近くにない」、「交通手段が確保しにくい」が多い。一方で、「特に困ることはない」という人も約 32%と比較的多い。
- 障害別では、知的障害で「医師や看護師に話が伝わらない、理解してもらえない」が約 23%、精神障害で「お金がかかる」が約 34%と他障害と比較すると 10 ポイント程度高くなっている。

問 11. 病院等を利用するときに不便を感じること × 障害種類別



- 主たる障害別にみると、「医師や看護師に話が伝わらない、理解してもらえない」というコミュニケーションの難しさを挙げる人は、難病・高次脳機能障害・発達障害で20～30%と高く、また聴覚障害・平衡機能の障害や音声・言語、そしゃく機能の障害でも10～20%と高くなっている。
- 「交通手段が確保しにくい」については、音声・言語、そしゃく機能の障害が約23%と最も高く、ついで難病（20%）、肢体不自由（約17%）と続いている。
- 「専門的な治療を行ってくれる病院が近くにない」については、難病で35%と最も高く、ついで発達障害（約19%）、視覚障害（約17%）と続いている。

問 11. 病院等を利用するとき不便を感じる事 ×主たる障害別

	全体	付き添って くれる人が ない	交通手段が 確保しにく い	専門的な治 療を行って くれる病 院が近く にない	病院内の 点字案内 や音声 などが少 ない	病院内の バリアフ リー化 が十分で ない	医師や 看護師 などに 話が うまく 伝わら ない、 理解 し て もら え な い	診察室 などで の話が 外に 聞こ えて しま う、 ブラ イ バシ ーが 保 て な い	お 金 が か か る	時 間 が か か る	そ の 他	特 に 困 る こ と は な い	わ か ら な い	無 回 答	
全体	1377 100.0	98 7.1	168 12.2	179 13.0	19 1.4	32 2.3	154 11.2	51 3.7	284 20.6	496 36.0	91 6.6	436 31.7	44 3.2	73 5.3	
主たる障害	視覚障害	46 100.0	3 6.5	6 13.0	8 17.4	3 6.5	3 6.5	5 10.9	5 10.9	7 15.2	20 43.5	- -	14 30.4	1 2.2	1 2.2
	聴覚障害・平衡機能の障害	79 100.0	6 7.6	4 5.1	6 7.6	14 17.7	3 3.8	15 19.0	1 1.3	9 11.4	18 22.8	7 8.9	27 34.2	6 7.6	3 3.8
	音声・言語、そしゃく機能の障害	22 100.0	1 4.5	5 22.7	3 13.6	- -	1 4.5	3 13.6	1 4.5	6 27.3	9 40.9	- -	9 40.9	1 4.5	2 9.1
	肢体不自由	379 100.0	32 8.4	63 16.6	45 11.9	- -	17 4.5	23 6.1	11 2.9	78 20.6	147 38.8	20 5.3	125 33.0	4 1.1	14 3.7
	内部障害	285 100.0	9 3.2	37 13.0	31 10.9	1 0.4	4 1.4	11 3.9	9 3.2	50 17.5	116 40.7	7 2.5	108 37.9	2 0.7	12 4.2
	知的障害	206 100.0	14 6.8	14 6.8	29 14.1	- -	1 0.5	49 23.8	8 3.9	31 15.0	59 28.6	19 9.2	62 30.1	11 5.3	9 4.4
	精神障害	199 100.0	18 9.0	23 11.6	33 16.6	1 0.5	1 0.5	24 12.1	10 5.0	72 36.2	76 38.2	19 9.5	53 26.6	11 5.5	8 4.0
	発達障害	37 100.0	3 8.1	1 2.7	7 18.9	- -	- -	8 21.6	3 8.1	8 21.6	12 32.4	10 27.0	6 16.2	2 5.4	1 2.7
	高次脳機能障害	15 100.0	1 6.7	2 13.3	1 6.7	- -	1 6.7	5 33.3	- -	1 6.7	6 40.0	3 20.0	2 13.3	- -	- -
	難病	20 100.0	1 5.0	4 20.0	7 35.0	- -	- -	7 35.0	2 10.0	8 40.0	13 65.0	1 5.0	2 10.0	2 10.0	- -
	その他	19 100.0	2 10.5	1 5.3	2 10.5	- -	- -	1 5.3	- -	2 10.5	7 36.8	3 15.8	5 26.3	2 10.5	3 15.8
	無回答	64 100.0	7 10.9	7 10.9	6 9.4	- -	- -	2 3.1	1 1.6	9 14.1	11 17.2	1 1.6	21 32.8	2 3.1	19 29.7
	無効	6 100.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	- -	1 16.7	1 16.7	- -	3 50.0	2 33.3	1 16.7	2 33.3	- -	1 16.7

### 3 暮らしを取り巻く環境について

#### (1) 生活環境等の重要度・満足度

##### ① 重要度

- 暮らしを取り巻く環境について、20項目にわたり、その重要性を5段階で評価いただいたところ、全体では、「(10) 安心して暮らし続けられる住まいがある」「(17) 費用の心配をせずに必要な医療を受けられる」「(9) 暮らしに困らないだけの収入がある」の3項目を重視する意識が強い。
- 地域別では、「(2) 困ったとき周囲の人が手助けしてくれる」「(3) 相談できるところが身近にある」等全体的に南部が重視する傾向が強く、西部が弱くなっている。
- 年齢別では、子どもから若年層にかけて、全体的に重要度が高く、様々な生活環境に適応できるきめ細かな生活環境整備が必要とされている。

##### ② 満足度

- 同様の項目について実際の満足度を評価いただいたところ、「(10) 安心して暮らし続けられる住まいがある」「(17) 費用の心配をせずに必要な医療を受けられる」において、2割以上が満足と感じ、一方、「(9) 暮らしに困らないだけの収入がある」「(6) 外に出かけても事故やけがの心配がない」「(7) 災害の情報収集や災害発生時に安全に避難できる」においては、2割以上が不満を感じている。
- 年齢別では、18歳未満の子どもについて、外出時や災害時での安全性、職場の選択、リハビリテーションの機会などについて、厳しい評価となっている。

##### ③ 重要度と満足度の差

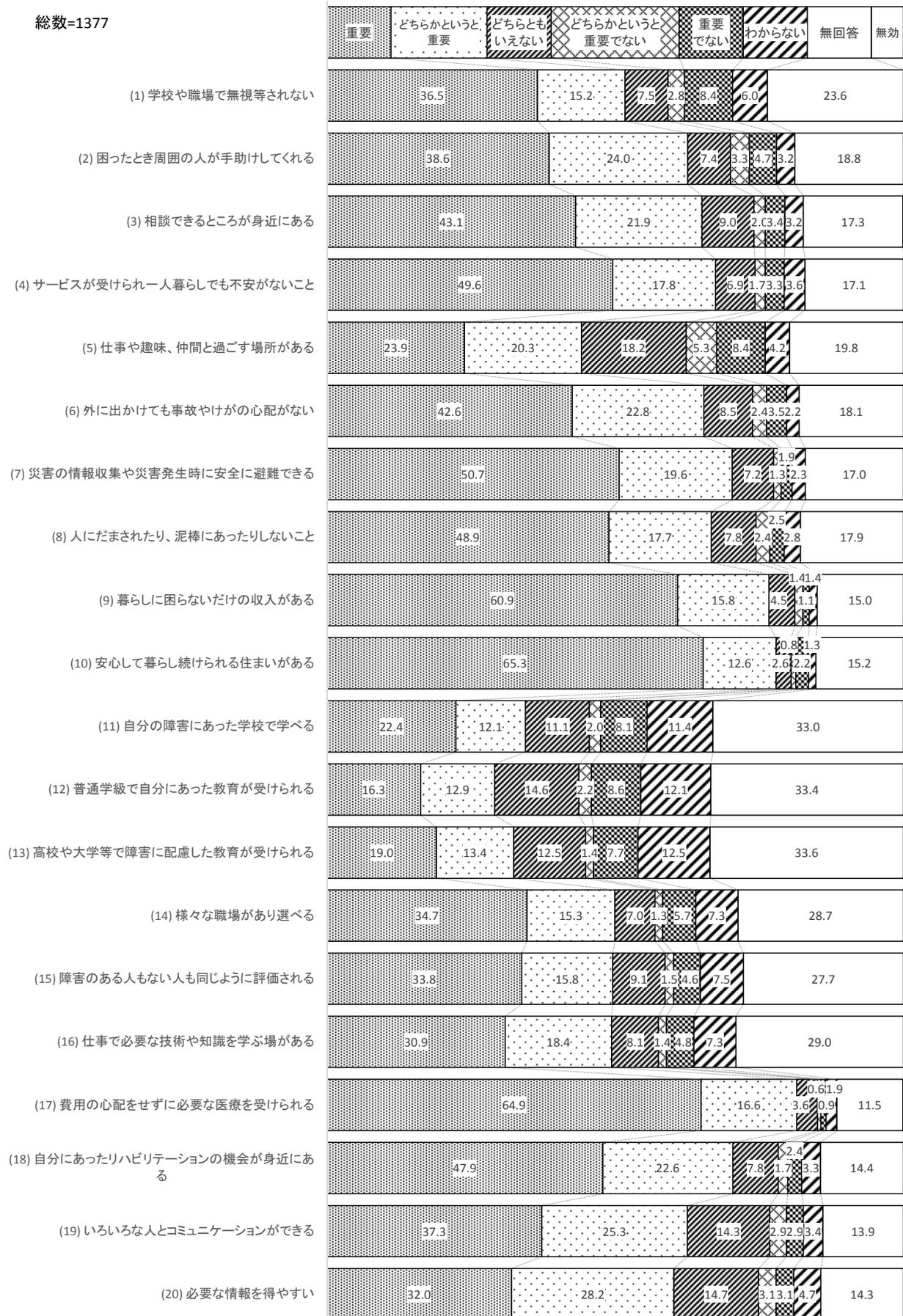
- 重要度に対して満足度が低いものほど、対応策のニーズが高いと考えられることから、両者の平均点の差を見てみると、「(9) 暮らしに困らないだけの収入がある」「(7) 災害の情報収集や災害発生時に安全に避難できる」などで特に差が大きくなっている。一方、「(11) 自分の障害にあった学校で学べる」「(12) 普通学級で自分にあった教育が受けられる」など教育面に関しては、差は小さくなった。
- 主な障害の種類別では、発達障害や精神障害、高次脳機能障害において、他の障害と比較すると、特に外出時や災害時の安全性、職場の選択、仕事に必要な技術や知識を学ぶ機会などの項目で重要度と満足度の差が大きくなっている。
- 地域別では、東部において外出時や災害時の安全性、リハビリテーションの機会において、重要度と満足度の差が大きくなっている。
- 年齢別では、全体的に30歳未満の年齢層で重要度と満足度の差が大きい傾向が見られる。

※平均点とは、重要（満足）を2点、どちらかという重要（満足）を1点、どちらかともいえないを0点、どちらかという重要ではない（不満）を-1点、重要でない（不満）を-2点として各選択肢の回答者数を乗じて求めた得点の合計を回答者数合計数で割って算出した値である。

問 12. 生活環境等の重要度 × 全体

単位：%

総数=1377



問 12. 生活環境等の重要度 × 障害種類別

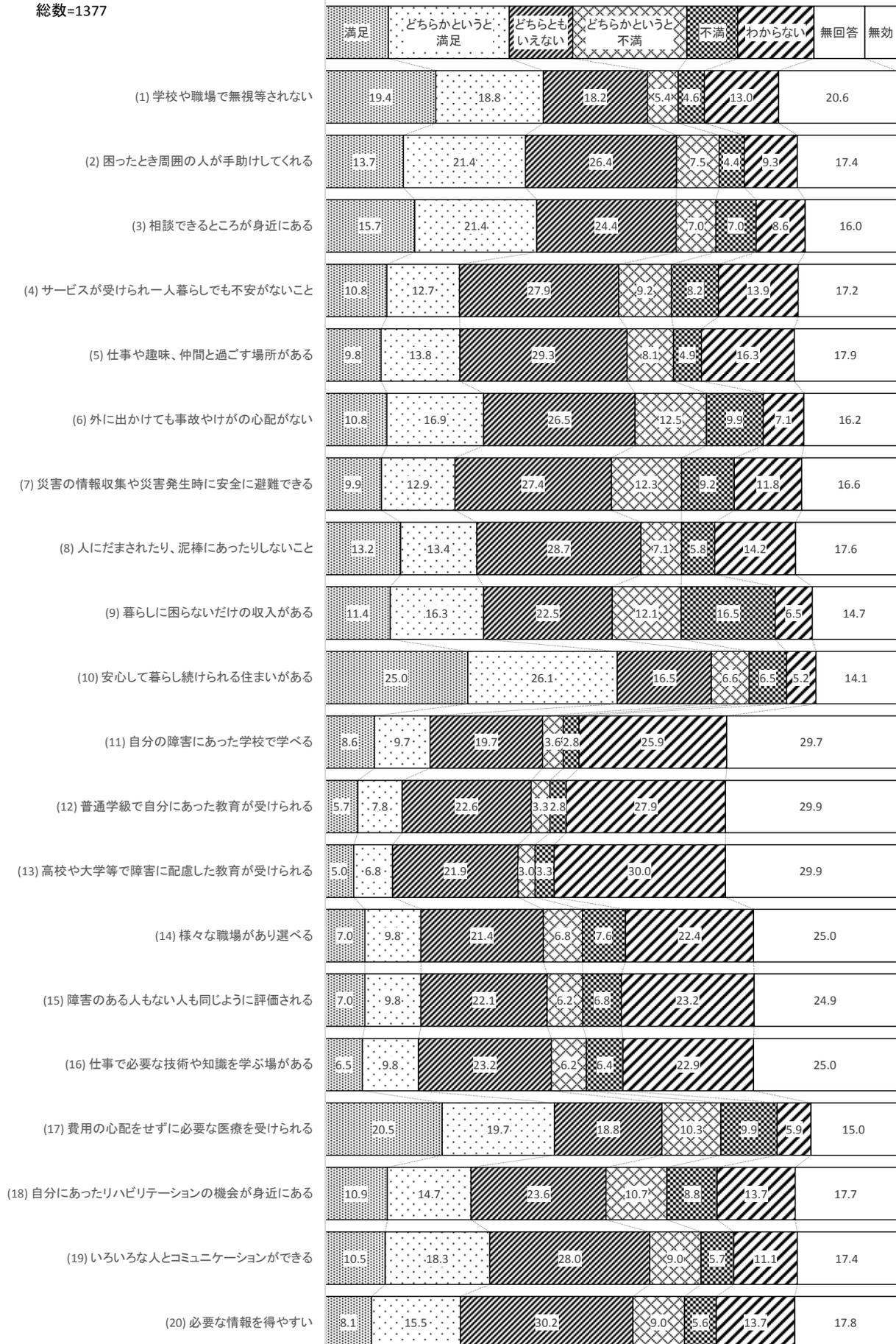
	障害種類	重要	どちらかとい うと重要	どちらともい えない	どちらかとい うと重要でない	重要でない	わからない	無回答	「重要」と「どち らか」というと重 要」の計	「重要でない」 と「どちらかとい うと重要でない」の計
(1) 学校や職場で無視させられない	全体	36.5	15.2	7.5	2.8	8.4	6.0	23.6	51.7	11.2
	身体障害	33.2	15.3	7.8	3.6	12.1	7.1	20.9	48.5	15.7
	知的障害	43.5	17.1	6.3	1.1	1.1	4.1	26.8	60.6	2.2
	精神障害	40.8	12.5	7.5	2.1	2.9	4.2	30.0	53.3	5.0
(2) 困ったとき周囲の人が手助けしてくれる	全体	38.6	24.0	7.4	3.3	4.7	3.2	18.8	62.6	8.0
	身体障害	37.2	25.8	7.7	3.2	5.5	3.8	16.7	63.0	8.8
	知的障害	45.4	20.8	6.3	1.9	1.5	1.5	22.7	66.2	3.3
	精神障害	35.8	21.3	7.5	5.0	5.4	2.9	22.1	57.1	10.4
(3) 相談できるところが身近にある	全体	43.1	21.9	9.0	2.0	3.4	3.2	17.3	65.1	5.4
	身体障害	38.2	23.2	12.1	2.4	4.6	4.0	15.4	61.4	7.0
	知的障害	50.6	22.3	3.3	0.7	0.7	1.5	20.8	72.9	1.5
	精神障害	52.5	17.1	4.2	1.7	2.1	2.1	20.0	69.6	3.8
(4) サービスが受けられ一人暮らしでも不安がない	全体	49.6	17.8	6.9	1.7	3.3	3.6	17.1	67.4	5.0
	身体障害	49.2	18.8	6.9	1.7	3.7	4.5	15.2	68.0	5.4
	知的障害	53.9	16.4	6.3	0.7	0.7	2.2	19.7	70.3	1.5
	精神障害	46.3	15.8	7.5	2.9	4.6	2.1	20.8	62.1	7.5
(5) 仕事や趣味、仲間と過ごす場所がある	全体	23.9	20.3	18.2	5.3	8.4	4.2	19.8	44.2	13.7
	身体障害	19.1	19.8	20.9	6.5	10.6	5.5	17.6	38.9	17.1
	知的障害	40.1	22.3	9.7	2.6	1.1	0.4	23.8	62.5	3.7
	精神障害	22.9	19.6	17.9	4.2	8.8	3.8	22.9	42.5	12.9
(6) 外に出かけても事故やけがの心配がない	全体	42.6	22.8	8.5	2.4	3.5	2.2	18.1	65.4	5.9
	身体障害	45.3	23.4	6.9	2.1	4.1	2.3	15.9	68.7	6.2
	知的障害	42.8	21.9	10.0	1.5	1.1	0.7	21.9	64.7	2.6
	精神障害	32.5	21.7	12.5	4.6	3.8	3.3	21.7	54.2	8.3
(7) 災害の情報収集や災害発生時に安全に避難できる	全体	50.7	19.6	7.2	1.3	1.9	2.3	17.0	70.3	3.2
	身体障害	52.2	19.2	6.8	1.5	2.1	2.5	15.7	71.4	3.6
	知的障害	51.7	21.9	5.9	0.7	0.7	0.7	18.2	73.6	1.5
	精神障害	44.2	18.3	10.0	1.3	2.5	3.3	20.4	62.5	3.8
(8) 人にだまされたり、泥棒にあたりしない	全体	48.9	17.7	7.8	2.4	2.5	2.8	17.9	66.7	4.9
	身体障害	46.8	18.2	9.0	2.9	3.3	3.6	16.2	65.0	6.2
	知的障害	55.0	17.5	5.2	0.7	0.4	1.1	20.1	72.5	1.1
	精神障害	50.0	16.3	6.3	2.5	1.7	2.1	21.3	66.3	4.2
(9) 暮らしに困らないだけの収入がある	全体	60.9	15.8	4.5	1.4	1.1	1.4	15.0	76.7	2.5
	身体障害	59.2	17.6	5.1	1.8	1.3	1.6	13.4	76.8	3.1
	知的障害	59.9	15.6	4.1	0.4	1.5	0.7	17.8	75.5	1.9
	精神障害	67.9	9.6	2.9	0.8	0.0	1.3	17.5	77.5	0.8
(10) 安心して暮らし続けられる住まいがある	全体	65.3	12.6	2.6	0.8	2.2	1.3	15.2	77.9	3.0
	身体障害	63.5	14.9	2.9	0.9	3.0	1.2	13.7	78.3	3.9
	知的障害	70.3	6.7	2.2	0.4	1.1	1.5	17.8	77.0	1.5
	精神障害	66.3	11.3	2.1	0.8	0.4	1.7	17.5	77.5	1.3
(11) 自分の障害にあった学校で学べる	全体	22.4	12.1	11.1	2.0	8.1	11.4	33.0	34.4	10.0
	身体障害	19.8	11.9	12.9	2.1	9.3	14.5	29.5	31.7	11.4
	知的障害	36.1	12.6	7.1	0.4	3.7	3.3	36.8	48.7	4.1
	精神障害	16.3	12.1	9.2	3.3	8.3	9.2	41.7	28.3	11.7
(12) 普通学級で自分にあった教育が受けられる	全体	16.3	12.9	14.6	2.2	8.6	12.1	33.4	29.1	10.7
	身体障害	16.5	12.6	14.6	2.1	9.8	14.5	30.0	29.0	11.9
	知的障害	20.1	13.8	16.7	2.6	5.2	4.1	37.5	33.8	7.8
	精神障害	11.3	12.9	12.1	2.1	7.9	12.5	41.3	24.2	10.0
(13) 高校や大学等で障害に配慮した教育が受けられる	全体	19.0	13.4	12.5	1.4	7.7	12.5	33.6	32.4	9.1
	身体障害	18.4	13.5	13.1	1.4	8.9	14.6	30.1	31.9	10.3
	知的障害	23.0	13.4	13.0	0.7	5.2	6.7	37.9	36.4	5.9
	精神障害	16.7	12.9	9.6	2.1	6.3	11.3	41.3	29.6	8.3
(14) 様々な職場があり選べる	全体	34.7	15.3	7.0	1.3	5.7	7.3	28.7	50.0	7.0
	身体障害	31.3	16.5	7.5	1.5	7.6	9.0	26.6	47.8	9.1
	知的障害	43.5	14.1	5.9	1.5	1.1	2.6	31.2	57.6	2.6
	精神障害	37.1	12.1	6.3	0.4	4.2	6.7	33.3	49.2	4.6
(15) 障害のある人もない人も同じように評価される	全体	33.8	15.8	9.1	1.5	4.6	7.5	27.7	49.6	6.1
	身体障害	33.4	16.0	9.1	1.4	6.0	8.4	25.7	49.4	7.4
	知的障害	32.7	16.7	11.5	2.2	1.9	4.8	30.1	49.4	4.1
	精神障害	36.3	14.2	6.3	0.8	2.9	7.1	32.5	50.4	3.8
(16) 仕事に必要な技術や知識を学ぶ場がある	全体	30.9	18.4	8.1	1.4	4.8	7.3	29.0	49.4	6.2
	身体障害	30.6	18.4	8.5	1.4	6.2	8.1	26.7	49.1	7.6
	知的障害	30.1	19.7	10.0	1.9	1.1	5.6	31.6	49.8	3.0
	精神障害	32.9	17.1	4.6	0.8	3.8	6.3	34.6	50.0	4.6
(17) 費用の心配をせずに、必要な医療を受けられる	全体	64.9	16.6	3.6	0.6	0.9	1.9	11.5	81.5	1.5
	身体障害	61.1	16.2	3.8	0.8	1.3	1.6	15.1	77.3	2.1
	知的障害	68.0	18.6	4.8	0.0	0.4	2.2	5.9	86.6	0.4
	精神障害	75.4	15.4	1.7	0.4	0.0	2.5	4.6	90.8	0.4
(18) 自分にあったリハビリテーションの機会が身近にある	全体	47.9	22.6	7.8	1.7	2.4	3.3	14.4	70.4	4.1
	身体障害	47.1	21.3	6.7	1.3	3.0	3.0	17.6	68.4	4.3
	知的障害	49.4	23.8	10.4	2.6	0.7	3.0	10.0	73.2	3.3
	精神障害	48.8	25.8	9.2	2.1	2.1	4.6	7.5	74.6	4.2
(19) いろいろな人とコミュニケーションができる	全体	37.3	25.3	14.3	2.9	2.9	3.4	13.9	62.5	5.8
	身体障害	35.1	23.3	14.6	2.5	3.7	3.3	17.4	58.4	6.2
	知的障害	41.3	31.2	13.8	1.9	0.7	3.0	8.2	72.5	2.6
	精神障害	40.4	25.8	13.8	5.4	2.5	4.2	7.9	66.3	7.9
(20) 必要な情報を得やすい	全体	32.0	28.2	14.7	3.1	3.1	4.7	14.3	60.2	6.1
	身体障害	31.2	26.5	13.5	2.9	3.8	4.1	18.0	57.7	6.7
	知的障害	29.0	32.3	19.0	3.7	1.5	5.2	9.3	61.3	5.2
	精神障害	38.3	29.6	14.2	2.9	2.1	6.3	6.7	67.9	5.0

※無効：「(3)相談できるところが身近にある」(全体 0.1,精神障害 0.4)、「(17)費用を心配せずに、必要な医療を受けられる」(全体 0.1, 身体障害 0.1)

問 13. 生活環境等の満足度 × 全体

単位：%

総数=1377



問 13. 生活環境等の満足度 × 障害種類別

	障害種類	満足	どちらかという満足	どちらともいえない	どちらかという不満	不満	わからない	無回答	「満足」と「どちらかという満足」の計	「不満」と「どちらかという不満」の計
(1) 障害があるからといって、学校や職場で仲間はずれにされたり、無視されたりしないこと	全体	19.4	18.8	18.2	5.4	4.6	13.0	20.6	38.2	9.9
	身体障害	20.0	15.9	17.7	3.2	2.0	14.6	26.5	35.9	5.2
	知的障害	20.4	32.0	18.2	7.8	5.2	6.7	9.7	52.4	13.0
	精神障害	15.8	14.6	20.0	10.4	13.3	14.2	11.7	30.4	23.8
(2) 外で困ったとき、周囲の人が手助けしてくれること	全体	13.7	21.4	26.4	7.5	4.4	9.3	17.4	35.1	11.8
	身体障害	15.9	22.7	23.4	5.1	2.5	8.5	21.9	38.6	7.6
	知的障害	8.9	23.4	34.2	10.4	5.6	7.8	9.7	32.3	16.0
	精神障害	11.3	14.2	28.8	12.9	9.6	13.8	9.6	25.4	22.5
(3) 困りごとや悩みを、安心して相談できるところが身近にあること	全体	15.7	21.4	24.4	7.0	7.0	8.6	16.0	37.0	14.0
	身体障害	14.7	19.5	25.2	5.2	5.6	9.3	20.4	34.2	10.8
	知的障害	14.1	29.0	26.0	7.4	5.9	7.8	9.7	43.1	13.4
	精神障害	20.8	19.6	19.6	12.9	13.3	6.7	7.1	40.4	26.3
(4) 身の回りの用事や家事を助けてくれるサービスがいつでも受けられ、もし一人暮らしになっても、不安がないこと	全体	10.8	12.7	27.9	9.2	8.2	13.9	17.2	23.5	17.4
	身体障害	11.4	12.8	27.6	7.8	6.1	13.0	21.2	24.2	13.9
	知的障害	7.1	13.8	30.1	10.4	10.4	18.2	10.0	20.8	20.8
	精神障害	12.9	11.3	26.3	12.9	13.3	12.5	10.8	24.2	26.3
(5) 仕事をしたり、趣味を楽しんだりしながら、同じ障害のある仲間と過ごす場所が身近にあること	全体	9.8	13.8	29.3	8.1	4.9	16.3	17.9	23.6	13.0
	身体障害	7.6	10.7	30.5	6.5	3.2	19.0	22.5	18.3	9.7
	知的障害	14.5	25.7	23.8	9.7	5.9	10.0	10.4	40.1	15.6
	精神障害	12.5	11.7	30.8	12.5	9.6	13.3	9.6	24.2	22.1
(6) 道路や施設が安全で、外に出かけても事故やけがの心配がないこと	全体	10.8	16.9	26.5	12.5	9.9	7.1	16.2	27.7	22.4
	身体障害	9.8	15.7	24.8	12.2	10.6	7.4	19.6	25.5	22.8
	知的障害	7.8	19.3	33.8	13.8	9.3	5.6	10.4	27.1	23.0
	精神障害	17.9	18.8	24.6	12.1	8.3	7.9	10.4	36.7	20.4
(7) 日ごろから災害に備えた情報が行き届き、もし、災害が発生したときでも、安全に避難できること	全体	9.9	12.9	27.4	12.3	9.2	11.8	16.6	22.7	21.5
	身体障害	9.2	12.7	26.0	11.9	9.0	11.1	20.2	21.9	20.9
	知的障害	7.4	12.3	30.9	14.1	10.0	14.9	10.4	19.7	24.2
	精神障害	15.0	14.2	28.3	11.7	9.2	11.3	10.4	29.2	20.8
(8) 人にだまされたり、泥棒にあたりしないこと	全体	13.2	13.4	28.7	7.1	5.8	14.2	17.6	26.6	12.9
	身体障害	13.4	13.5	27.3	6.2	4.1	13.6	21.9	26.8	10.4
	知的障害	9.7	12.6	36.4	7.4	6.3	17.5	10.0	22.3	13.8
	精神障害	16.7	13.8	25.0	10.0	11.3	12.5	10.8	30.4	21.3
(9) 暮らしに困らないだけの収入があること	全体	11.4	16.3	22.5	12.1	16.5	6.5	14.7	27.7	28.5
	身体障害	13.0	17.9	22.8	10.3	13.5	4.4	18.2	30.9	23.7
	知的障害	8.6	14.1	26.4	13.4	14.9	12.3	10.4	22.7	28.3
	精神障害	8.8	13.3	17.1	17.1	29.2	7.5	7.1	22.1	46.3
(10) 安心して暮らし続けられる住まいがあること	全体	25.0	26.1	16.5	6.6	6.5	5.2	14.1	51.1	13.1
	身体障害	26.4	27.6	14.9	5.0	5.0	3.6	17.6	54.0	9.9
	知的障害	23.8	21.9	21.6	6.7	8.2	9.3	8.6	45.7	14.9
	精神障害	21.3	25.4	16.7	12.5	10.4	6.3	7.5	46.7	22.9
(11) 自分の障害にあった学校で学べること	全体	8.6	9.7	19.7	3.6	2.8	25.9	29.7	18.4	6.4
	身体障害	5.5	6.9	19.0	1.6	1.6	28.3	37.0	12.4	3.2
	知的障害	19.0	20.4	19.7	6.7	4.5	13.0	16.7	39.4	11.2
	精神障害	8.3	7.9	22.1	7.5	5.0	31.3	17.9	16.3	12.5
(12) 普通学級の子供たちと一緒に自分にあった教育が受けられること	全体	5.7	7.8	22.6	3.3	2.8	27.9	29.9	13.5	6.1
	身体障害	4.8	5.8	19.9	1.2	1.5	29.7	37.1	10.6	2.6
	知的障害	5.2	14.1	32.0	6.7	5.9	19.0	17.1	19.3	12.6
	精神障害	9.6	7.9	21.7	7.1	4.2	31.3	18.3	17.5	11.3
(13) 高校や大学等で障害に配慮した教育が受けられること	全体	5.0	6.8	21.9	3.0	3.3	30.0	29.9	11.8	6.3
	身体障害	4.8	6.2	19.4	1.4	1.6	29.6	37.0	11.1	3.0
	知的障害	4.1	7.8	30.9	4.5	7.4	28.6	16.7	11.9	11.9
	精神障害	6.7	7.9	21.3	7.1	5.0	32.9	19.2	14.6	12.1
(14) 障害のある人に適した様々な職場があり、自分にあった職場を選ぶこと	全体	7.0	9.8	21.4	6.8	7.6	22.4	25.0	16.8	14.4
	身体障害	6.2	8.5	20.0	4.0	4.7	24.0	32.5	14.7	8.8
	知的障害	8.6	16.0	23.0	11.5	8.9	19.7	12.3	24.5	20.4
	精神障害	7.9	7.5	24.6	11.7	16.3	20.0	12.1	15.4	27.9
(15) 同じ仕事の質であれば、障害のある人も、ない人も同じように評価されること	全体	7.0	9.8	22.1	6.2	6.8	23.2	24.9	16.8	13.0
	身体障害	7.5	9.6	19.2	4.0	4.5	22.8	32.4	17.1	8.5
	知的障害	3.7	13.0	31.2	7.8	6.7	25.3	12.3	16.7	14.5
	精神障害	8.8	7.1	22.1	12.5	15.0	22.5	12.1	15.8	27.5
(16) 仕事に必要な技術や知識を学ぶ場があること	全体	6.5	9.8	23.2	6.2	6.4	22.9	25.0	16.3	12.6
	身体障害	6.8	8.9	20.4	3.6	5.0	23.2	32.3	15.7	8.5
	知的障害	4.5	12.6	30.9	10.4	5.2	23.8	12.6	17.1	15.6
	精神障害	7.9	10.0	25.0	10.8	12.9	20.8	12.5	17.9	23.8
(17) 費用の心配をせずに、必要な医療を受けられること	全体	20.5	19.7	18.8	10.3	9.9	5.9	15.0	40.2	20.2
	身体障害	20.5	19.1	19.0	8.3	8.8	5.5	18.8	39.6	17.1
	知的障害	18.2	23.8	19.7	11.5	8.6	8.2	10.0	42.0	20.1
	精神障害	22.9	17.1	17.1	16.3	15.4	4.6	6.7	40.0	31.7
(18) 自分にあったリハビリテーションの機会が身近にあること	全体	10.9	14.7	23.6	10.7	8.8	13.7	17.7	25.6	19.5
	身体障害	11.8	15.0	22.6	9.0	9.0	11.2	21.5	26.7	18.0
	知的障害	7.8	14.5	26.8	11.9	6.3	20.8	11.9	22.3	18.2
	精神障害	11.3	13.8	23.8	15.4	10.8	14.6	10.4	25.0	26.3
(19) いろいろな人とコミュニケーションができること	全体	10.5	18.3	28.0	9.0	5.7	11.1	17.4	28.8	14.7
	身体障害	11.1	19.1	27.6	5.5	4.3	10.9	21.4	30.2	9.8
	知的障害	6.7	21.2	28.6	16.0	4.5	12.3	10.8	27.9	20.4
	精神障害	12.9	12.1	28.3	13.8	12.5	10.4	10.0	25.0	26.3
(20) まちや建物の案内板やアナウンス、世間のニュースなど、自分に必要な情報を得やすいこと	全体	8.1	15.5	30.2	9.0	5.6	13.7	17.8	23.7	14.6
	身体障害	8.8	16.0	29.1	7.3	5.1	11.8	22.0	24.8	12.3
	知的障害	4.1	13.0	36.8	10.0	4.5	20.1	11.5	17.1	14.5
	精神障害	10.4	16.7	26.7	14.2	8.8	13.8	9.6	27.1	22.9

問 12. 重要度と問 13. 満足度（平均点）および重要度と満足度の差 ×主たる障害別

		全体	視覚障害	聴覚障害・ 平衡機能 の障害	音声・言 語、そ しやく機 能の障害	肢体 不自由	内部障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機 能障害	難病
(1) 学校や職場で無視等されない	重要度	0.98	0.79	1.23	0.82	0.74	0.57	1.43	1.37	<b>1.69</b>	0.82	0.64
	満足度	0.65	0.89	0.24	0.85	0.81	1.05	0.66	0.14	0.21	0.63	0.17
	差	0.33	-0.10	0.99	-0.02	-0.07	-0.48	0.76	1.23	1.48	0.19	0.47
(2) 困ったとき周囲の人が手助けしてくれる	重要度	1.13	1.42	1.02	0.86	1.11	0.97	1.40	1.01	1.33	1.46	1.33
	満足度	0.44	0.72	0.39	0.80	0.60	0.77	0.13	0.08	-0.18	0.00	0.21
	差	0.69	0.69	0.63	0.06	0.51	0.20	1.27	0.93	1.51	1.46	1.12
(3) 相談できるところが身近にある	重要度	1.25	1.28	1.16	1.35	1.12	0.96	<b>1.55</b>	1.46	<b>1.59</b>	<b>1.64</b>	1.44
	満足度	0.42	0.53	0.22	0.50	0.44	0.58	0.42	0.24	0.47	0.17	0.13
	差	0.83	0.74	0.94	0.85	0.68	0.38	1.12	1.22	1.13	1.48	1.31
(4) サービスが受けられ一人暮らしでも不安がない	重要度	1.37	1.47	1.19	1.25	1.36	1.25	<b>1.58</b>	1.26	1.27	<b>1.64</b>	<b>1.76</b>
	満足度	0.13	0.37	0.02	0.07	0.14	0.46	-0.15	-0.03	-0.08	-0.10	-0.07
	差	1.24	1.11	1.17	1.18	1.23	0.79	1.72	1.30	1.34	1.74	1.83
(5) 仕事や趣味、仲間と過ごす場所がある	重要度	0.60	0.54	0.55	0.94	0.50	0.06	1.28	0.58	1.00	1.15	0.06
	満足度	0.24	0.13	0.19	0.14	0.13	0.37	0.44	0.08	0.03	0.33	0.08
	差	0.37	0.41	0.35	0.80	0.38	-0.32	0.84	0.50	0.97	0.82	-0.02
(6) 外に出かけても事故やけがの心配がない	重要度	1.24	1.32	1.17	1.37	1.32	1.16	1.28	1.03	1.00	<b>1.57</b>	1.39
	満足度	0.08	-0.31	-0.07	0.33	-0.08	0.28	0.06	0.30	-0.09	<b>-0.75</b>	-0.25
	差	1.16	1.64	1.24	1.04	1.41	0.88	1.22	0.73	1.09	2.32	1.64
(7) 災害の情報収集や災害発生時に安全に避難できる	重要度	1.44	<b>1.53</b>	<b>1.53</b>	1.06	1.45	1.37	<b>1.51</b>	1.35	1.42	<b>1.57</b>	1.44
	満足度	0.03	-0.25	-0.12	0.44	-0.04	0.22	-0.12	0.16	-0.06	<b>-0.60</b>	-0.25
	差	1.41	1.78	1.65	0.62	1.49	1.16	1.63	1.19	1.48	2.17	1.69
(8) 人にだまされたり、泥棒にあたりしない	重要度	1.37	1.43	<b>1.50</b>	1.33	1.22	1.21	<b>1.60</b>	<b>1.51</b>	<b>1.70</b>	<b>1.57</b>	1.22
	満足度	0.31	0.41	0.09	0.64	0.42	0.55	0.14	0.11	0.15	-0.22	0.07
	差	1.06	1.03	1.41	0.69	0.80	0.66	1.46	1.39	1.55	1.79	1.15
(9) 暮らしに困らないだけの収入がある	重要度	<b>1.60</b>	<b>1.61</b>	<b>1.57</b>	<b>1.53</b>	<b>1.61</b>	1.44	<b>1.64</b>	<b>1.76</b>	<b>1.72</b>	<b>1.67</b>	<b>1.76</b>
	満足度	-0.07	0.17	-0.02	0.39	0.08	0.13	-0.23	<b>-0.56</b>	-0.48	-0.23	-0.12
	差	1.68	1.44	1.58	1.14	1.53	1.31	1.87	2.32	2.20	1.90	1.88
(10) 安心して暮らし続けられる住まいがある	重要度	<b>1.65</b>	<b>1.63</b>	<b>1.54</b>	<b>1.68</b>	<b>1.65</b>	<b>1.54</b>	<b>1.79</b>	<b>1.73</b>	<b>1.69</b>	<b>1.67</b>	<b>1.61</b>
	満足度	0.70	0.89	0.63	0.84	0.87	0.85	0.59	0.33	0.26	0.00	0.94
	差	0.95	0.74	0.92	0.84	0.78	0.70	1.20	1.39	1.43	1.67	0.67
(11) 自分の障害にあった学校で学べる	重要度	0.70	0.75	1.00	0.18	0.48	0.31	1.22	0.63	1.09	1.27	1.00
	満足度	0.40	0.47	0.27	0.30	0.39	0.40	0.57	0.21	0.37	0.00	0.71
	差	0.29	0.28	0.73	-0.12	0.08	-0.10	0.65	0.43	0.72	1.27	0.29
(12) 普通学級で自分にあった教育が受けられる	重要度	0.48	0.75	0.85	0.50	0.33	0.31	0.64	0.35	0.91	0.63	0.60
	満足度	0.24	0.22	0.13	0.75	0.33	0.36	0.09	0.25	0.22	-0.20	0.57
	差	0.23	0.53	0.72	-0.25	0.00	-0.05	0.55	0.10	0.69	0.83	0.03
(13) 高校や大学等で障害に配慮した教育が受けられる	重要度	0.64	0.88	1.19	0.64	0.42	0.37	0.78	0.69	1.39	0.80	0.67
	満足度	0.18	0.42	0.07	0.56	0.22	0.44	-0.09	0.18	-0.21	0.00	0.71
	差	0.46	0.45	1.12	0.08	0.21	-0.07	0.87	0.52	1.60	0.80	-0.05
(14) 様々な職場があり選べる	重要度	1.12	1.31	1.35	1.27	0.88	0.79	1.43	1.27	<b>1.93</b>	1.46	1.27
	満足度	0.03	0.05	-0.15	0.45	0.16	0.28	0.03	-0.31	-0.33	-0.33	0.00
	差	1.09	1.26	1.49	0.81	0.72	0.51	1.39	1.58	2.26	1.79	1.27
(15) 障害のある人もない人も同じように評価される	重要度	1.12	1.15	1.39	1.19	1.01	0.88	1.14	1.34	1.43	1.25	1.18
	満足度	0.08	-0.14	-0.07	0.64	0.26	0.39	-0.01	-0.31	-0.46	-0.38	0.00
	差	1.04	1.29	1.45	0.55	0.76	0.49	1.15	1.65	1.89	1.63	1.18
(16) 仕事に必要な技術や知識を学ぶ場がある	重要度	1.09	1.37	1.36	0.94	0.95	0.83	1.20	1.24	<b>1.57</b>	1.27	1.17
	満足度	0.08	0.13	0.00	0.64	0.13	0.28	-0.04	-0.12	-0.43	-0.25	0.40
	差	1.01	1.24	1.36	0.30	0.82	0.55	1.24	1.36	2.01	1.52	0.77
(17) 費用の心配をせずに、必要な医療を受けられる	重要度	<b>1.66</b>	<b>1.70</b>	1.41	<b>1.61</b>	<b>1.66</b>	<b>1.63</b>	<b>1.65</b>	<b>1.79</b>	<b>1.86</b>	<b>1.57</b>	<b>1.69</b>
	満足度	0.39	0.84	0.19	0.78	0.30	0.75	0.33	0.12	0.29	-0.08	0.13
	差	1.28	0.86	1.22	0.83	1.36	0.88	1.32	1.67	1.57	1.65	1.56
(18) 自分にあたりハビリテーションの機会が身近にある	重要度	1.36	1.05	1.20	1.33	<b>1.52</b>	1.26	1.31	1.33	1.14	<b>1.60</b>	<b>1.69</b>
	満足度	0.12	0.17	0.00	0.73	0.05	0.47	-0.05	0.04	-0.38	0.15	-0.40
	差	1.24	0.89	1.20	0.60	1.48	0.79	1.36	1.29	1.53	1.45	2.09
(19) いろいろな人とコミュニケーションができる	重要度	1.10	1.05	1.37	1.33	1.10	0.90	1.20	1.13	1.03	<b>1.60</b>	1.00
	満足度	0.26	0.29	0.13	0.46	0.35	0.61	0.07	-0.02	0.00	-0.45	-0.17
	差	0.84	0.76	1.24	0.87	0.75	0.29	1.13	1.15	1.03	2.05	1.17
(20) 必要な情報を得やすい	重要度	1.03	1.17	1.28	1.12	1.00	0.85	0.97	1.15	1.22	1.40	1.13
	満足度	0.17	-0.07	-0.19	0.93	0.23	0.43	0.05	0.07	-0.18	-0.36	-0.29
	差	0.86	1.24	1.47	0.19	0.77	0.42	0.92	1.08	1.40	1.76	1.42

※重要度の 1.5 以上と満足度の -0.5 以下は太字、差の 1.5 以上は網掛け

問 12. 重要度と問 13. 満足度（平均点）および重要度と満足度の差 ×地域別

		北部	西部	東部	南部
(1) 学校や職場で無視等されない	重要度	0.93	0.88	1.05	1.07
	満足度	0.69	0.63	0.59	0.64
	差	0.24	0.24	0.45	0.43
(2) 困ったとき周囲の人が手助けしてくれる	重要度	1.14	0.97	1.21	1.23
	満足度	0.51	0.46	0.37	0.42
	差	0.63	0.51	0.84	0.81
(3) 相談できるところが身近にある	重要度	1.26	1.19	1.20	1.35
	満足度	0.44	0.44	0.38	0.40
	差	0.82	0.74	0.81	0.95
(4) サービスが受けられ一人暮らしでも不安がない	重要度	1.34	1.28	1.41	1.45
	満足度	0.10	0.20	0.06	0.12
	差	1.24	1.08	1.35	1.33
(5) 仕事や趣味、仲間と過ごす場所がある	重要度	0.57	0.56	0.59	0.68
	満足度	0.14	0.28	0.15	0.38
	差	0.43	0.28	0.44	0.30
(6) 外に出かけても事故やけがの心配がない	重要度	1.28	1.15	1.39	1.15
	満足度	0.01	0.21	-0.11	0.20
	差	1.27	0.95	1.50	0.95
(7) 災害の情報収集や災害発生時に安全に避難できる	重要度	1.46	1.38	1.49	1.42
	満足度	0.05	0.06	-0.18	0.16
	差	1.41	1.32	1.67	1.26
(8) 人にだまされたり、泥棒にあたりしない	重要度	1.36	1.36	1.37	1.38
	満足度	0.33	0.31	0.19	0.42
	差	1.03	1.05	1.18	0.96
(9) 暮らしに困らないだけの収入がある	重要度	<b>1.59</b>	<b>1.60</b>	<b>1.57</b>	<b>1.64</b>
	満足度	-0.17	-0.01	-0.04	-0.08
	差	1.76	1.61	1.61	1.72
(10) 安心して暮らし続けられる住まいがある	重要度	<b>1.62</b>	<b>1.63</b>	<b>1.66</b>	<b>1.69</b>
	満足度	0.74	0.65	0.71	0.68
	差	0.89	0.98	0.95	1.02
(11) 自分の障害にあった学校で学べる	重要度	0.71	0.63	0.72	0.72
	満足度	0.39	0.37	0.41	0.44
	差	0.33	0.26	0.31	0.28
(12) 普通学級で自分にあった教育が受けられる	重要度	0.53	0.36	0.51	0.51
	満足度	0.32	0.16	0.25	0.26
	差	0.21	0.20	0.26	0.24
(13) 高校や大学等で障害に配慮した教育が受けられる	重要度	0.68	0.55	0.66	0.67
	満足度	0.19	0.15	0.14	0.25
	差	0.49	0.40	0.51	0.42
(14) 様々な職場があり選べる	重要度	1.09	1.04	1.22	1.14
	満足度	0.02	0.04	0.01	0.07
	差	1.07	1.00	1.21	1.07
(15) 障害のある人もない人も同じように評価される	重要度	1.10	1.07	1.13	1.15
	満足度	0.06	0.04	0.08	0.14
	差	1.05	1.03	1.05	1.01
(16) 仕事に必要な技術や知識を学ぶ場がある	重要度	1.03	1.02	1.18	1.12
	満足度	0.01	0.10	0.02	0.17
	差	1.02	0.91	1.16	0.95
(17) 費用の心配をせずに、必要な医療を受けられる	重要度	<b>1.69</b>	<b>1.63</b>	<b>1.69</b>	<b>1.64</b>
	満足度	0.46	0.35	0.33	0.43
	差	1.23	1.28	1.36	1.21
(18) 自分にあったリハビリテーションの機会が身近にある	重要度	1.36	1.32	1.43	1.32
	満足度	0.15	0.13	0.04	0.14
	差	1.21	1.18	1.39	1.18
(19) いろいろな人とコミュニケーションができる	重要度	1.09	1.14	1.10	1.06
	満足度	0.30	0.29	0.21	0.24
	差	0.78	0.85	0.89	0.82
(20) 必要な情報を得やすい	重要度	0.93	1.02	1.07	1.07
	満足度	0.21	0.18	0.08	0.22
	差	0.72	0.84	0.98	0.85

※重要度の 1.5 以上と満足度の -0.5 以下は太字、差の 1.5 以上は網掛け

問 12. 重要度と問 13. 満足度（平均点）および重要度と満足度の差 ×年齢別

		0～5	6～11	12～14	15～17	18～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～74	75以上
(1) 学校や職場で無視等されない	重要度	<b>1.80</b>	1.46	<b>1.85</b>	<b>1.57</b>	<b>1.67</b>	1.40	1.45	1.37	1.03	0.81	0.60	0.60
	満足度	1.27	0.86	0.63	0.97	1.40	0.33	0.22	0.31	0.63	0.76	0.82	0.83
	差	0.53	0.61	1.22	0.61	0.27	1.07	1.23	1.06	0.41	0.05	-0.22	-0.23
(2) 困ったとき周囲の人が手助けしてくれる	重要度	1.40	<b>1.50</b>	0.85	1.38	<b>1.57</b>	1.26	1.12	1.28	1.11	1.01	0.97	1.15
	満足度	0.31	0.23	-0.07	0.10	0.50	0.10	0.03	0.12	0.40	0.48	0.70	0.80
	差	1.09	1.27	0.91	1.28	1.07	1.16	1.09	1.16	0.71	0.53	0.27	0.35
(3) 相談できるところが身近にある	重要度	<b>1.50</b>	<b>1.53</b>	1.42	<b>1.69</b>	<b>1.57</b>	1.44	1.41	1.39	1.37	1.22	0.99	1.15
	満足度	0.75	0.40	0.25	0.28	0.44	0.40	0.22	0.12	0.36	0.42	0.47	0.66
	差	0.75	1.13	1.17	1.41	1.13	1.05	1.19	1.27	1.00	0.80	0.51	0.49
(4) サービスが受けられ一人暮らしでも不安がない	重要度	<b>1.71</b>	<b>1.57</b>	1.23	<b>1.52</b>	<b>1.57</b>	1.28	1.32	1.29	1.41	1.34	1.36	1.38
	満足度	-0.08	-0.26	-0.38	<b>-0.50</b>	-0.25	-0.21	0.07	-0.09	0.00	0.18	0.34	0.40
	差	1.80	1.83	1.62	2.02	1.82	1.49	1.25	1.39	1.41	1.17	1.03	0.98
(5) 仕事や趣味、仲間と過ごす場所がある	重要度	1.25	1.13	1.00	1.33	<b>1.71</b>	1.06	0.66	0.72	0.60	0.33	0.33	0.52
	満足度	0.69	0.15	0.27	0.21	0.78	0.31	0.30	0.08	0.16	0.20	0.19	0.34
	差	0.56	0.98	0.73	1.12	0.94	0.76	0.36	0.64	0.44	0.13	0.15	0.19
(6) 外に出かけても事故やけがの心配がない	重要度	<b>1.63</b>	<b>1.57</b>	1.23	<b>1.59</b>	0.86	1.02	1.04	1.08	1.38	1.20	1.24	1.29
	満足度	-0.44	<b>-0.70</b>	-0.07	-0.21	0.00	0.25	0.18	0.18	-0.05	0.16	0.12	0.14
	差	2.06	2.27	1.30	1.79	0.86	0.76	0.86	0.91	1.43	1.04	1.11	1.15
(7) 災害の情報収集や災害発生時に安全に避難できる	重要度	1.44	1.40	<i>1.37</i>	<b>1.66</b>	1.43	1.40	1.42	1.50	1.44	1.25	1.46	1.44
	満足度	<b>-0.58</b>	-0.46	-0.38	-0.41	-0.25	-0.09	0.14	0.03	-0.04	0.09	0.12	0.14
	差	2.02	1.86	1.69	2.06	1.68	1.49	1.28	1.47	1.49	1.17	1.35	1.30
(8) 人にだまされたり、泥棒にあたりしない	重要度	<b>1.69</b>	<b>1.63</b>	1.29	1.41	<b>1.71</b>	1.45	<b>1.61</b>	1.44	1.46	1.07	1.29	1.29
	満足度	0.45	-0.23	-0.07	-0.04	0.67	-0.10	0.11	0.24	0.23	0.47	0.52	0.47
	差	1.23	1.86	1.36	1.46	1.05	1.54	1.50	1.20	1.23	0.60	0.77	0.82
(9) 暮らしに困らないだけの収入がある	重要度	<b>1.75</b>	1.44	<b>1.64</b>	<b>1.63</b>	<b>1.88</b>	<b>1.72</b>	<b>1.76</b>	<b>1.73</b>	<b>1.71</b>	<b>1.68</b>	1.48	1.49
	満足度	0.36	-0.05	-0.42	-0.14	<b>-0.89</b>	<b>-0.51</b>	-0.34	-0.35	-0.30	0.13	0.01	0.29
	差	1.39	1.48	2.06	1.77	2.76	2.24	2.09	2.08	2.01	1.55	1.47	1.20
(10) 安心して暮らし続けられる住まいがある	重要度	<b>1.88</b>	<b>1.71</b>	<b>1.85</b>	<b>1.84</b>	<b>2.00</b>	<b>1.79</b>	<b>1.86</b>	<b>1.73</b>	<b>1.76</b>	<b>1.65</b>	<b>1.54</b>	<b>1.51</b>
	満足度	0.77	0.36	0.64	0.32	0.22	0.28	0.46	0.45	0.60	0.89	0.86	0.94
	差	1.11	1.35	1.20	1.52	1.78	1.51	1.40	1.28	1.16	0.76	0.68	0.58
(11) 自分の障害にあった学校で学べる	重要度	<b>1.77</b>	1.45	<b>1.80</b>	<b>1.59</b>	1.40	1.06	1.01	0.70	0.45	0.34	0.47	0.47
	満足度	0.82	0.78	0.63	1.10	1.00	0.41	0.12	0.11	0.18	0.36	0.50	0.41
	差	0.95	0.67	1.18	0.49	0.40	0.65	0.89	0.60	0.27	-0.02	-0.03	0.06
(12) 普通学級で自分にあった教育が受けられる	重要度	0.73	1.05	0.83	0.15	0.25	<b>0.80</b>	0.61	0.46	0.43	0.44	0.32	0.43
	満足度	0.00	0.58	-0.31	0.36	0.25	0.14	0.13	0.03	0.21	0.33	0.47	0.33
	差	0.73	0.46	1.15	-0.21	0.00	0.66	0.49	0.44	0.22	0.11	-0.15	0.10
(13) 高校や大学等で障害に配慮した教育が受けられる	重要度	1.18	1.22	1.17	1.00	<b>2.00</b>	0.81	0.90	0.61	0.47	0.62	0.49	0.48
	満足度	0.00	-0.43	-0.31	0.04	1.00	0.02	0.03	-0.05	0.17	0.44	0.43	0.39
	差	1.18	1.65	1.47	0.96	1.00	0.79	0.87	0.67	0.30	0.18	0.06	0.09
(14) 様々な職場があり選べる	重要度	1.33	<b>1.67</b>	<b>1.82</b>	<b>1.63</b>	<b>2.00</b>	1.32	<b>1.50</b>	1.44	1.22	1.09	0.83	0.72
	満足度	0.00	-0.39	<b>-0.64</b>	-0.42	0.56	-0.09	-0.10	-0.18	0.00	0.31	0.27	0.25
	差	1.33	2.06	2.45	2.05	1.44	1.40	1.60	1.62	1.22	0.78	0.56	0.47
(15) 障害のある人もない人も同じように評価される	重要度	0.85	1.39	<b>1.60</b>	1.07	1.20	1.22	<b>1.54</b>	1.38	1.36	1.20	0.88	0.77
	満足度	0.00	0.06	-0.40	-0.25	-0.13	-0.24	-0.10	-0.09	0.03	0.38	0.38	0.21
	差	0.85	1.33	2.00	1.32	1.33	1.46	1.64	1.47	1.33	0.82	0.50	0.56
(16) 仕事に必要な技術や知識を学ぶ場がある	重要度	0.92	<b>1.54</b>	1.45	1.08	<b>1.60</b>	1.28	1.41	1.38	1.18	1.13	0.86	0.78
	満足度	0.00	-0.12	-0.20	-0.36	0.40	-0.24	-0.01	-0.08	0.04	0.34	0.33	0.21
	差	0.92	1.65	1.65	1.44	1.20	1.52	1.42	1.46	1.14	0.78	0.54	0.57
(17) 費用の心配をせずに、必要な医療を受けられる	重要度	<b>1.53</b>	<b>1.74</b>	<b>1.69</b>	<b>1.52</b>	<b>1.80</b>	<b>1.60</b>	<b>1.75</b>	<b>1.73</b>	<b>1.70</b>	<b>1.68</b>	<b>1.66</b>	<b>1.60</b>
	満足度	0.64	0.58	-0.36	-0.25	0.00	0.07	0.30	0.24	0.37	0.49	0.44	0.61
	差	0.89	1.16	2.04	1.77	1.80	1.53	1.46	1.48	1.33	1.19	1.22	0.99
(18) 自分にあたりハビリテーションの機会が身近にある	重要度	1.41	1.37	1.44	1.41	1.33	1.25	1.41	1.29	1.35	1.37	1.39	1.35
	満足度	0.17	0.11	<b>-0.71</b>	-0.39	-0.43	-0.14	0.11	-0.04	-0.02	0.12	0.16	0.43
	差	1.25	1.26	2.15	1.80	1.76	1.39	1.29	1.33	1.37	1.25	1.23	0.92
(19) いろいろな人とコミュニケーションができる	重要度	<b>1.65</b>	1.26	1.25	1.23	1.22	1.09	1.19	1.13	1.14	0.93	0.92	1.15
	満足度	0.31	0.24	-0.13	0.00	0.33	-0.06	0.04	0.09	0.14	0.40	0.40	0.52
	差	1.34	1.02	1.38	1.23	0.89	1.15	1.15	1.04	1.00	0.54	0.52	0.63
(20) 必要な情報を得やすい	重要度	1.06	0.74	1.13	1.10	1.00	0.97	1.10	1.08	1.02	1.03	0.91	1.10
	満足度	-0.27	-0.29	-0.40	-0.20	0.63	0.06	0.23	-0.07	0.03	0.35	0.35	0.33
	差	1.33	1.03	1.53	1.30	0.38	0.91	0.87	1.15	0.98	0.69	0.56	0.78

※重要度の 1.5 以上と満足度の -0.5 以下は太字、差の 1.5 以上は網掛け

## 4 暮らしの場や家計について

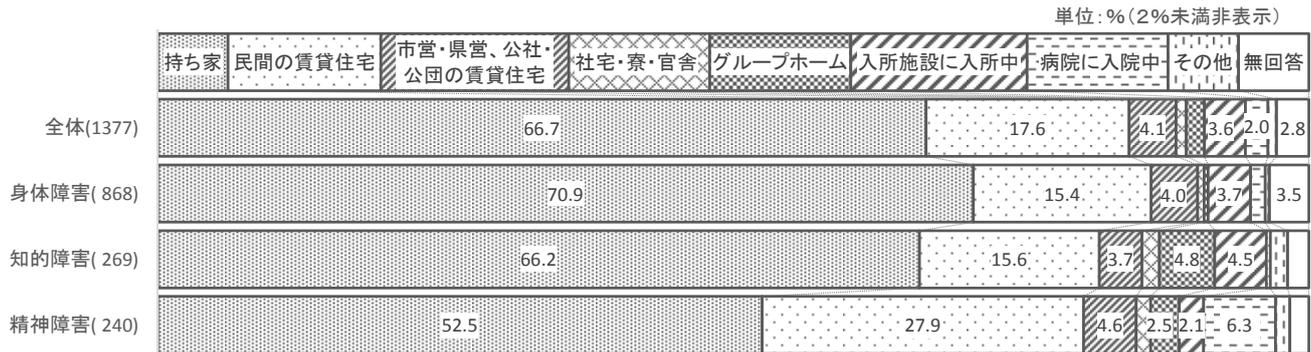
### (1) 暮らしている場所

#### ① 暮らしている場所

○全体では「持ち家」が約67%で最も多く、「民間の賃貸住宅」が約18%で続いている。

○「持ち家」は、身体障害・知的障害で70%前後と多く、精神障害で約53%と少ない。一方、精神障害は、「民間の賃貸住宅」(約28%)、「病院に入院中」(約6%)が、知的障害では「グループホーム」(約5%)が、全体より多い。

問 14. 暮らしている場所 × 障害種類別

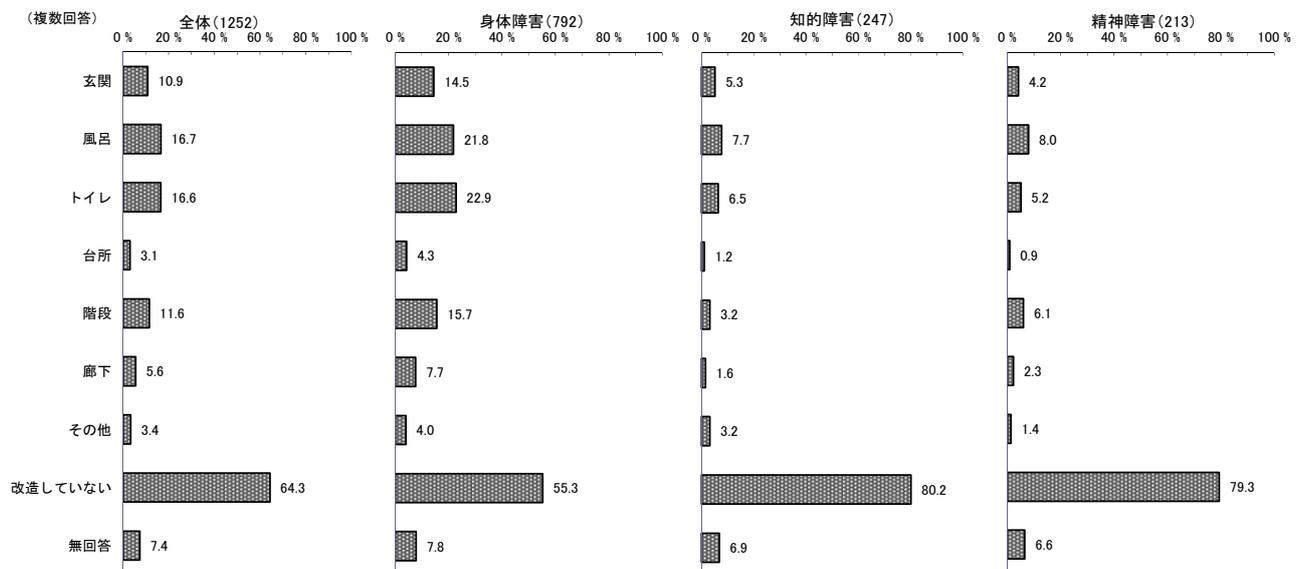


※2%未満数値：全体 (0.9、1.6、0.7) 身体障害 (0.6、0.3、1.3、0.3) 知的障害 (1.5、0.4、1.5、1.9) 精神障害 (1.3、1.3、1.7)

#### ② 住まいの改造をしたところ

○施設や病院に入所・入院している人以外で、住まいの改造をしたところについては、全体の3割弱が何らかの改造を行っており(「改造していない」「無回答」以外の人)、「トイレ」「風呂」「階段」などの改造が比較的多い。

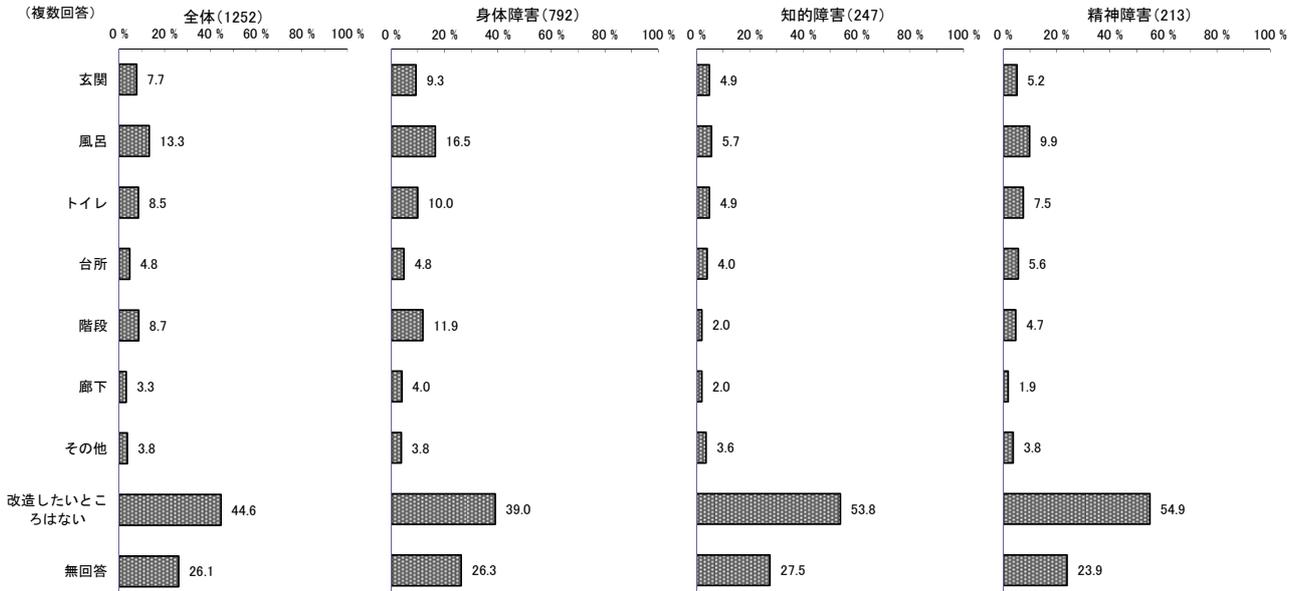
付問 14-1. 住まいの改造をしたところ × 障害種類別



③ これから住まいの改造をしたいところ

○前設問と同様、施設や病院に入所・入院している人以外で、今後、住まいの改造をしたいところを聞いたところ、全体の3割程度の人何らかの改造意向をもっている（「改造したいところはない」「無回答」以外の人）。前設問では「風呂」と「トイレ」は同程度の割合だが、改造意向は「風呂」が強いことから、改造需要が「トイレ」から「風呂」に移行していることがうかがえる。

付問 14-2. これから住まいの改造をしたいところ × 障害種別

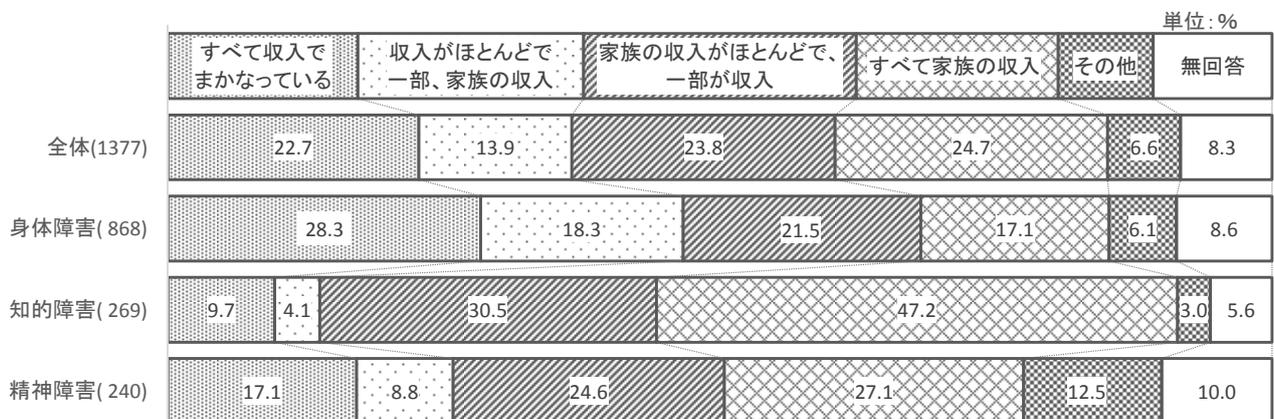


(2) 生活費

○生活費については、「すべて家族の収入」「家族の収入がほとんどで、一部が（本人の）収入」「すべて（本人の）収入でまかなっている」が同程度の割合で比較的多い。

○障害別では、身体障害について本人の収入が主である割合が半数程度と3障害の中で最も多く、反対に知的障害については、家族の収入が主である割合が8割近くを占める。精神障害についても、家族の収入が主である割合が比較的大きい。

問 15. 生活費 × 障害種別

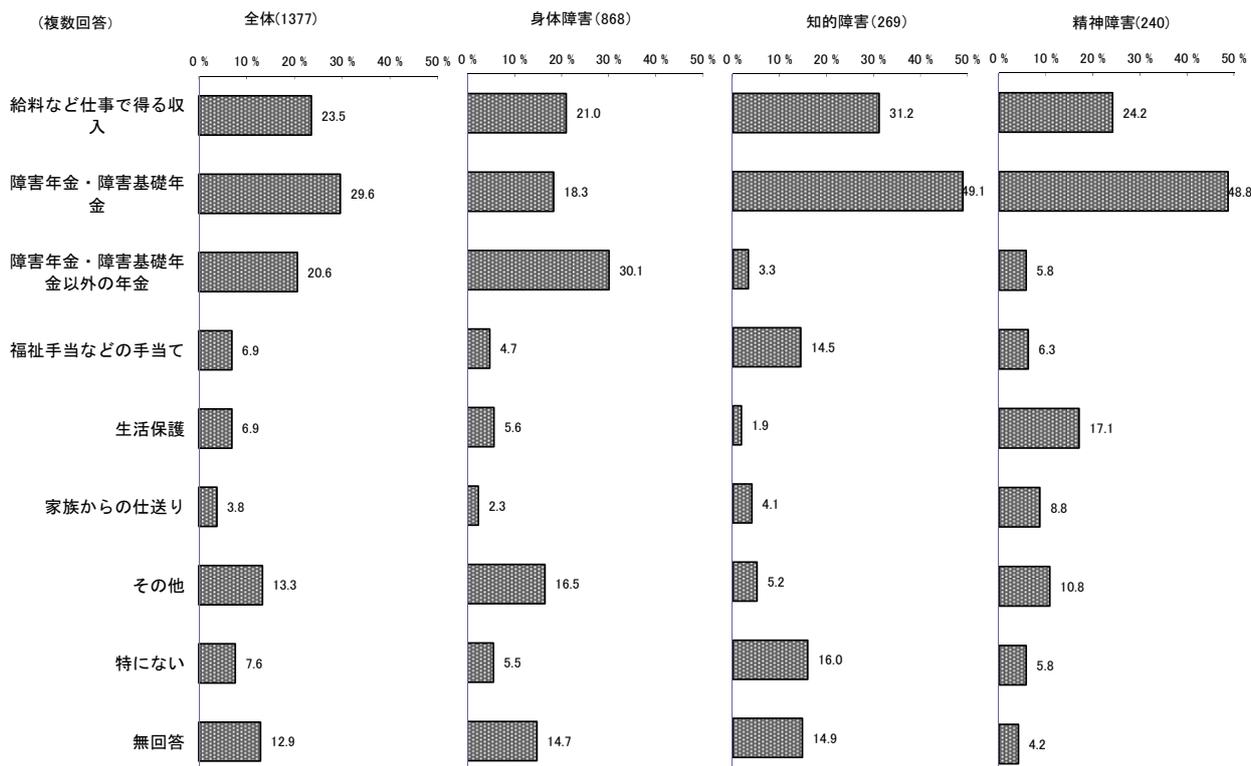


### (3) 収入源

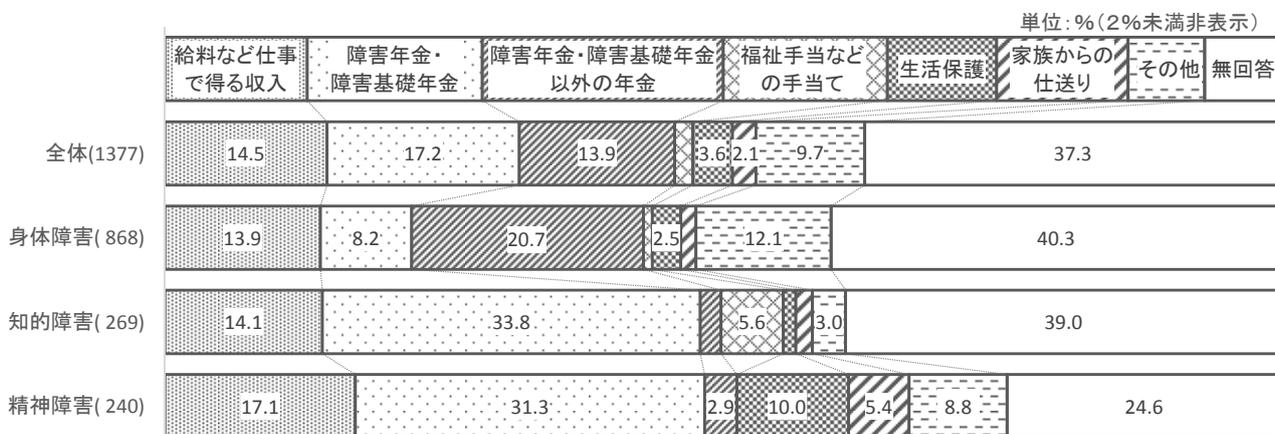
○障害者本人の収入源については、全体では「障害年金・障害基礎年金」「給料など仕事で得る収入」「障害年金・障害基礎年金以外の年金」が多くなっており、最も金額が大きいものについても同様の傾向が見られる。

○障害別では、身体障害については、高齢者が多いため「障害年金・障害基礎年金以外の年金」が他の障害より 25 ポイント程度高く、知的障害と精神障害は、「障害年金・障害基礎年金」が半数を占めている。また、精神障害は「生活保護」を受けている世帯も約 17%あり、経済的に厳しい状況にあることがうかがえる。

問 16. ①収入源 ×障害種類別



問 16. ②収入源（最も金額が大きいもの） ×障害種類別



※2%未満数値：全体（1.6）身体障害（0.8、1.4）知的障害（1.9、1.1、1.5）精神障害（-）

## 5 介助について

### (1) 日常生活の状況（自立度）

○食事、トイレ、入浴、着替え、家の中の移動など、自身の生活行動をはじめ、炊事・洗濯・掃除などの家事、日用品の買い物、お金の管理、コミュニケーションといった日常生活行動の自立状況については、身体障害では、家事・買い物については、4割台と低くなっているが、他項目に関しては、6割以上と高い割合で自立している。

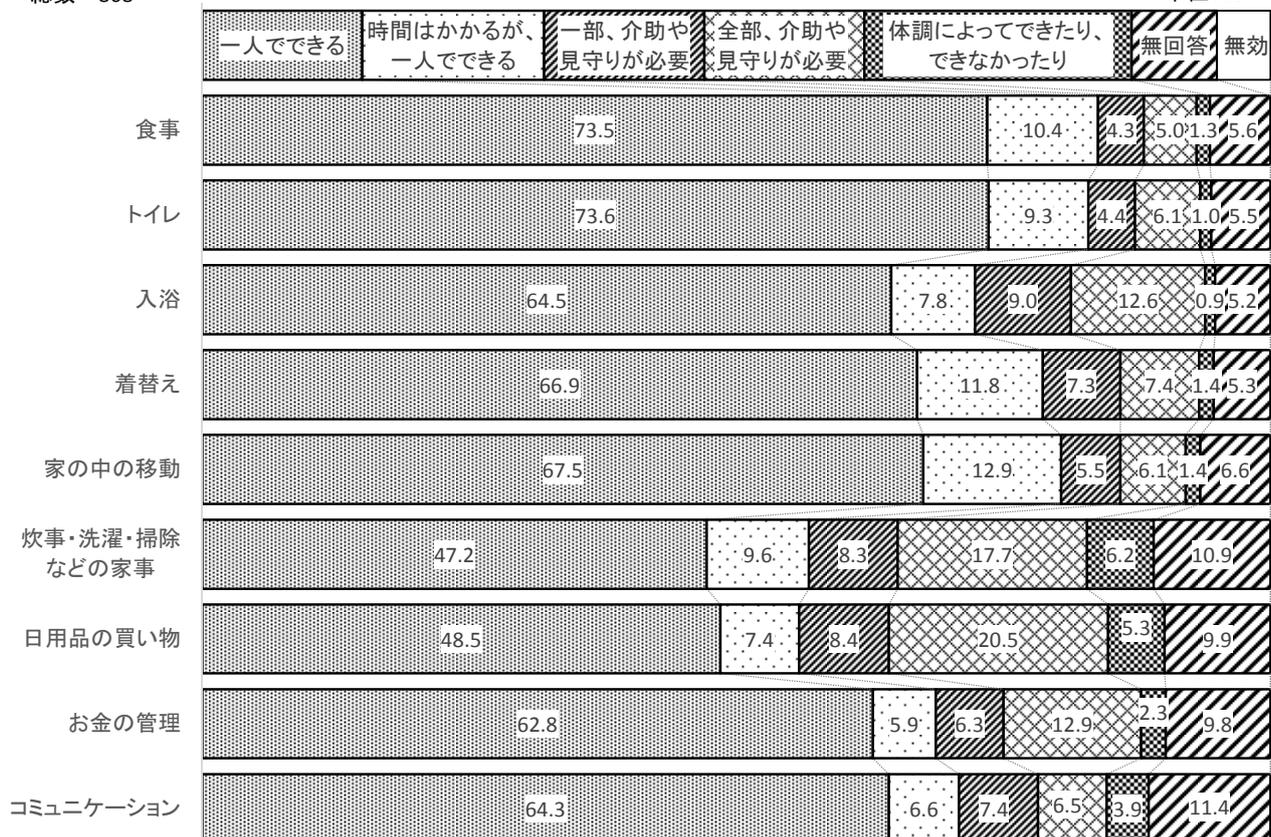
○知的障害では、家の中の移動で8割近い高い自立状況を示すものの、そのほかの自身の生活行動は5割前後でとどまっている。また、家事や買い物等、社会的な関係をもって行動する事項については低い自立状況となっており、「全部、介助や見守りが必要」など介助の度合いの高い人が多い。

○精神障害については、自身の生活のための行動は7割以上と高い割合で自立しているが、他の家事及び社会的行動は3~4割台にとどまっている。また、「体調によってできたり、できなかったり」する割合が他の障害より高い。

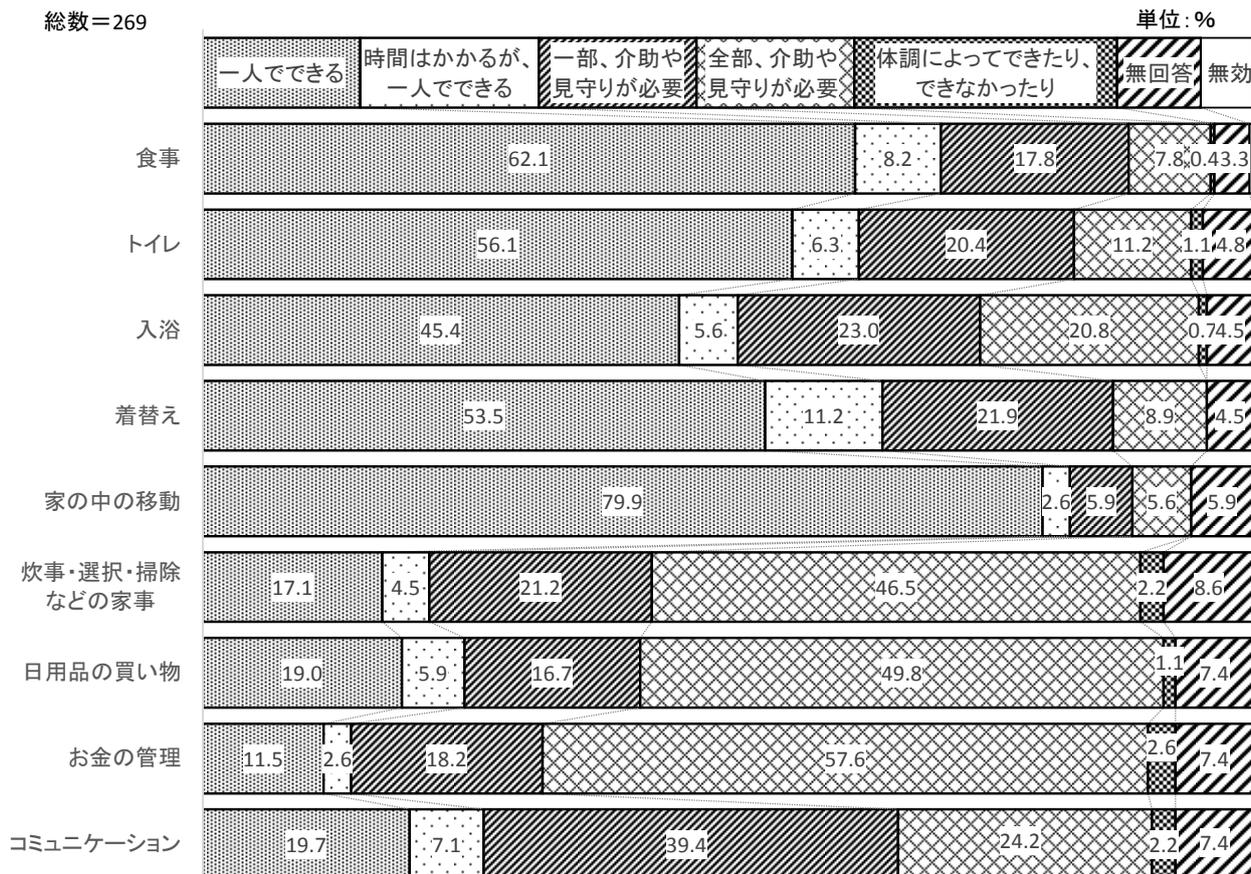
#### 問 17. 日常生活の状況（身体障害）

総数=868

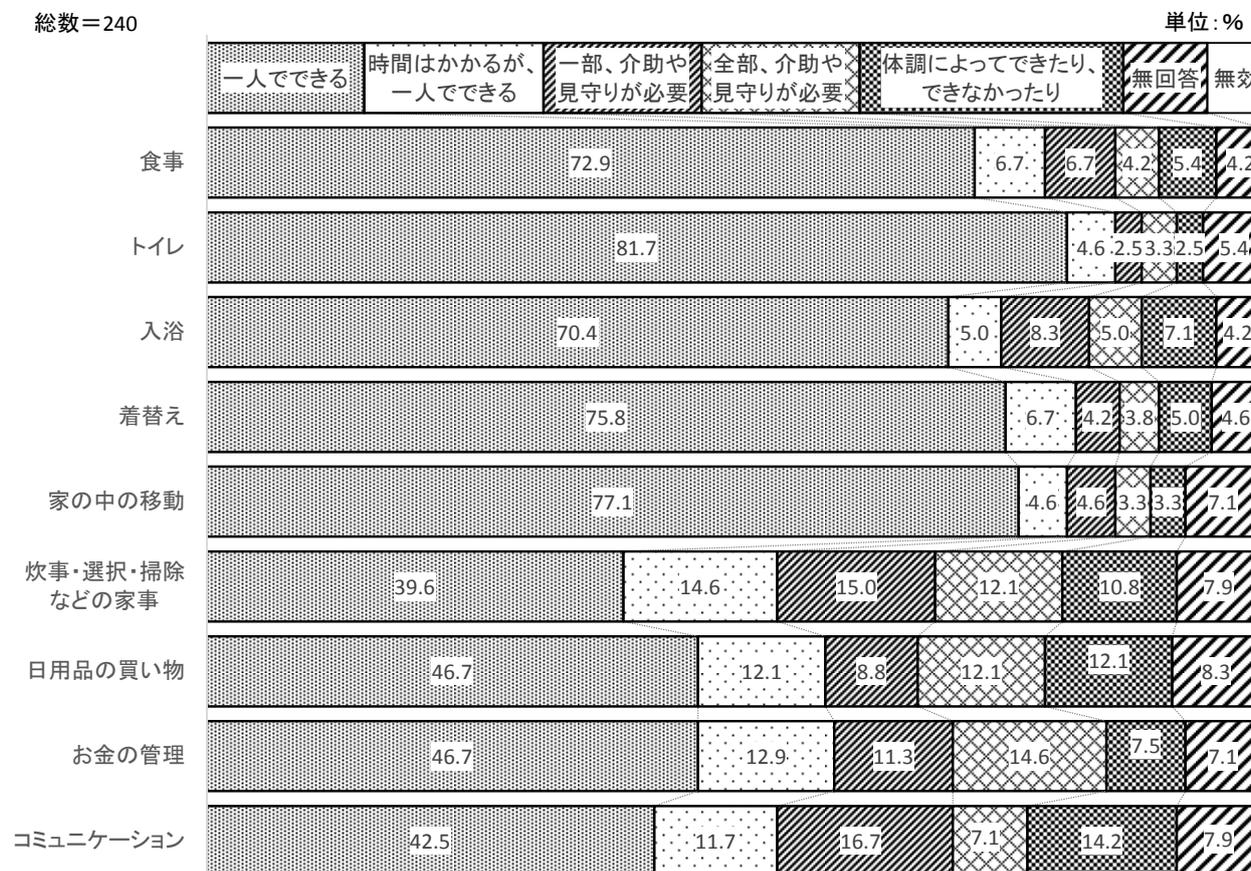
単位：%



問 17. 日常生活の状況（知的障害）



問 17. 日常生活の状況（精神障害）

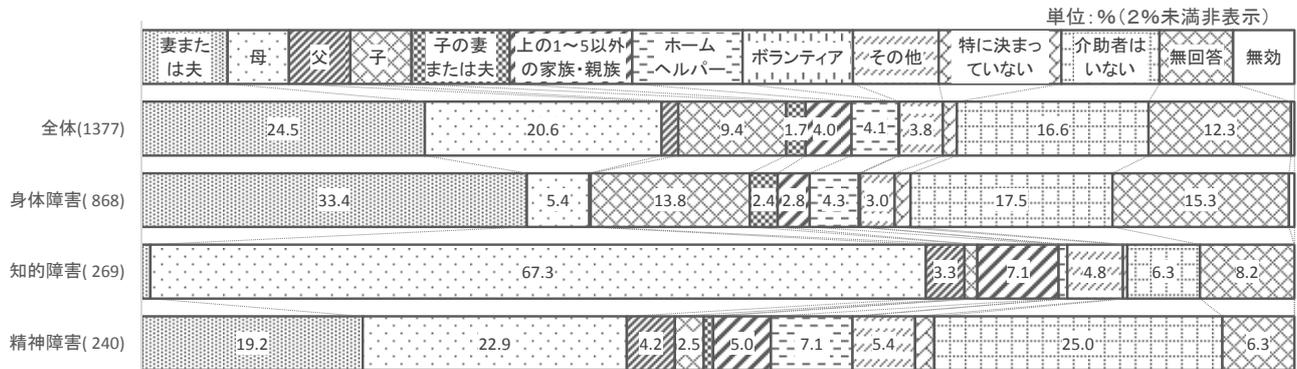


## (2) 主な介助者について

### ① 主な介助者

○主な介助者については、身体障害では配偶者が約33%と最も高く、知的障害では「母」が7割弱と大半を占めている。また、精神障害においては配偶者及び両親を抜いて「介助者はいない」が25%と最も高く、知的障害は約6%と低い。

問 18. 主な介助者 × 障害種類別



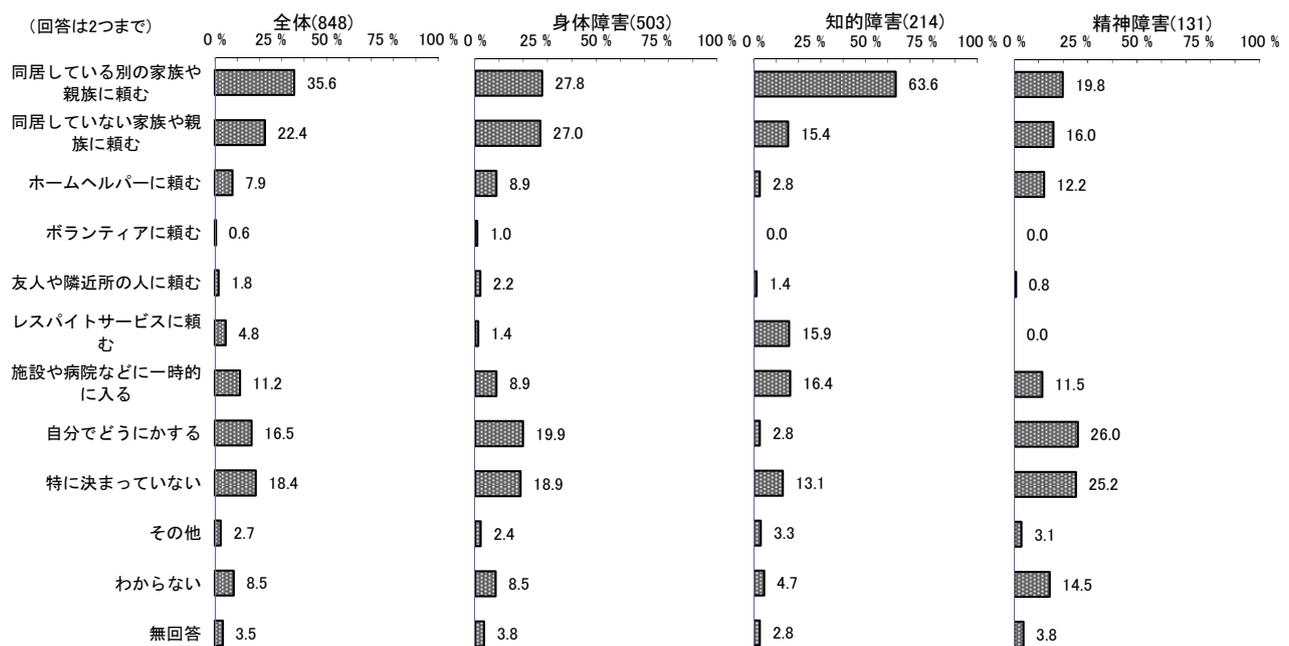
※2%未満数値：全体 (1.5、1.7、0.1、1.2、0.3) 身体障害 (0.1、0.1、1.4、0.5) 知的障害 (0.7、1.1、-、0.7、-、0.4、-) 精神障害 (0.8、-、1.7、-)

### ② 主な介助者が一時的に介助できない場合

○主な介助者が病気や用事等で一時的に介助できない場合は、「同居している別の家族や親族に頼む」割合が高いが、「同居していない家族や親族に頼む」割合も比較的高い。

○障害別では、身体障害と精神障害では「自分でどうにかする」が2割程度だが、知的障害はわずかであり、施設等の短期入所やレスパイトサービスを利用する割合が高い。

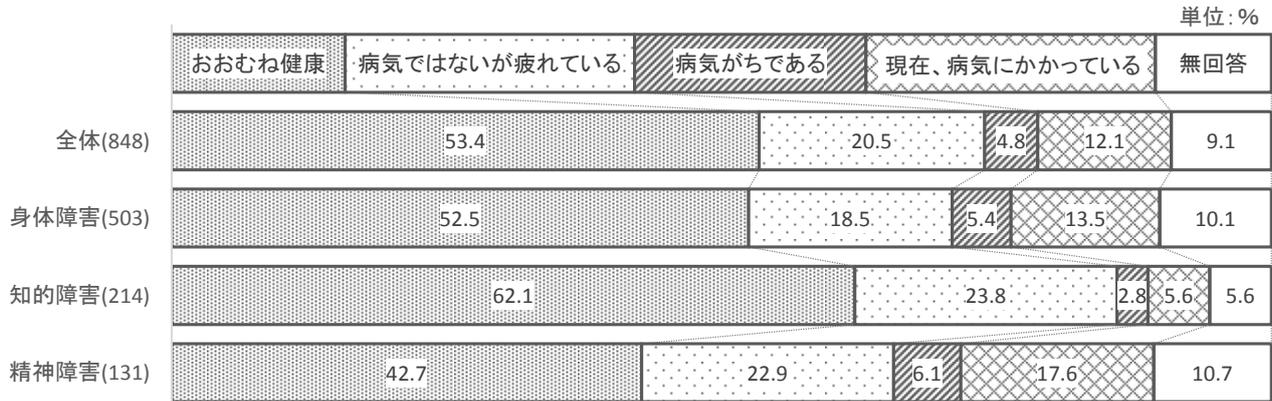
問 18-1. 主な介助者が一時的に介助できない場合 × 障害種類別



### ③ 主な介助者の健康状態

- 介助者自身の健康状態については、「おおむね健康」は半数程度であり、「病気ではないが疲れている」人が2割程度、「病気にかかっている」の人が1割を超えている。
- 障害別では、精神障害の介助者について、健康な人は5割を切っており、疲れている人と病気の人がそれぞれ2割以上と比較的厳しい状況である。

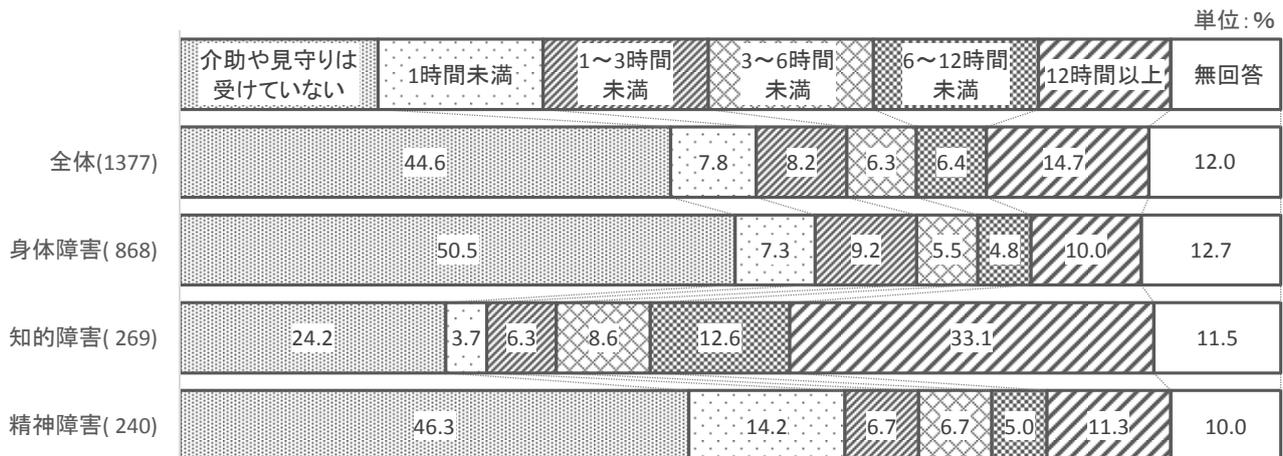
問 18-2. 主な介助者の健康状態 × 障害種類別



### ④ 介助や見守りを受けている時間

- 介助や見守りを受けている一日あたりの時間は、全体では「介助や見守りは受けていない」が約45%と最も多く、ついで「12時間以上」が約15%と多い。
- 障害別では、身体障害と精神障害は「介助や見守りは受けていない」と「1時間未満」を合わせると、6割程度と比較的高い。一方、知的障害が「介助や見守りを受けていない」人が約24%にとどまり、逆に「12時間以上」が約33%と高く、6時間以上の割合が約45%と高くなっている。

問 19. 介助や見守りを受けている時間 × 障害種類別



## 6 外出について

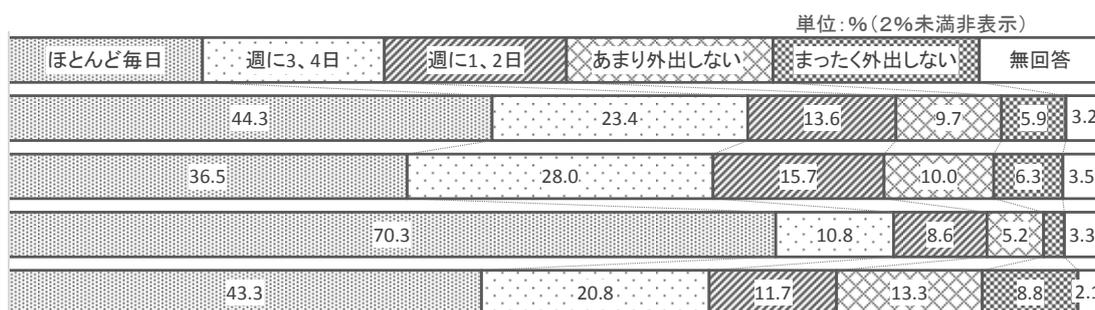
### (1) 1週間での外出日数

#### ① 外出の頻度

○1週間のうち外出する日数は、全体では4割以上が「ほとんど毎日」外出しており、「週に3、4日」外出する人も2割以上いる。「まったく外出しない」人は6%弱と少ない。

○障害別では、知的障害で外出頻度が特に高く「ほとんど毎日」が7割を超えている。また、精神障害で「あまり外出しない」「まったく外出しない」を合わせると20%を超えており、比較的高くなっている。

問 20. 外出の頻度（1週間での外出日数） × 障害種類別



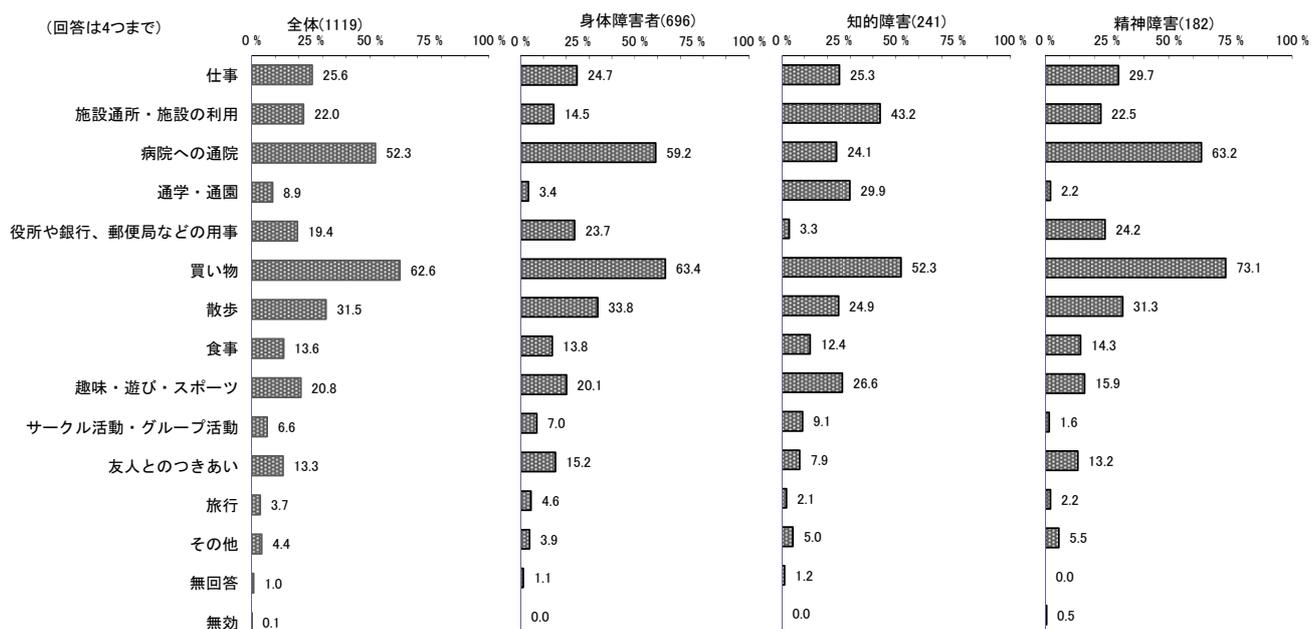
※2%未満数値：知的障害（1.9）

#### ② 外出の目的

○週に1日以上外出する人は、全体的に「買い物」「病院への通院」「散歩」を目的とする人が多い。

○障害別では、外出頻度が高い知的障害者について、若い人や18歳以下の子どもが多いことから、毎日施設や学校へ通っている様子が見える。

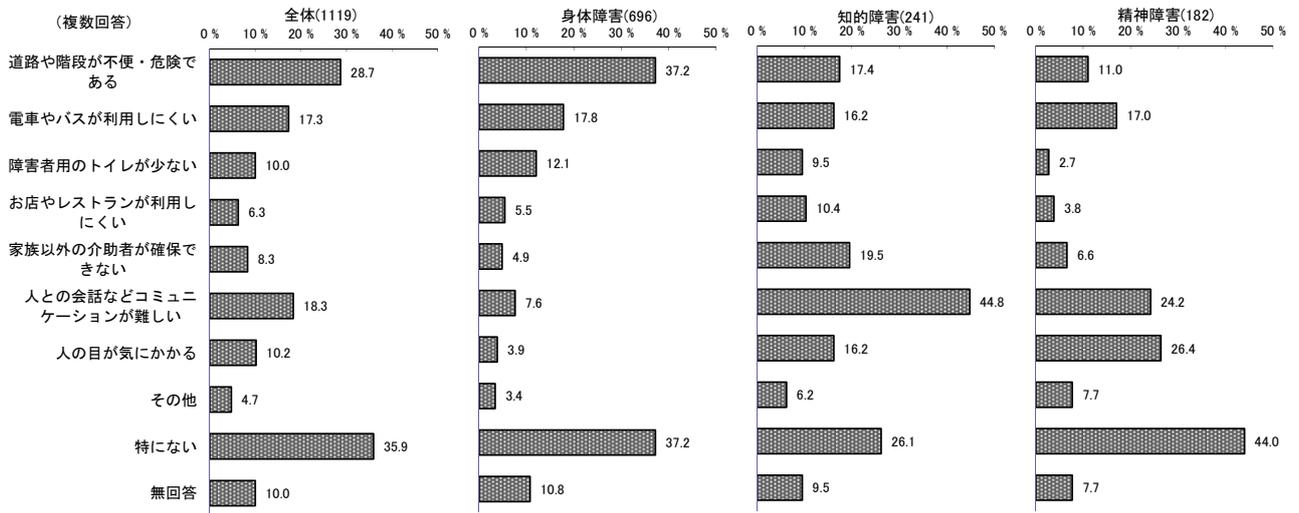
問 20-1. 外出の目的 × 障害種類別



### ③ 外出したときに困ること

○外出したときに困ることとして、障害別では、身体障害が「道路や階段が不便・危険である」を挙げる人が最も多く、知的障害では「人との会話などコミュニケーションが難しい」が4割を超え多くなっている。精神障害は、「人の目が気にかかる」を挙げる人が多いが、一方で、4割以上が「特にない」としている。

問 20-2. 外出したときに困ること × 障害種類別

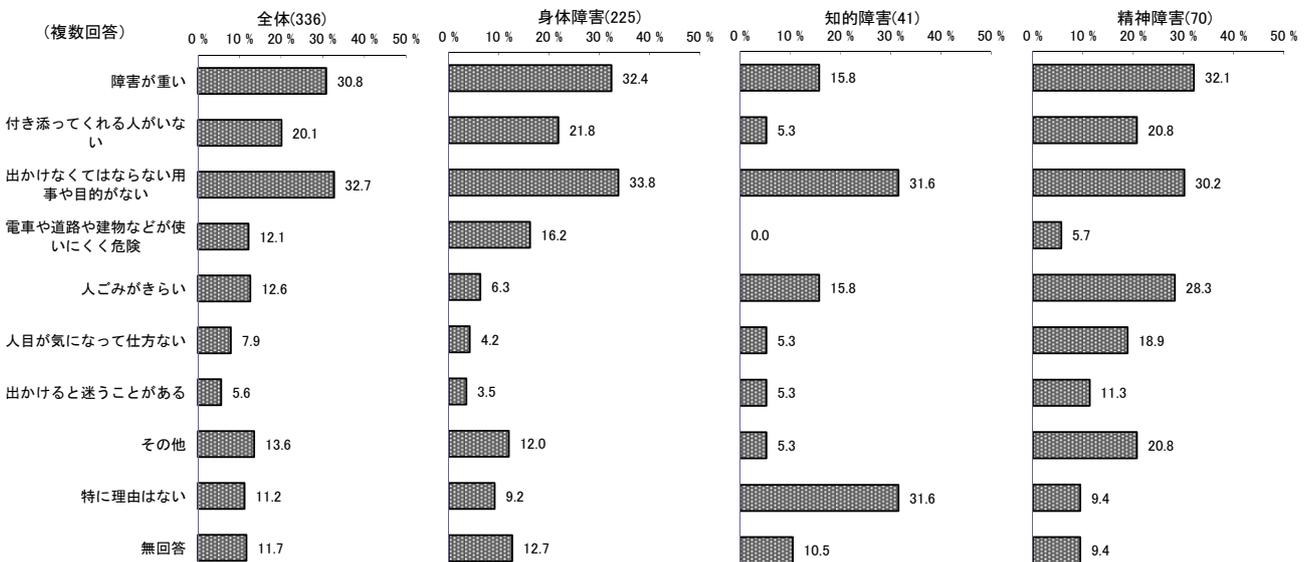


### ④ 外出しない理由

○ふだん「あまり外出しない」「まったく外出しない」人において、外出しない理由を聞いたところ、全体では「用事や目的がない」「障害が重い」を挙げる割合が高い。

○障害別では、身体障害では「電車や道路や建物などが使いにくく危険」「付き添ってくれる人がいない」、精神障害では、「人ごみがきらい」「人目が気になって仕方ない」などを挙げる割合が比較的高い。

問 20-3. 外出しない理由 × 障害種類別



## 7 サービスの利用の状況と今後の展望について

### (1) サービスの利用状況と満足度・今後の利用意向

#### ① 身体障害

○身体障害では、「(23)補装具の交付・修理」「(8)自立訓練（機能訓練）」「(2)居宅介護（家事援助）」  
「(1)居宅介護（身体介護）」「(22)日常生活用具の給付や貸し出し」の利用が多く、利用の評価では、  
「満足」から「普通」の評価が多くなっている。

○今後、利用したいサービスとして全体的に低くなっているが、「(17)入所施設」「(20)相談窓口・ケ  
ースワーカー」「(23)補装具の交付・修理」「(8)自立訓練（機能訓練）」など現在利用している割合  
が高いサービスが比較的高くなっている。

問 21. 身体障害 サービスの利用状況と満足度・今後の利用意向（総数＝868）

現在の利用状況	利用している割合	満足度					今後の利用意向	
		満足	やや満足	普通	やや不満	不満		
訪問	(1)居宅介護(身体介護)	6.5	2.6	1.7	1.7	0.3	-	2.2
	(2)居宅介護(家事援助)	6.6	3.0	1.5	1.7	0.1	0.2	3.3
	(3)居宅介護(移動介護)	3.8	1.3	0.9	1.6	-	-	1.3
	(4)重度訪問介護	1.8	0.7	0.2	0.8	-	0.1	0.2
	(5)同行援護	3.0	1.4	0.5	1.2	-	-	1.5
	(6)行動援護	2.2	0.5	0.5	0.9	0.2	0.1	0.7
日中活動	(7)生活介護	5.3	1.0	2.0	1.7	0.2	0.3	1.3
	(8)自立訓練(機能訓練)	7.1	2.8	2.0	1.7	0.5	0.2	3.2
	(9)自立訓練(生活訓練)	3.6	1.4	0.7	1.0	0.2	0.2	1.0
	(10)就労移行支援	1.5	0.3	0.5	0.6	0.1	-	0.2
	(11)就労継続支援A型	1.6	0.3	0.6	0.5	0.1	0.1	0.3
	(12)就労継続支援B型	1.7	0.6	0.5	0.5	0.2	-	0.2
	(13)療養介護	1.6	0.3	0.5	0.6	0.1	0.1	1.3
	(14)短期入所(ショートステイ)	3.9	1.0	1.3	1.5	-	0.1	2.4
	(15)地域活動支援センター	3.8	1.8	0.7	1.3	-	-	1.4
居住	(16)共同生活援助(グループホーム等)	2.3	0.6	1.2	0.6	-	-	1.0
	(17)入所施設	5.2	1.7	2.1	1.0	0.2	0.1	4.1
支相談	(18)計画相談支援・障害児相談支援	3.7	1.0	0.5	1.7	0.1	0.3	2.1
	(19)地域移行支援	2.9	0.7	0.3	1.3	0.2	0.3	1.6
生活支援	(20)相談窓口・ケースワーカー	6.0	2.3	1.2	1.8	0.2	0.5	3.5
	(21)手話通訳者や要約筆記者の派遣サービス	2.4	0.9	0.7	0.8	-	-	0.6
	(22)日常生活用具の給付や貸し出し	6.5	2.6	2.2	1.2	0.1	0.3	2.4
	(23)補装具の交付・修理	10.0	3.0	2.9	2.8	0.9	0.5	3.3
	(24)自動車免許の取得等にかかる費用の助成	2.0	0.3	0.5	0.7	0.1	0.3	0.9
	(25)リフト付きワゴン車の貸し出し	0.8	0.1	0.2	0.5	-	-	1.2
	(26)緊急通報システム	2.4	0.7	0.8	0.6	0.3	-	2.9
	(27)レスパイトサービス	1.4	0.3	0.7	0.3	-	-	0.7
	(28)移動支援	3.7	1.4	1.2	0.9	0.1	0.1	2.4
	(29)日中一時支援	2.5	0.7	0.8	0.9	-	0.1	1.5
障害児	(30)児童発達支援	1.6	0.3	0.8	0.3	-	0.1	0.5
	(31)放課後等デイサービス	1.4	0.2	0.7	0.5	-	-	0.5
	(32)保育所等訪問支援	0.7	0.1	0.2	0.3	-	-	0.1

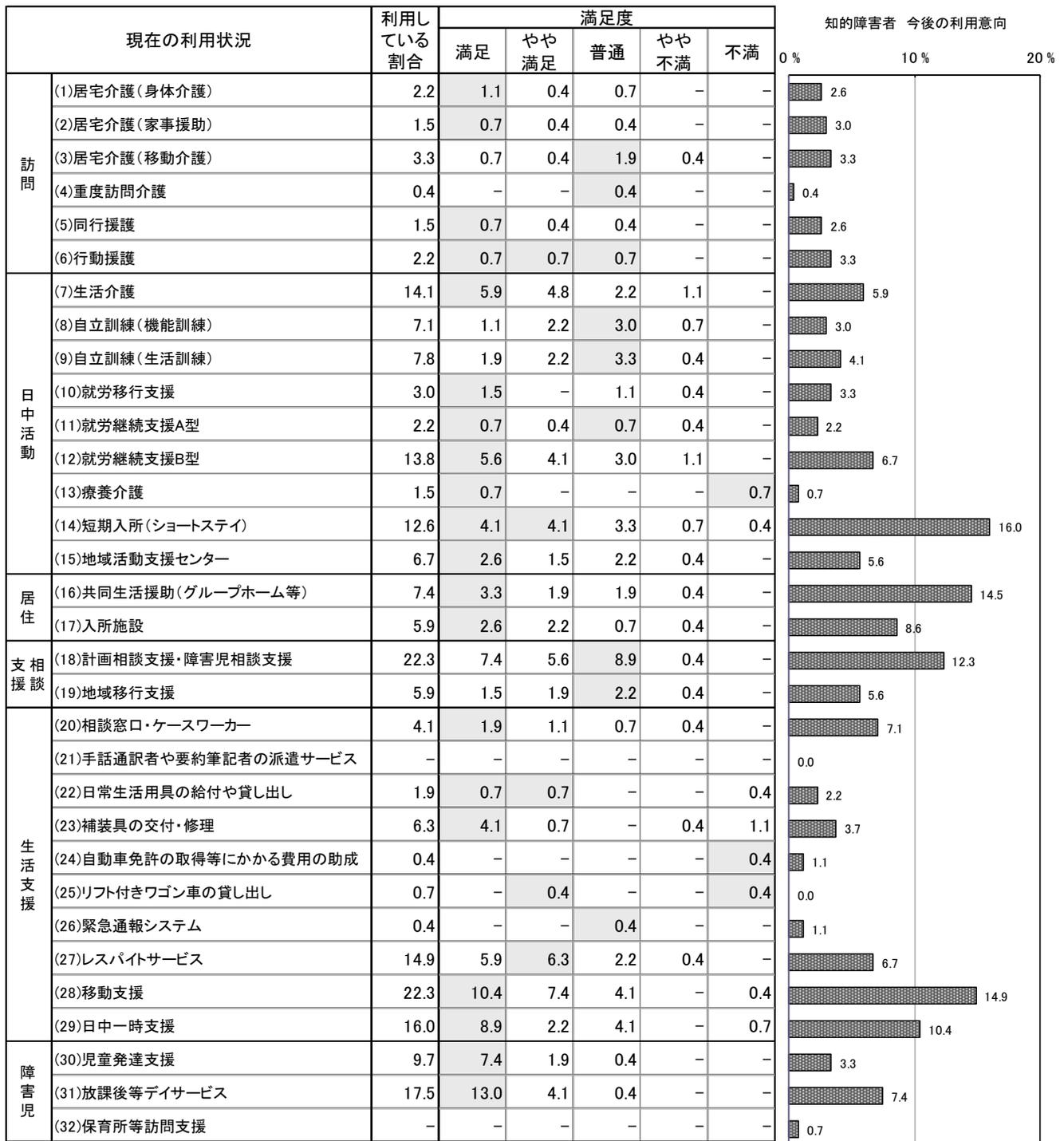
※表中の網掛けは、評価の中で最も高い割合。

② 知的障害

○知的障害では、「(18)計画相談支援・障害児相談支援」「(28)移動支援」が双方2割以上の利用率である。その他では、「(31)放課後等デイサービス」「(29)日中一時支援」「(27)レスパイトサービス」の利用が比較的多く、日中活動では、「(7)生活介護」「(12)就労継続支援B型」「(14)短期入所(ショートステイ)」の利用が多い。利用の評価では、利用割合が低い生活支援で一部不満があるが、全体的に「満足」が多くなっている。

○今後、利用したいサービスとしては、「(14)短期入所」「(28)移動支援」「(16)共同生活援助(グループホーム等)」など、現在も利用率が高いものが多くなっている。

問 21. 知的障害 サービスの利用状況と満足度・今後の利用意向 (総数=269)



### ③ 精神障害

○精神障害では、「(20)相談窓口・ケースワーカー」「(15)地域活動支援センター」「(18)計画相談支援・障害児相談支援」の利用が比較的高い。利用の評価では、「満足」から「普通」の評価が多くなっている。

○今後、利用したいサービスとしては、「(15)地域活動支援センター」「(20)相談窓口・ケースワーカー」が高く、また「(10)就労移行支援」「(11)就労継続支援 A 型」「(12)就労継続支援 B 型」も比較的高くなっている。

問 21. 精神障害 サービスの利用状況と満足度・今後の利用意向（総数＝240）

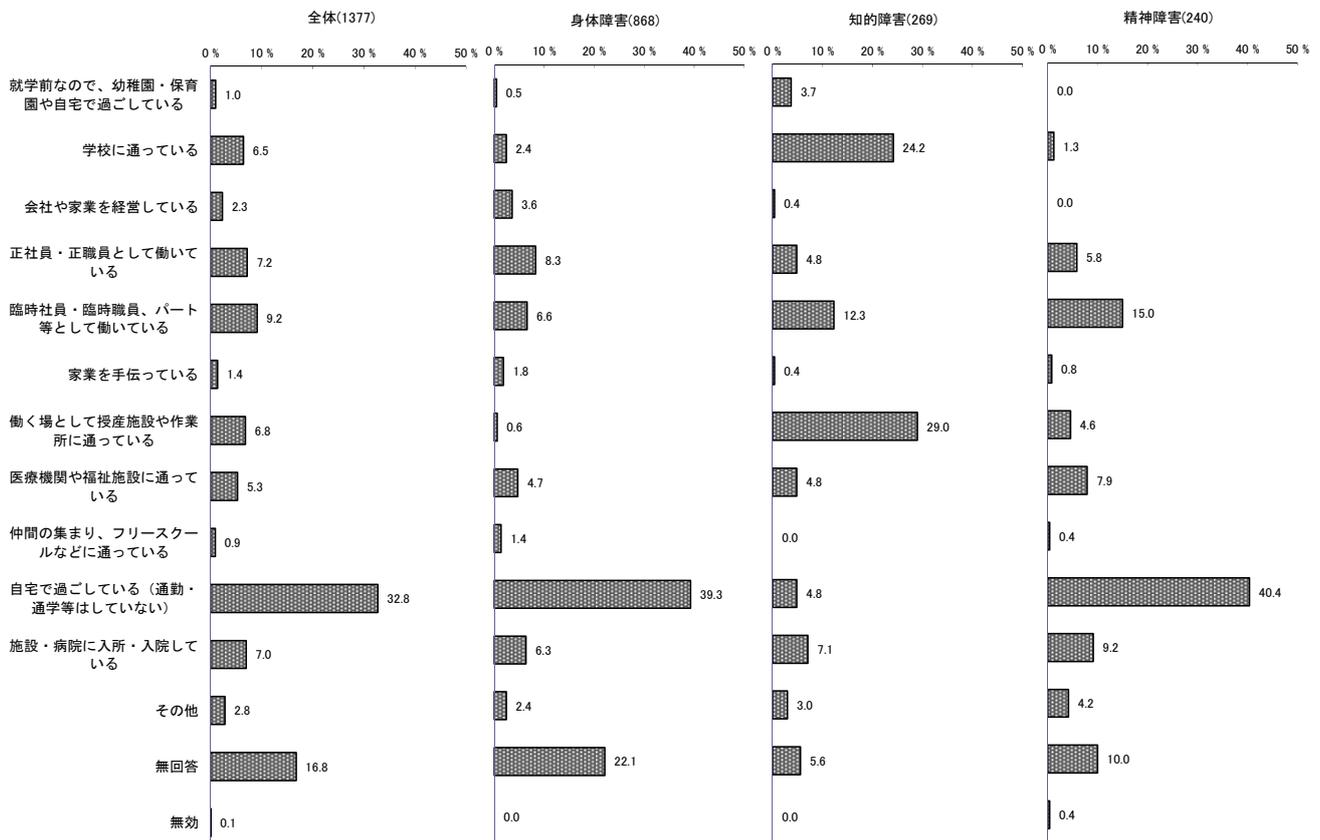
現在の利用状況	利用している割合	満足度					精神障害者 今後の利用意向	
		満足	やや満足	普通	やや不満	不満		
訪問	(1)居宅介護(身体介護)	5.8	1.7	1.3	2.5	-	0.4	1.3
	(2)居宅介護(家事援助)	8.8	6.3	0.8	0.8	0.4	0.4	4.6
	(3)居宅介護(移動介護)	2.9	0.8	0.8	0.8	-	0.4	1.3
	(4)重度訪問介護	1.7	0.4	0.4	0.4	-	0.4	0.4
	(5)同行援護	3.3	1.3	0.4	0.8	0.4	0.4	1.3
	(6)行動援護	2.5	1.3	0.4	0.4	-	0.4	2.1
日中活動	(7)生活介護	5.8	1.3	2.5	0.8	0.8	0.4	1.3
	(8)自立訓練(機能訓練)	5.8	1.7	1.3	2.1	0.4	0.4	0.8
	(9)自立訓練(生活訓練)	7.5	3.3	1.7	1.7	0.4	0.4	2.9
	(10)就労移行支援	7.9	2.1	1.7	2.9	0.8	0.4	5.4
	(11)就労継続支援A型	4.6	1.3	0.4	1.3	0.8	0.8	5.0
	(12)就労継続支援B型	7.9	2.5	1.3	1.7	2.1	0.4	3.3
	(13)療養介護	1.7	-	-	0.8	0.4	0.4	0.8
	(14)短期入所(ショートステイ)	3.3	-	1.3	1.3	0.4	0.4	2.1
(15)地域活動支援センター	11.3	3.3	0.8	4.2	1.7	1.3	7.1	
居住	(16)共同生活援助(グループホーム等)	3.8	0.8	0.4	1.3	0.4	0.8	3.3
	(17)入所施設	3.3	0.4	0.8	1.3	0.4	0.4	2.9
支相談	(18)計画相談支援・障害児相談支援	10.8	4.2	2.5	2.1	0.8	1.3	4.2
	(19)地域移行支援	4.2	0.8	0.8	1.3	-	1.3	1.7
生活支援	(20)相談窓口・ケースワーカー	16.3	6.3	5.0	3.3	-	1.7	7.1
	(21)手話通訳者や要約筆記者の派遣サービス	1.3	-	0.8	-	-	0.4	0.4
	(22)日常生活用具の給付や貸し出し	2.5	0.4	0.8	0.8	-	0.4	1.3
	(23)補装具の交付・修理	1.3	-	0.4	0.4	-	0.4	0.8
	(24)自動車免許の取得等にかかる費用の助成	1.7	-	0.8	-	-	0.8	1.7
	(25)リフト付きワゴン車の貸し出し	0.8	-	0.4	-	-	0.4	0.8
	(26)緊急通報システム	2.1	0.4	1.3	-	-	0.4	2.5
	(27)レスパイトサービス	2.5	0.4	0.8	0.4	0.4	0.4	0.8
	(28)移動支援	3.8	1.3	0.8	-	0.4	1.3	2.9
	(29)日中一時支援	2.1	-	1.3	0.4	-	0.4	2.1
障害児	(30)児童発達支援	0.8	-	0.4	-	-	0.4	0.0
	(31)放課後等デイサービス	1.7	-	0.4	0.4	-	0.8	0.0
	(32)保育所等訪問支援	0.8	-	0.4	-	-	0.4	0.0

## 8 日中活動について

### (1) 日中の過ごし方

- 身体障害では、「自宅で過ごしている」が約4割と最も多い。働いている人は全体の約2割で、内訳は「正社員・正職員」(約8%)、「臨時職員等」(約7%)、「会社・家業の経営」(約4%)、「家業の手伝い」(約2%)、「働く場として授産施設や作業所に通っている」(約1%)となっている。なお、身体障害では65歳以上が7割以上を占めていることに留意する必要がある。
- 知的障害では、若い年代層が多いため、4人に1人程度が学校に通っている。働いている人は全体の5割弱と多く、詳細としては「働く場として授産施設や作業所に通っている」が約29%と最も多く、「臨時職員等」が約12%と続いている。一方、「自宅で過ごしている」は約5%と、他の障害と比較すると30ポイント以上低くなっている。
- 精神障害では、「自宅で過ごしている」が4割以上を占め最も多い。ついで多いのが、「臨時職員等」約15%となり、働いている人の割合は合わせて約26%となっている。施設や病院に入所・入院または通所・通院している割合は、約17%と比較的高めになっている。

問 22. 日中の過ごし方 × 障害種類別



- 年齢別で見ると、身体障害においては、未成年では「学校に通っている」が大半を占め、20～40歳代では、働いている人（会社、家業の経営、正社員、臨時職員、家業の手伝い、授産施設等の計）が半数以上を占めている。50歳以上になると、働く人が徐々に減る反面「自宅で過ごしている」割合が増え、65歳以上になると「施設・病院に入所・入院、通院」も増える傾向にある。
- 知的障害においては、17歳以下では通学している人がほとんどであり、20～50歳代で働いている人の割合が高くなっている。
- 精神障害においては、20・30歳代においては「自宅で過ごしている」より働いている割合が多いが、40歳代を境に「自宅で過ごしている」割合が多くなっている。「自宅で過ごしている」割合は50歳代で最も多く6割弱となり、60歳代以上になると、「施設・病院に入所・入院」が2割以上を占めている。

問 22. 身体障害 日中の過ごし方 ×年齢別

	全体	就学前なので、幼稚園や自宅で過ごしている	学校に通っている	会社や家業を営んでいる	正社員・正職員として働いている	臨時社員・臨時職員、パート等として働いている	家業を手伝っている	働く場として授産施設や作業所に通っている	医療機関や福祉施設に通っている	仲間の集まり、フリースクールなどに通っている	自宅で過ごしている（通勤・通学等はない）	施設・病院に入所・入院している	その他	無回答	無効	
全体	868 100.0	4 0.5	21 2.4	31 3.6	72 8.3	57 6.6	16 1.8	5 0.6	41 4.7	12 1.4	341 39.3	55 6.3	21 2.4	192 22.1	-	
年齢	0～5歳	3 100.0	3 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	6～11歳	5 100.0	-	4 80.0	-	-	-	-	-	-	1 20.0	-	-	-	-	
	12～14歳	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	15～17歳	10 100.0	-	10 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	18～19歳	2 100.0	-	1 50.0	-	-	-	1 50.0	-	-	-	-	-	-	-	
	20～29歳	11 100.0	-	2 18.2	-	4 36.4	1 9.1	-	1 9.1	-	2 18.2	1 9.1	-	-	-	
	30～39歳	19 100.0	-	1 5.3	1 5.3	9 47.4	2 10.5	-	1 5.3	-	2 10.5	1 5.3	-	2 10.5	-	
	40～49歳	46 100.0	-	1 2.2	1 2.2	17 37.0	4 8.7	2 4.3	1 2.2	2 4.3	13 28.3	3 6.5	-	2 4.3	-	
	50～59歳	73 100.0	1 1.4	-	4 5.5	18 24.7	12 16.4	-	1 1.4	3 4.1	-	25 34.2	3 4.1	1 1.4	5 6.8	-
	60～64歳	77 100.0	-	1 1.3	6 7.8	14 18.2	12 15.6	1 1.3	1 1.3	2 2.6	-	28 36.4	2 2.6	4 5.2	6 7.8	-
	65～74歳	257 100.0	-	-	8 3.1	7 2.7	21 8.2	6 2.3	1 0.4	12 4.7	8 3.1	118 45.9	11 4.3	8 3.1	57 22.2	-
	75歳以上	351 100.0	-	-	11 3.1	1 0.3	5 1.4	6 1.7	-	20 5.7	4 1.1	148 42.2	32 9.1	8 2.3	116 33.0	-
	無回答	13 100.0	-	-	-	2 15.4	-	1 7.7	-	-	-	4 30.8	2 15.4	-	4 30.8	-

問 22. 知的障害 日中の過ごし方 ×年齢別

		全体	就学前なので、幼稚園や自宅で過ごしている	学校に通っている	会社や家業を営んでいる	正社員・正職員として働いている	臨時社員・臨時職員、パート等として働いている	家業を手伝っている	働く場として授産施設や作業所に通っている	医療機関や福祉施設に通っている	仲間の集まり、フリースクールなどに通っている	自宅で過ごしている（通勤・通学等はない）	施設・病院に入院している	その他	無回答	無効	
		269 100.0	10 3.7	65 24.2	1 0.4	13 4.8	33 12.3	1 0.4	78 29.0	13 4.8	-	13 4.8	19 7.1	8 3.0	15 5.6	-	
年齢	0~5歳	14 100.0	10 71.4	-	-	-	-	-	-	-	-	1 7.1	-	2 14.3	1 7.1	-	
	6~11歳	29 100.0	-	27 93.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 6.9	-	
	12~14歳	14 100.0	-	14 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	15~17歳	22 100.0	-	20 90.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2 9.1	-	-	
	18~19歳	8 100.0	-	1 12.5	-	-	1 12.5	-	4 50.0	2 25.0	-	-	-	-	-	-	-
	20~29歳	55 100.0	-	1 1.8	-	5 9.1	13 23.6	-	28 50.9	2 3.6	-	1 1.8	4 7.3	-	1 1.8	-	-
	30~39歳	47 100.0	-	-	1 2.1	3 6.4	9 19.1	-	18 38.3	3 6.4	-	5 10.6	3 6.4	2 4.3	3 6.4	-	-
	40~49歳	32 100.0	-	-	-	3 9.4	6 18.8	1 3.1	13 40.6	2 6.3	-	-	4 12.5	2 6.3	1 3.1	-	-
	50~59歳	24 100.0	-	-	-	1 4.2	2 8.3	-	10 41.7	1 4.2	-	2 8.3	4 16.7	-	4 16.7	-	-
	60~64歳	6 100.0	-	-	-	1 16.7	1 16.7	-	2 33.3	-	-	-	2 33.3	-	-	-	-
	65~74歳	10 100.0	-	-	-	-	-	-	1 10.0	3 30.0	-	3 30.0	2 20.0	-	1 10.0	-	-
	75歳以上	4 100.0	-	-	-	-	-	-	1 25.0	-	-	1 25.0	-	-	2 50.0	-	-
	無回答	4 100.0	-	2 50.0	-	-	1 25.0	-	1 25.0	-	-	-	-	-	-	-	-

問 22. 精神障害 日中の過ごし方 ×年齢別

		全体	就学前なので、幼稚園や自宅で過ごしている	学校に通っている	会社や家業を営んでいる	正社員・正職員として働いている	臨時社員・臨時職員、パート等として働いている	家業を手伝っている	働く場として授産施設や作業所に通っている	医療機関や福祉施設に通っている	仲間の集まり、フリースクールなどに通っている	自宅で過ごしている（通勤・通学等はない）	施設・病院に入院している	その他	無回答	無効	
		240 100.0	-	3 1.3	-	14 5.8	36 15.0	2 0.8	11 4.6	19 7.9	1 0.4	97 40.4	22 9.2	10 4.2	24 10.0	1 0.4	
年齢	0~5歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	6~11歳	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	12~14歳	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	15~17歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	18~19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	20~29歳	15 100.0	-	1 6.7	-	1 6.7	6 40.0	-	2 13.3	-	-	5 33.3	-	-	-	-	-
	30~39歳	46 100.0	-	-	-	5 10.9	12 26.1	-	5 10.9	4 8.7	-	17 37.0	1 2.2	2 4.3	-	-	
	40~49歳	65 100.0	-	-	-	5 7.7	11 16.9	-	1 1.5	8 12.3	1 1.5	24 36.9	2 3.1	4 6.2	9 13.8	-	
	50~59歳	52 100.0	-	-	-	3 5.8	4 7.7	-	1 1.9	3 5.8	-	30 57.7	4 7.7	2 3.8	4 7.7	1 1.9	
	60~64歳	22 100.0	-	-	-	-	2 9.1	2 9.1	1 4.5	-	-	8 36.4	5 22.7	-	4 18.2	-	
	65~74歳	21 100.0	-	-	-	-	-	-	-	3 14.3	-	10 47.6	6 28.6	1 4.8	1 4.8	-	
	75歳以上	11 100.0	-	-	-	-	-	-	-	1 9.1	-	-	4 36.4	1 9.1	5 45.5	-	
	無回答	6 100.0	-	-	-	-	1 16.7	-	1 16.7	-	-	3 50.0	-	-	1 16.7	-	

## (2) 通園・通学先

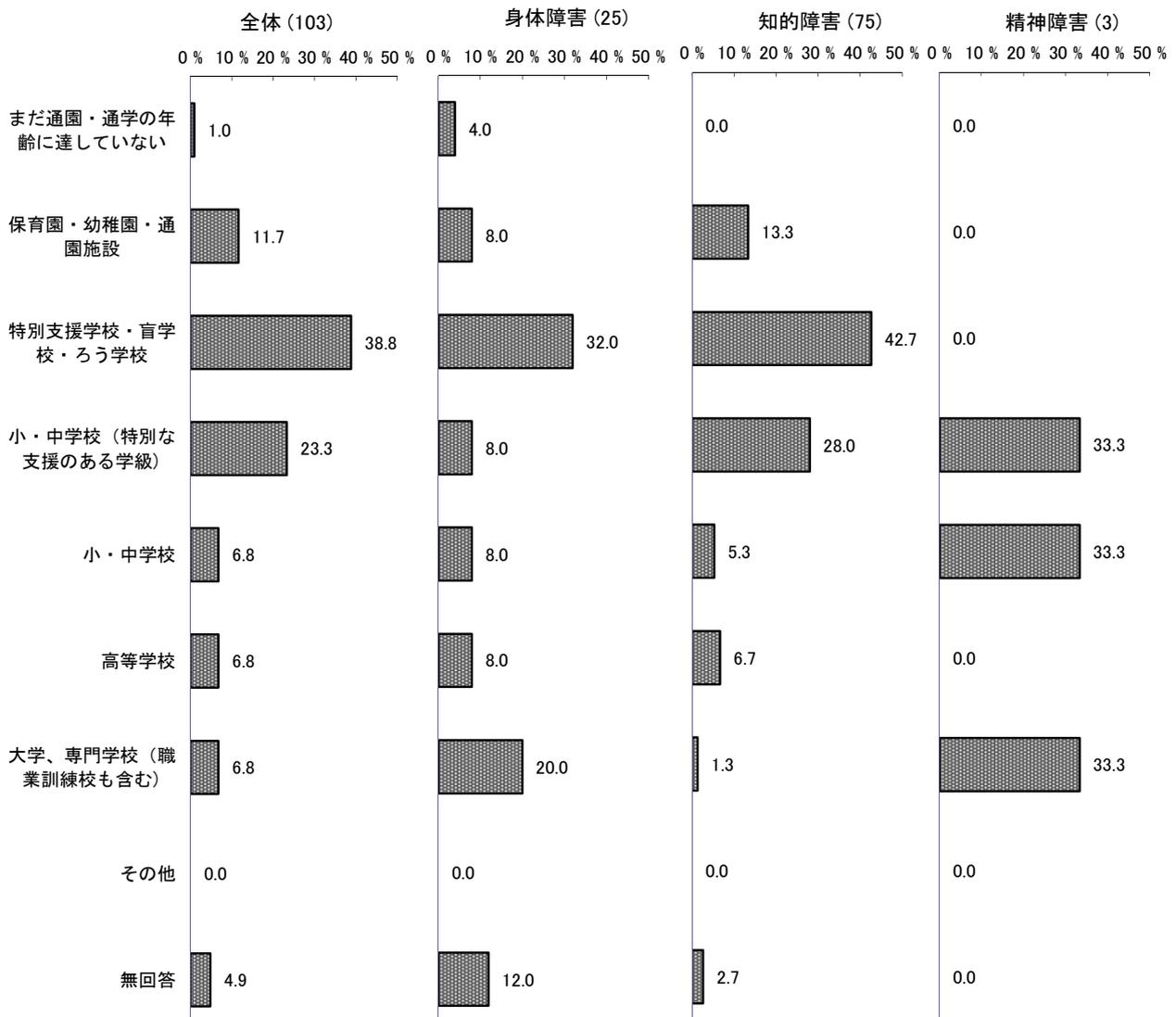
### ① 通園・通学先

○前設問で、「小学校就学前なので、幼稚園・保育所や自宅で過ごしている」「学校に通っている」と回答した人の通園・通学先について、全体では、「特別支援学校・盲学校・ろう学校」が約39%と最も多く、ついで「小・中学校（特別な支援のある学級）」が約23%と多くなっている。なお、対象者の数は、知的障害が最も多く精神障害は少ない。

○身体障害では、「特別支援学校・盲学校・ろう学校」が最も多く、「大学・専門学校」も比較的多くなっている。

○知的障害は、「特別支援学校・盲学校・ろう学校」が最も多く、「小・中学校（特別な支援のある学級）」に通う子どもも比較的多い。

問 23. 通園・通学先 × 障害種類別

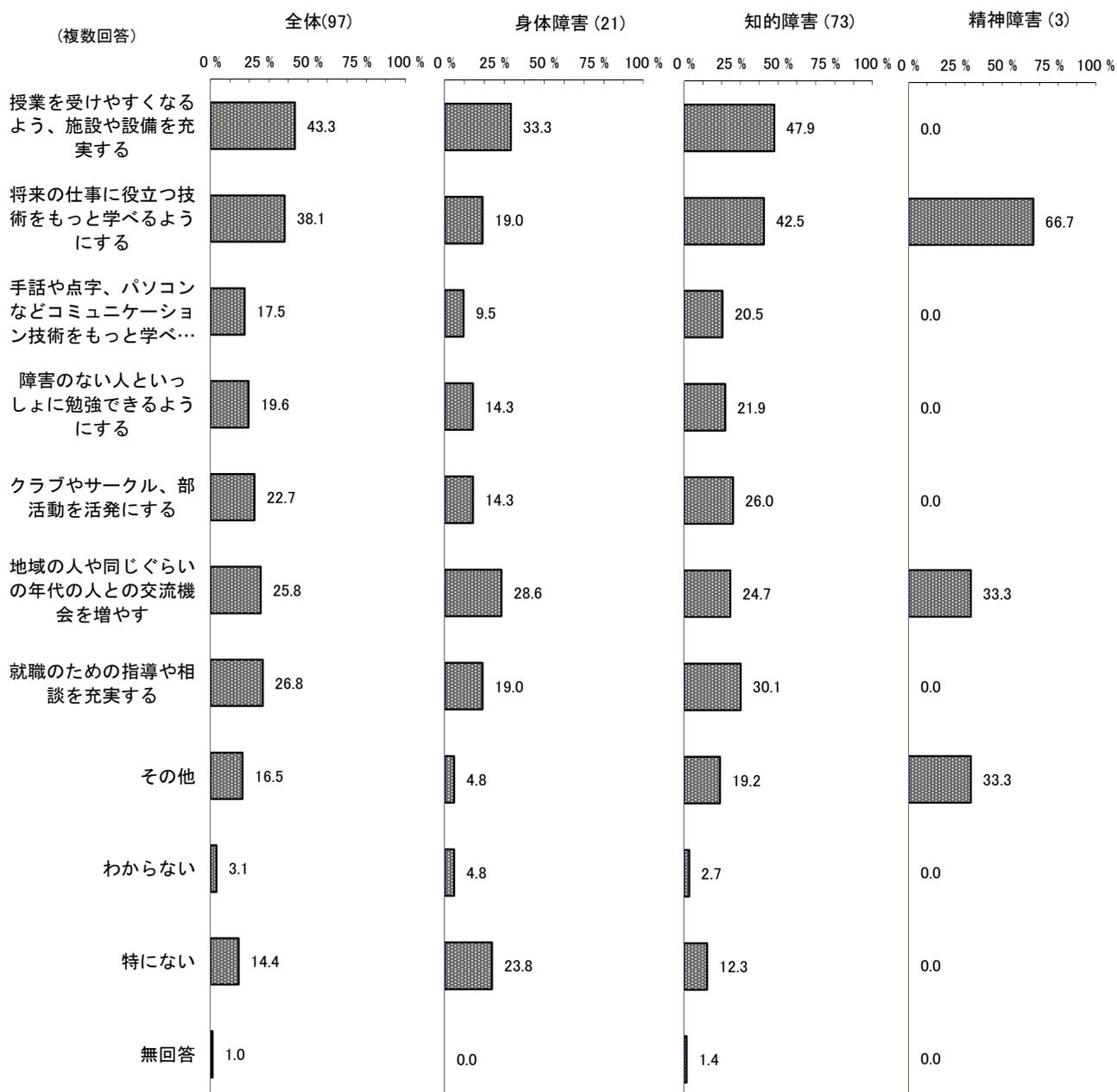


## ② 通っている学校をもっとよくする方法

○現在通っている学校などを、もっとよくするために必要なこととして、身体障害では「授業を受けやすくなるよう、施設や設備を充実する」が最も多く、「地域の人や同じくらいの年代の人との交流機会を増やす」がついで多くなっている。

○知的障害では、「授業を受けやすくなるよう、施設や設備を充実する」が最も多く半数程度の人が挙げている。「将来の仕事に役立つ技術をもっと学べるようにする」「就職のための指導や相談を充実する」などが比較的多く、将来に対する不安もうかがえる。

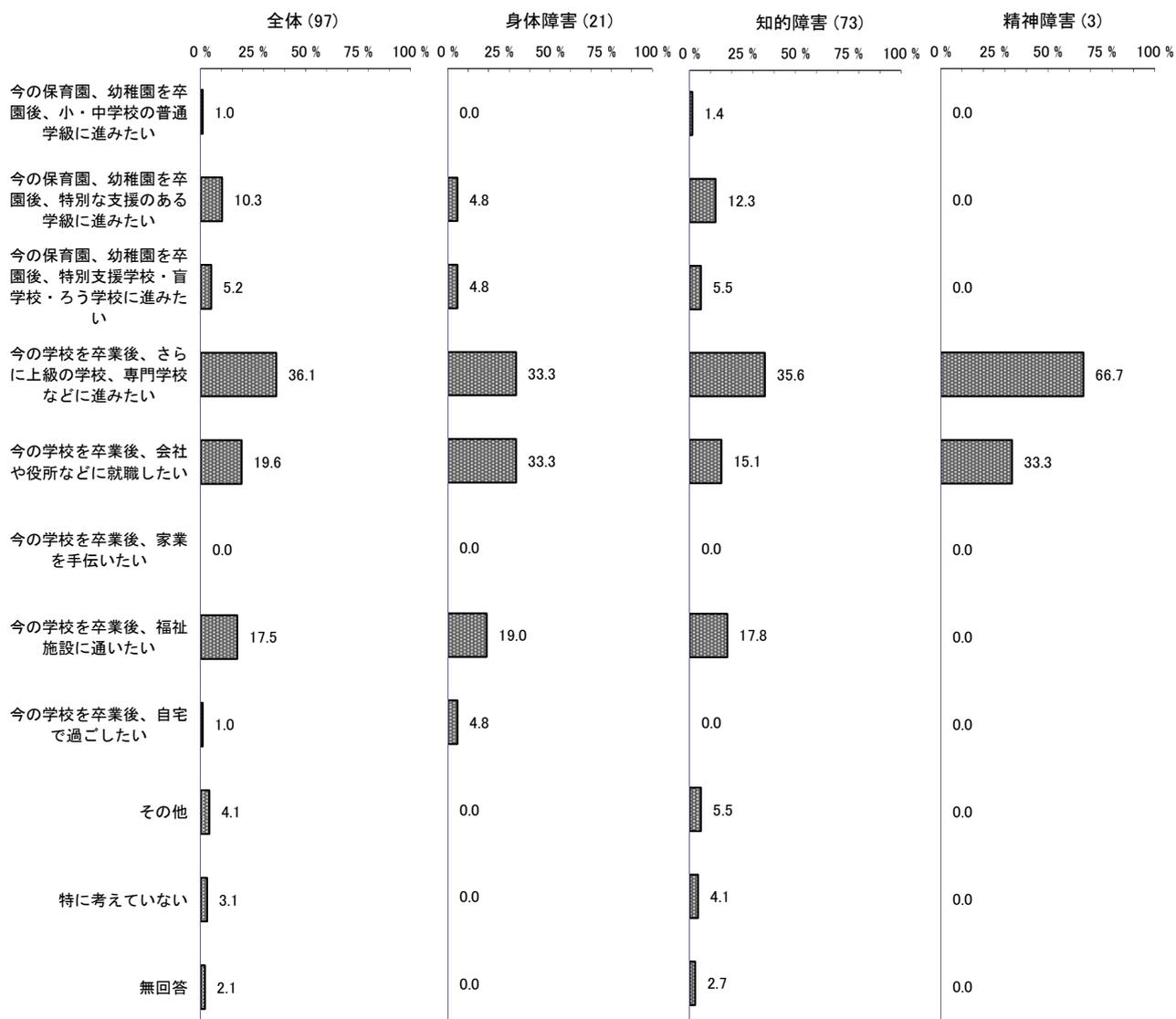
付問 23-1. 通っている学校をもっとよくする方法 × 障害種類別



### ③ 5年後の進路希望

○通園・通学している人の5年後の進路の希望は、全体では、「さらに上級の学校、専門学校など」が最も多く、「就職したい」という希望も比較的多く見られる。障害別で大きな差は見られないが、知的障害は若い年齢層も多く「特に考えていない」等の意見も見られる。

付問 23-2. 5年後の進路希望 × 障害種別

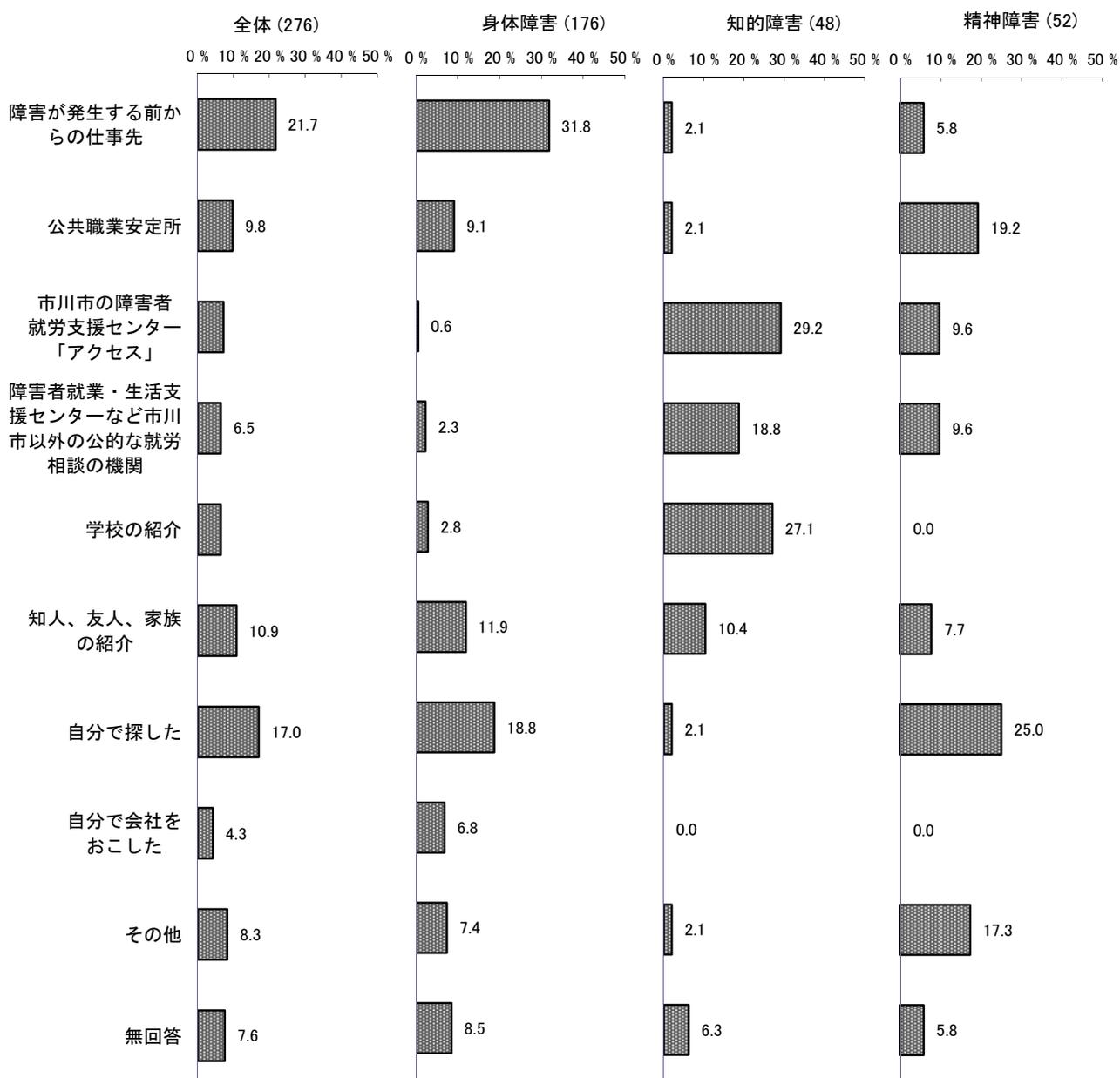


### (3) 一般就労状況

#### ① 現在の仕事を発見した方法

- 現在、仕事に就いている人が仕事を発見した方法については、身体障害では、「障害が発生する前からの仕事先」である場合が最も多く、自分で探した人、知人等からの紹介の人も比較的多い。
- 知的障害では、「障害者就労支援センター「アクセス」と「市川市以外の公的な就労相談の機関を通じて見つけた」人が多く、また「学校の紹介」の人も比較的多い。
- 精神障害では、「自分で探した」が最も多く、その他では公的な機関（公共職業安定所、障害者就労支援センター「アクセス」、市以外の公的な就労相談の機関）で見つけた人が多い。

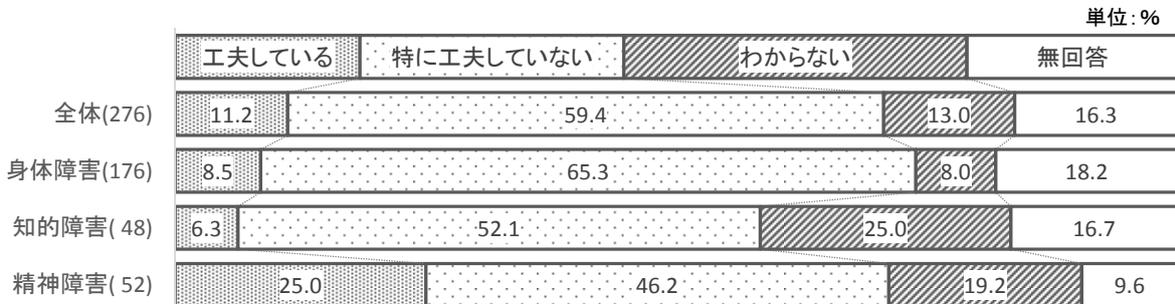
問 24. ①現在の仕事を発見した方法 ×障害種類別



② 現在の仕事は働きやすいように工夫していますか

○現在の仕事は働きやすいように工夫しているかどうかについては、「工夫している」と回答した割合は、精神障害で 25%と高く、知的障害で約 6%と低い。工夫した内容としては、労働時間の配慮（残業の調整や時短勤務等）に関するものが多い。

問 24. ②現在の仕事は働きやすいように工夫していますか ×障害種類別

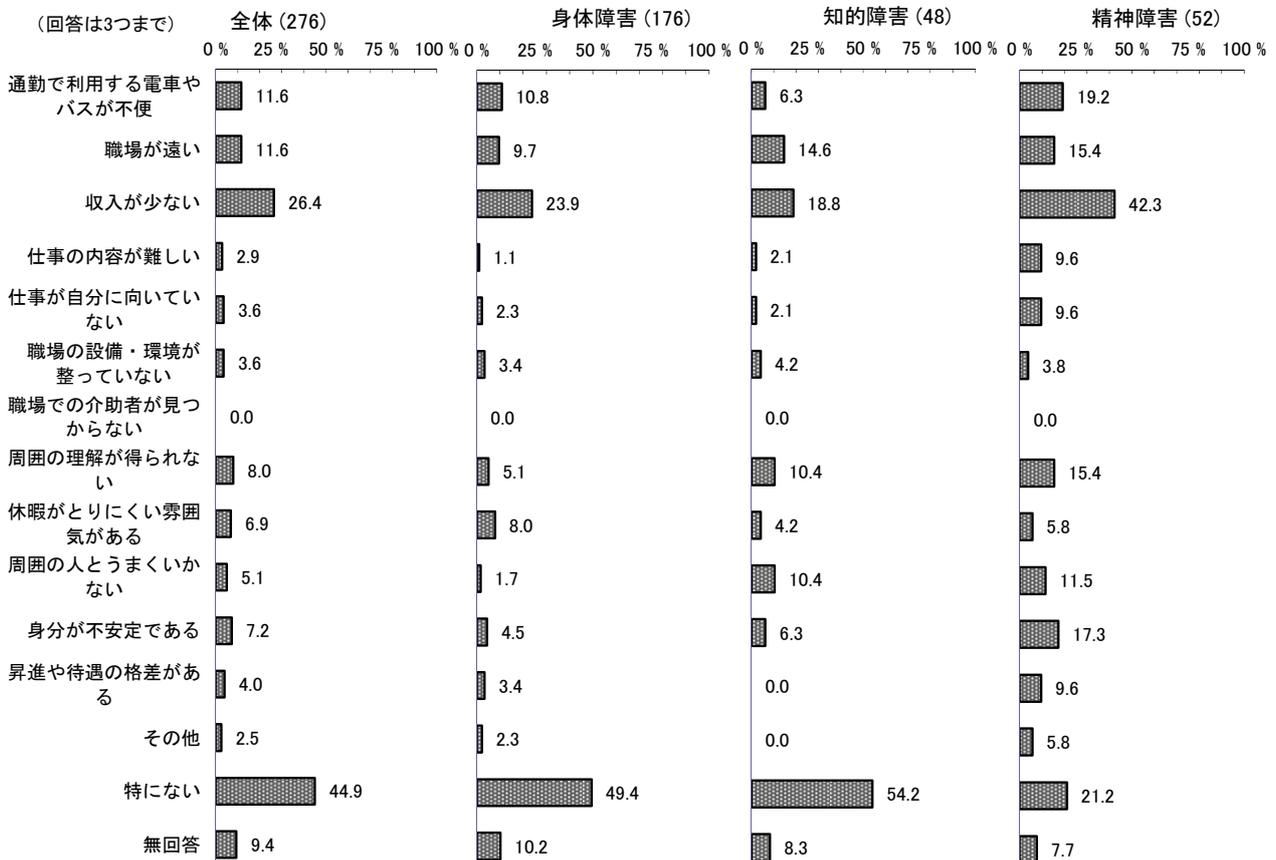


③ 仕事や職場について困っていること、不満なこと

○仕事や職場で困っていることや不安なことについては、障害に関わらず、「収入が少ないこと」が高くなっている。一方「特にない」も、半数程度の人が挙げている。

○知的障害・精神障害においては、「周囲の理解が得られない」「周囲の人とうまくいかない」などの人間関係に不満または困っている割合が比較的高くなっている。

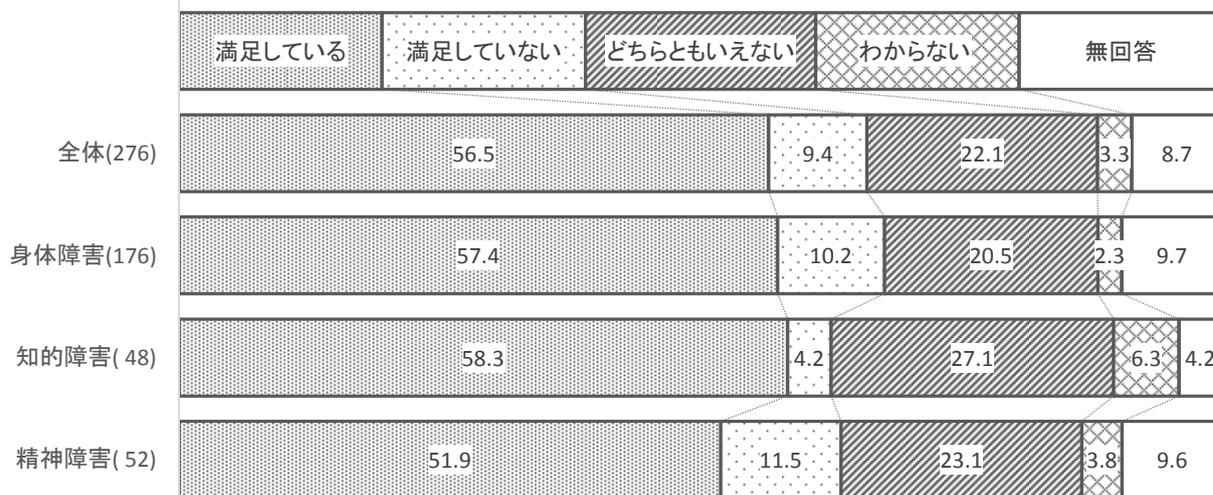
問 24. ③仕事や職場について困っていること、不満なこと ×障害種類別



#### ④ 現在の仕事先の満足度

○現在の仕事先・職場の満足度については、障害別ではあまり大差ないが、精神障害で、比較的「満足している」が低く、「満足していない」が高くなっている。

問 24. ④現在の仕事先の満足度 × 障害種類別

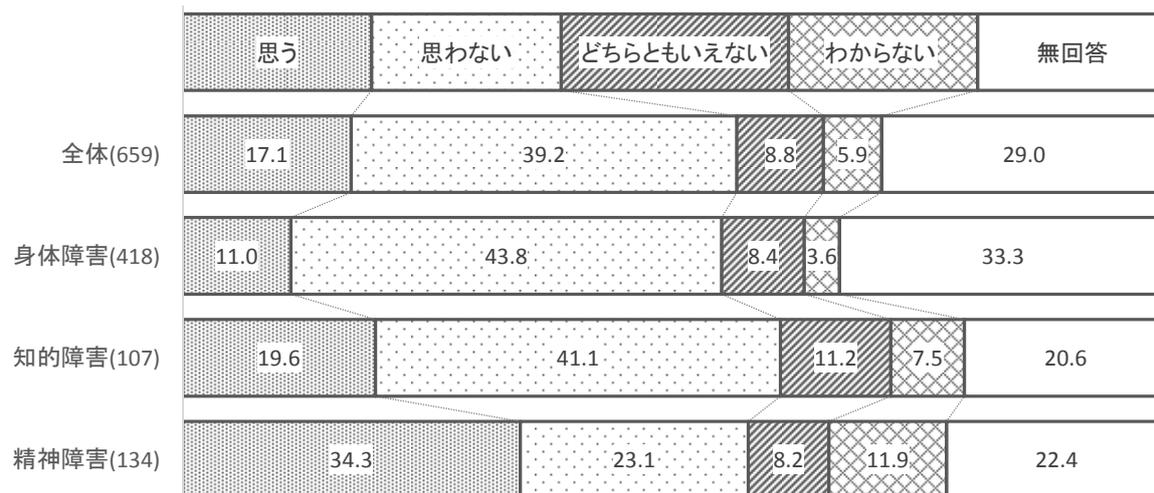


#### (4) 今後の就職の意向

##### ① 今後の就職、転職の意向

○機会があれば働きたい、転職したいと思う割合を障害別に比較すると、高齢者が多い身体障害で約 11%と最も低く、青壮年層が多い精神障害で約 34%と最も高い。

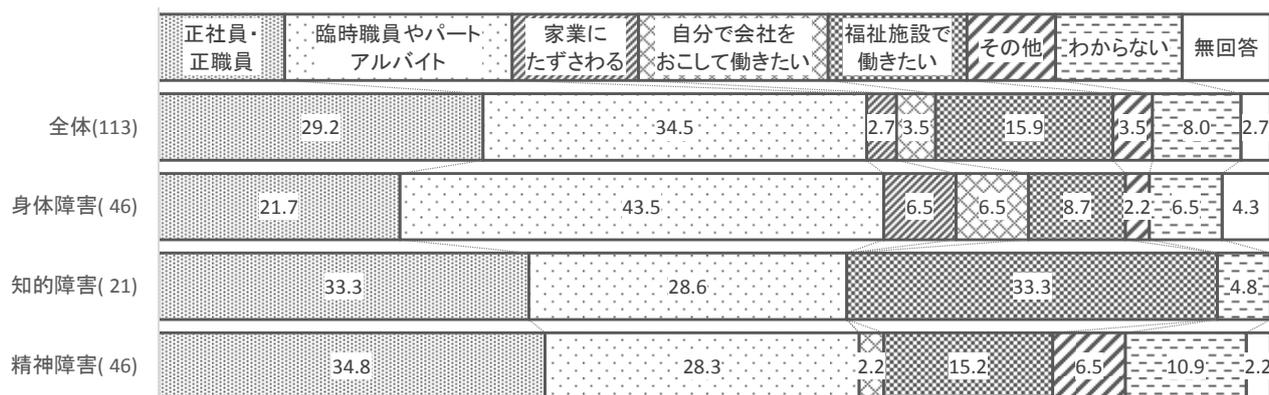
問 25. 今後の就職、転職の意向 × 障害種類別



② 働き方の希望

- 就職・転職したい人の働き方の希望は、身体障害で「臨時職員やパート、アルバイト」が最も多く約44%、ついで「正社員」が約22%である。
- 知的障害は対象者が少ないが、「正社員」「臨時職員やパート、アルバイト」「福祉施設で働きたい」にほぼ3分割されている。
- 精神障害は、「正社員」が約35%と最も多く、ついで「臨時職員やパート、アルバイト」「福祉施設で働きたい」と続いている。

付問 25-1. 働き方の希望 × 障害種類別

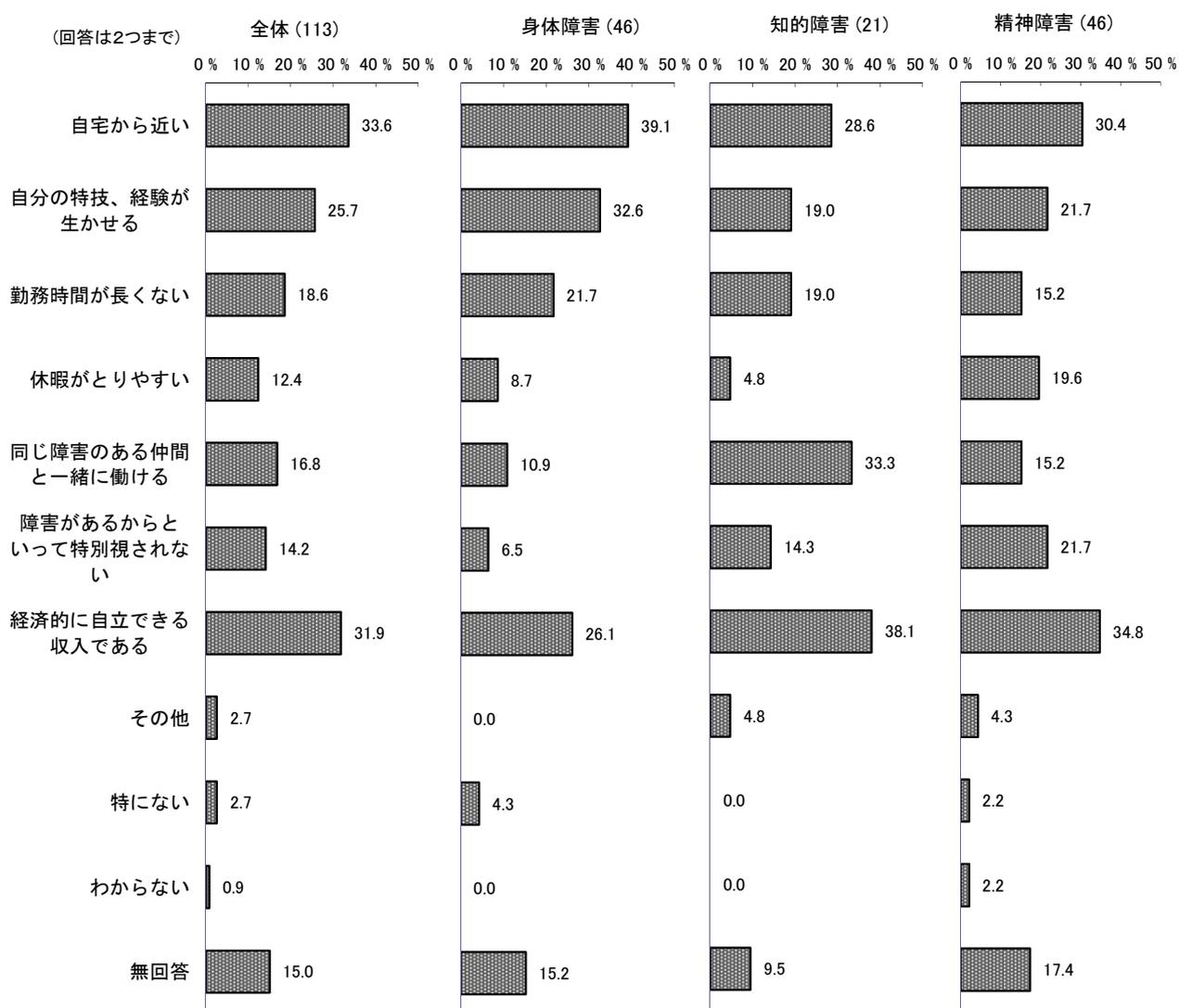


※2%未満数値：知的障害（-、-、-、-）精神障害（-）

### ③ 働く時に重視する条件

- 働きたい、転職したいと思う人が、働く時に重視する条件は、全体では、「自宅から近い」が約 34% と最も多く、ついで「経済的に自立できる収入である」「自分の特技、経験が生かせる」と続いている。
- 「自宅から近い」「勤務時間が長くない」は身体障害で高い割合となり、一方「休暇が取りやすい」は精神障害で高くなっている。「同じ障害のある仲間と一緒に働ける」「経済的に自立できる収入である」は知的障害において高い割合となっている。
- 「障害があるからといって特別視されない」の割合は、3 障害のなかで精神障害が約 22% と最も高く、身体障害で約 7% と低くなっている。

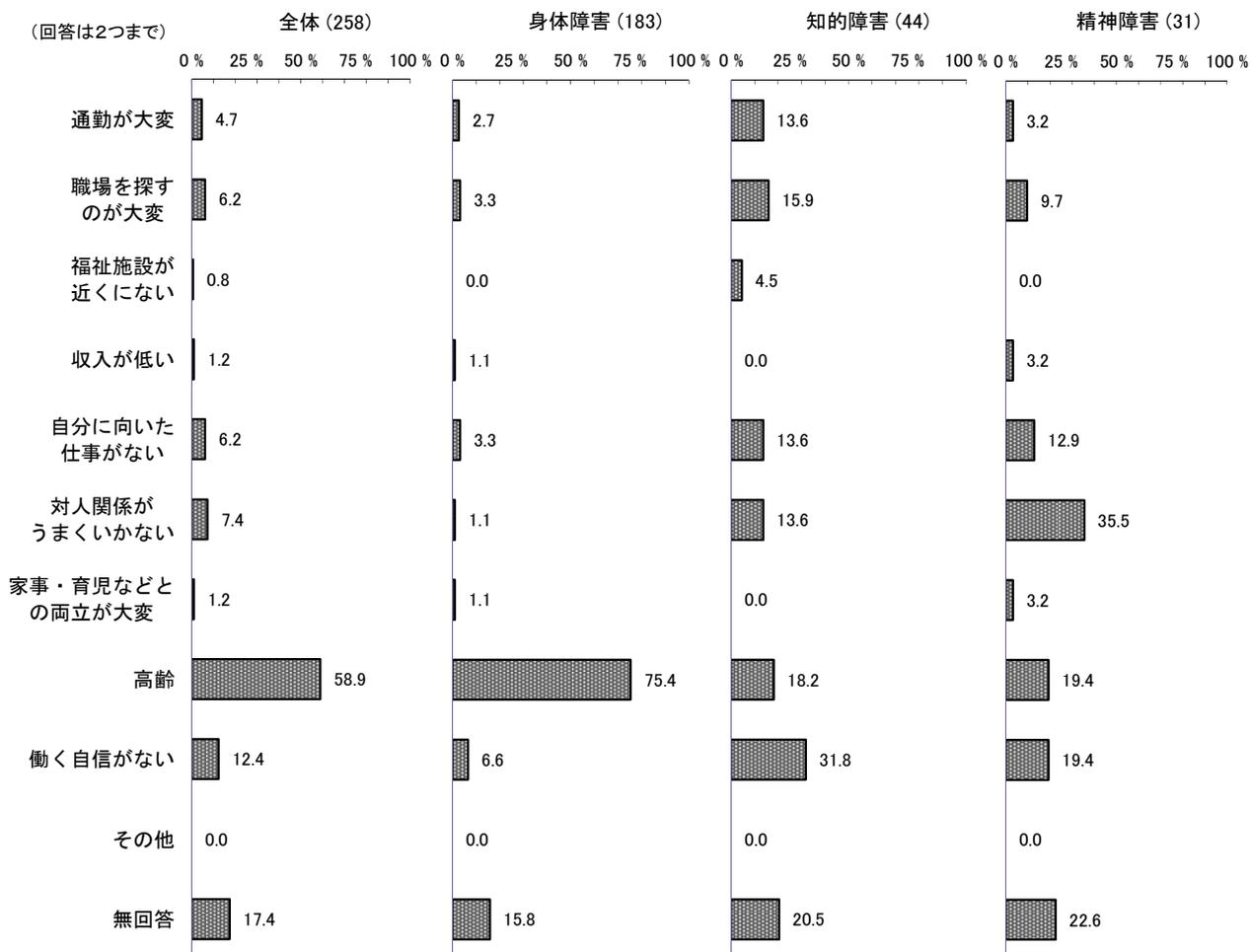
付問 25-2. (働きたい場合) 働く時に重視する条件 × 障害種類別



#### ④ 働きたいと思わない理由

○就職したいと思わない理由については、身体障害で「高齢」、知的障害で「働く自信がない」、精神障害で「対人関係がうまくいかない」などが特徴的である。

付問 25-3. 働きたいと思わない理由 × 障害種類別

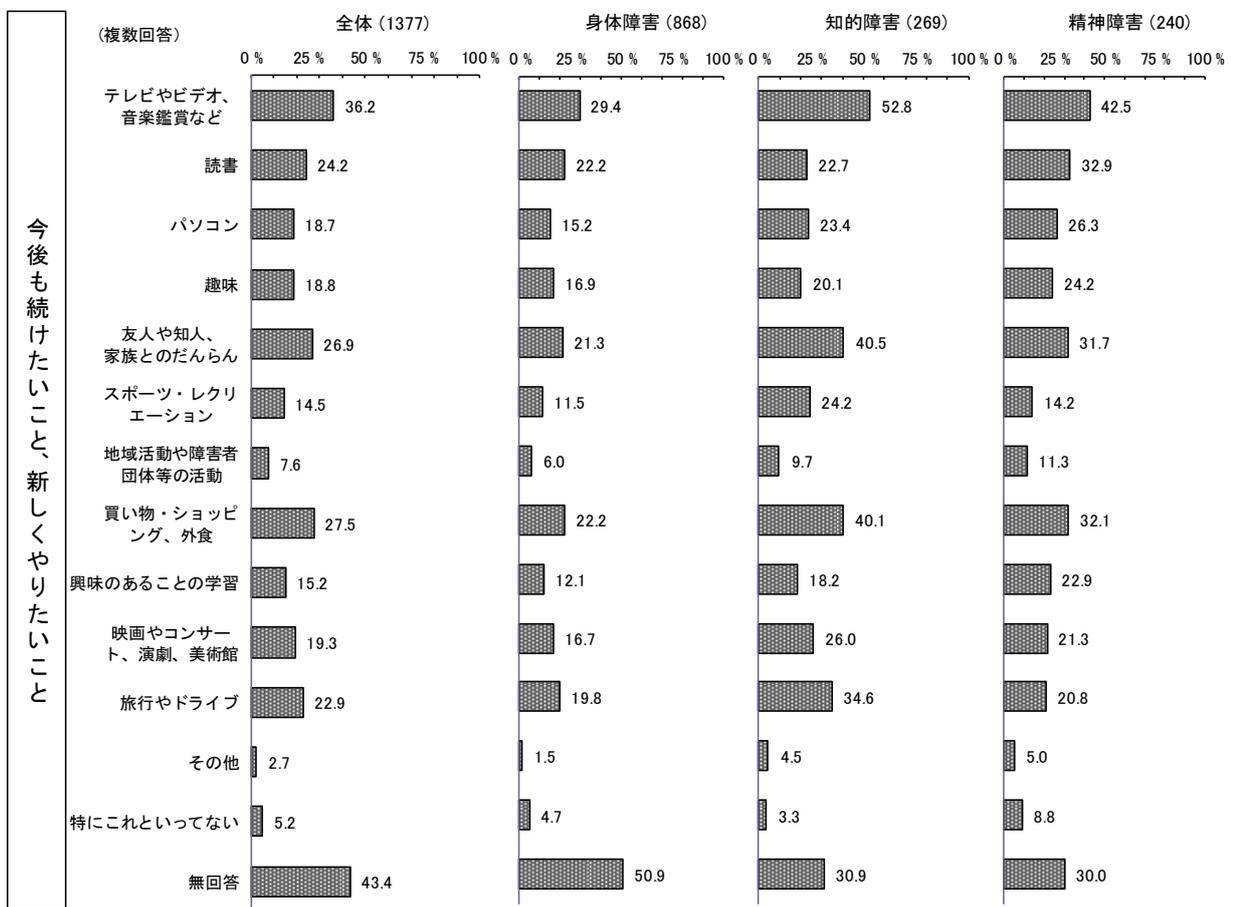
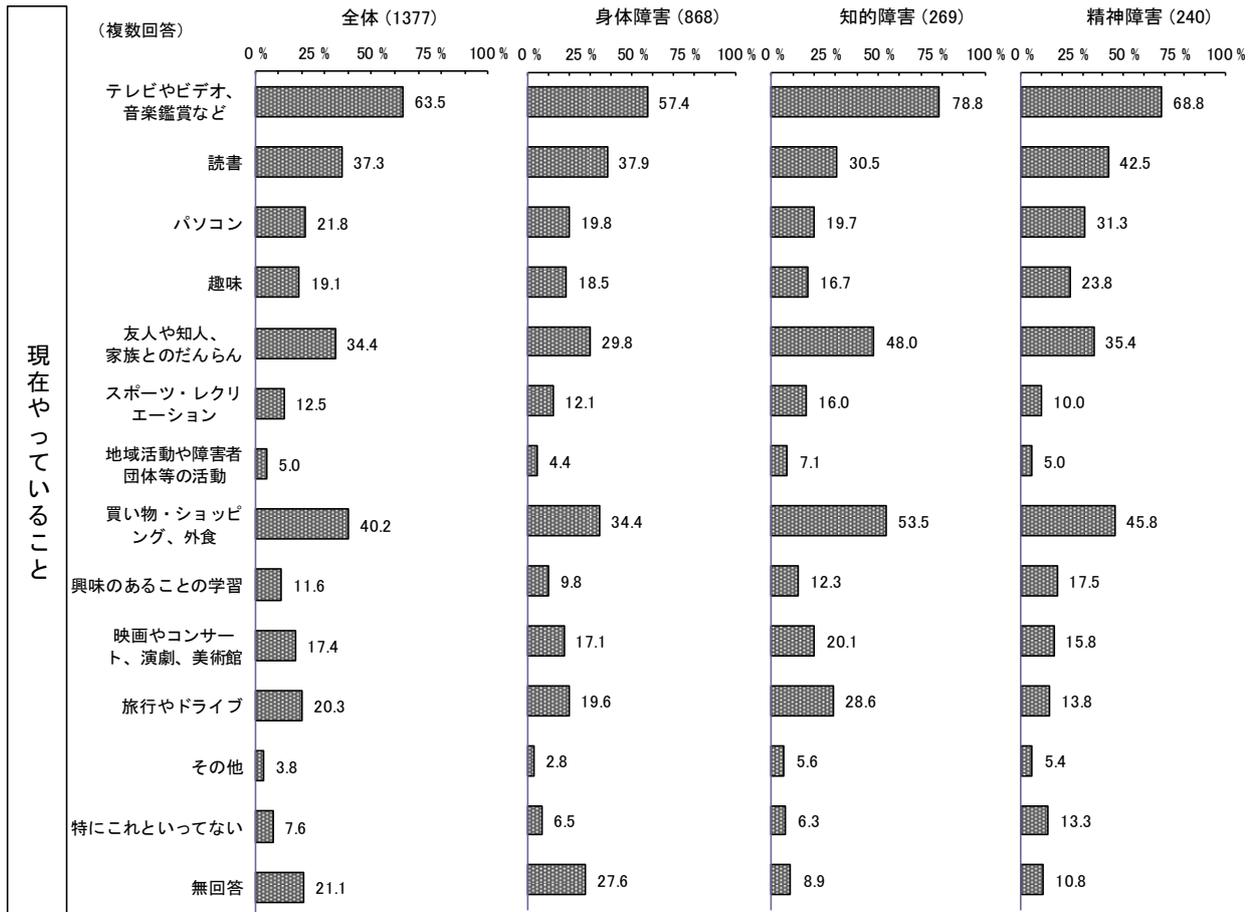


## 9 余暇活動、地域活動について

### (1) 自由時間の過ごし方

- 自由時間の現在の主な過ごし方は、総じて「テレビやビデオ、音楽鑑賞など」「買い物・ショッピング、外食」「読書」「友人や知人、家族とのだんらん」などが多くなっている。
- 障害別には、知的障害で「テレビやビデオ、音楽鑑賞など」「買い物・ショッピング、外食」「友人や知人、家族とのだんらん」が全体より10ポイント以上高くなっている。
- 今後の希望についても、障害種類に関わらず「テレビやビデオ、音楽鑑賞など」「買い物・ショッピング、外食」「友人や知人、家族とのだんらん」「読書」など、現在の活動内容が上位を占めている。割合がそれほど高くないものでも、「スポーツ・レクリエーション」「興味のあることの学習」「旅行やドライブ」など現在の活動率を上回る希望率となっている。

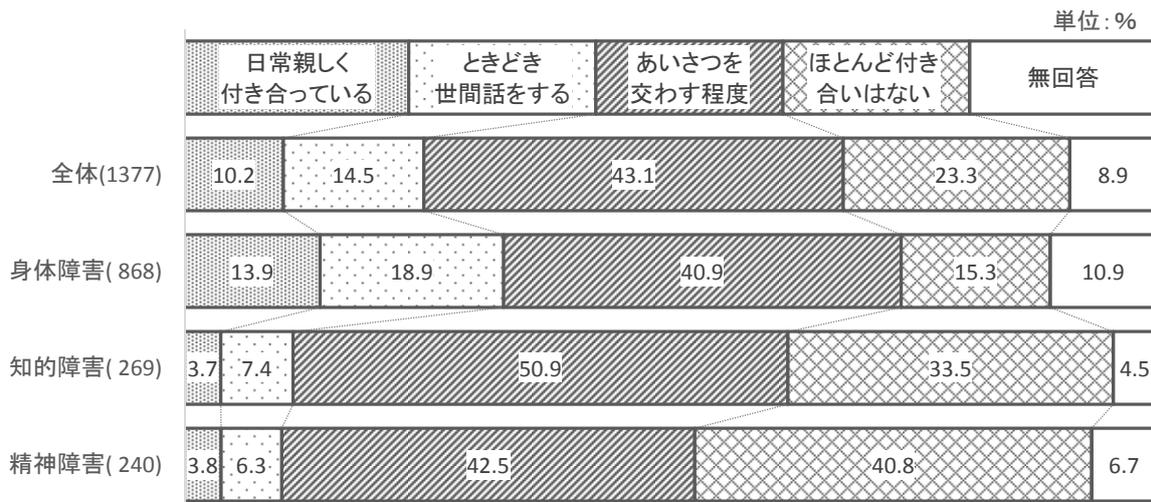
問 26. 自由時間の過ごし方 × 障害種類別



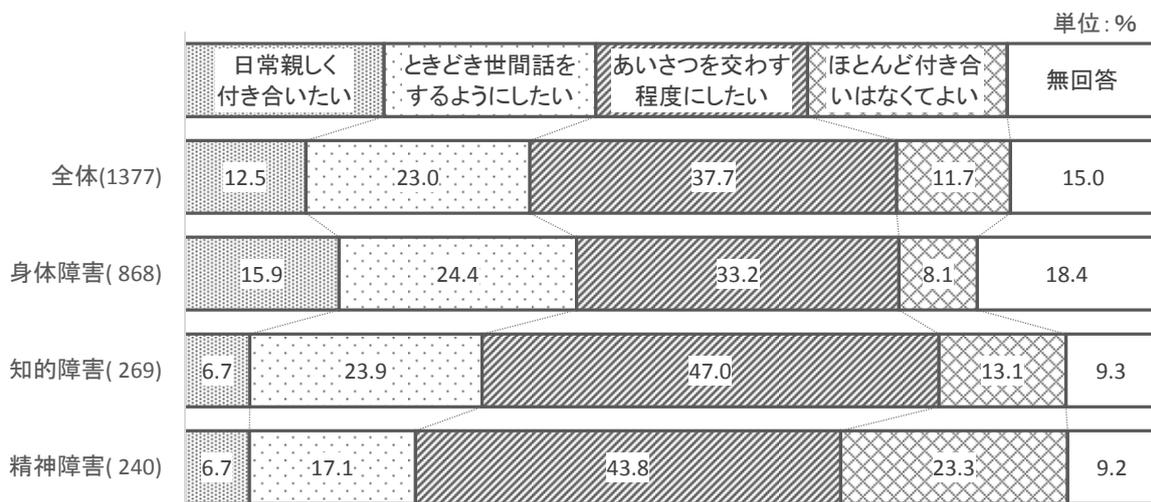
## (2) 近所づきあい

- 近所づきあいの状況については、総じて「日常親しく付き合っている」という人は多くなく、「あいさつを交わす程度」が4割を超えて最も多くなっている。
- 障害別に見ると、「日常親しく付き合っている」が身体障害で約14%となっているが、知的障害・精神障害では4%を切りごくわずかである。逆に、「ほとんど付き合いはない」は身体障害で約15%と低く、知的障害・精神障害で3~4割と高い割合を占めている。
- 今後についても、現状ほど障害別での差はないものの、精神障害で「ほとんど付き合わなくてよい」が2割以上を占め、近所付き合いに消極的な意向がうかがわれる。

問 27. ①現在の近所づきあい ×障害種類別



問 27. ②今後の近所づきあい ×障害種類別



## 10 これからの障害福祉について

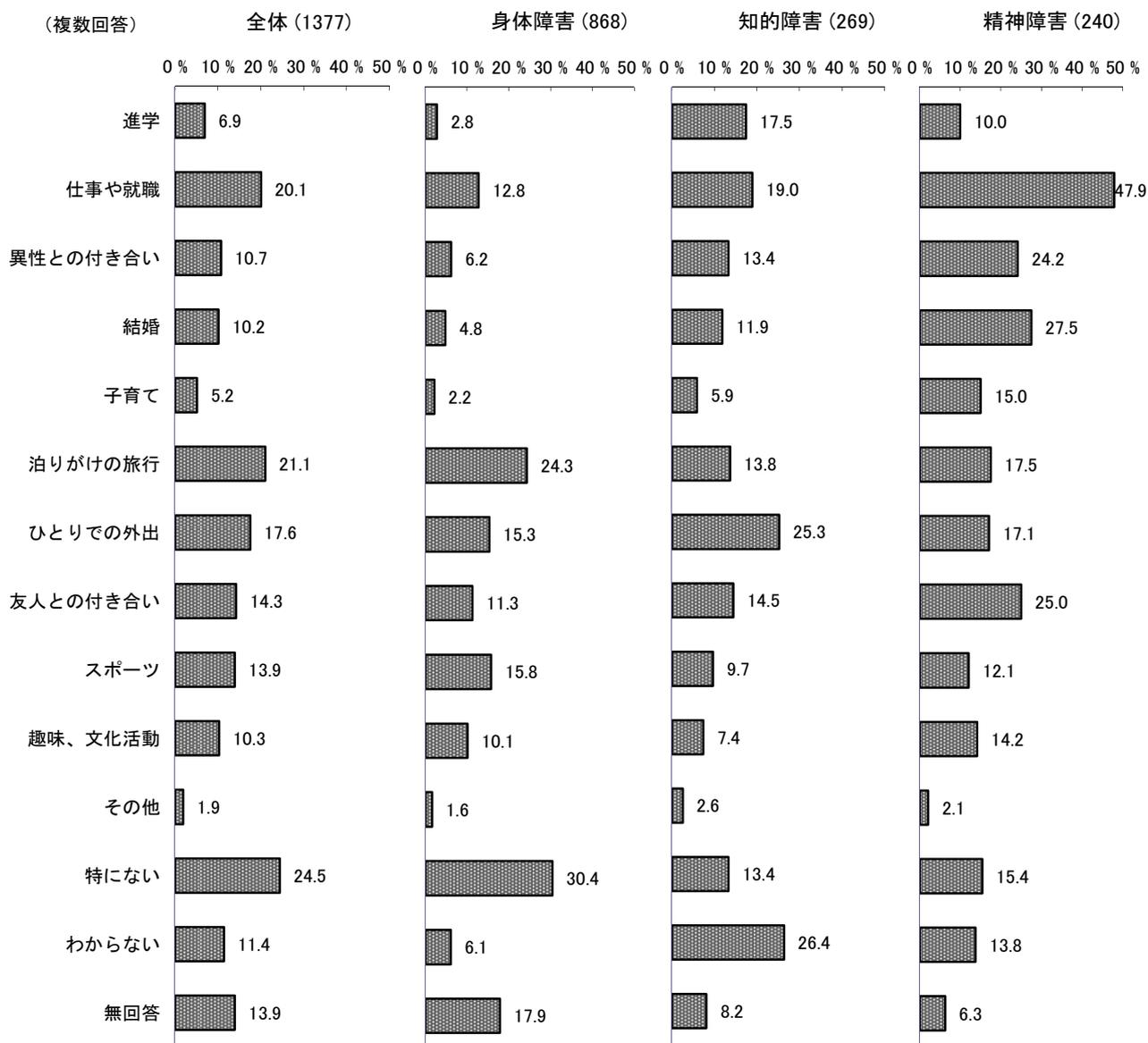
### (1) 障害のため、あきらめたりがまんしたりしたこと

○障害のためにあきらめたり、がまんしたことについては、障害別の相違がみられ、身体障害では、「泊りがけの旅行」「スポーツ」「ひとりでの外出」が多いが、「特にない」と感じる人も約3割と比較的多くなっている。

○知的障害では、「ひとりでの外出」が最も多く、「仕事や就職」「進学」などに制約を受けることが多い。

○精神障害では、「仕事や就職」が約48%と最も多く、ついで「結婚」「友人との付き合い」「異性との付き合い」が2割以上となり、人との付き合いの面での制約を受けることが比較的多くなっている。

問 28. 障害のため、あきらめたりがまんしたりしたこと × 障害種類別

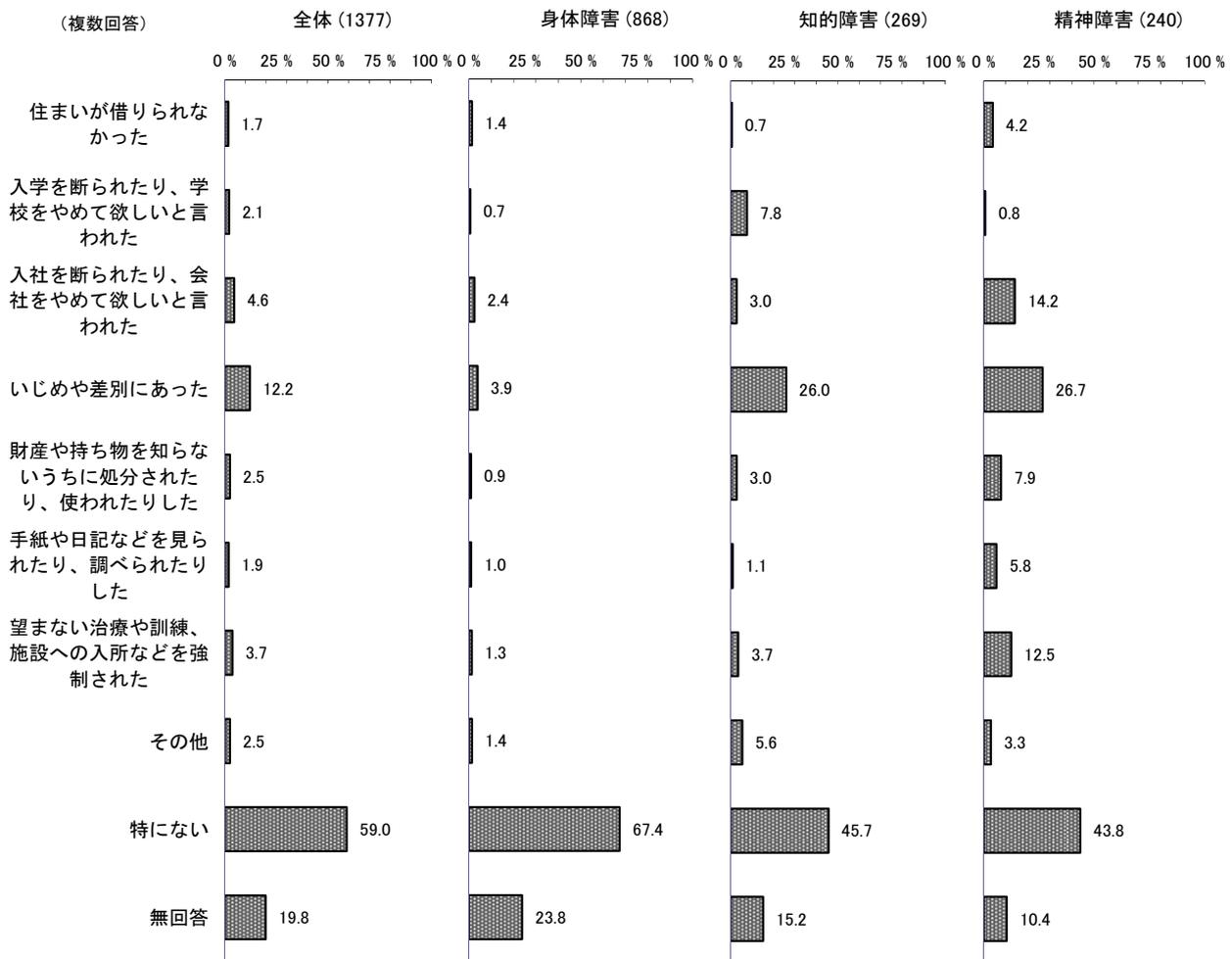


## (2) 権利がうばわれたり、そこなわれたりした経験

○障害のために権利が奪われたり、そこなわれたりした経験については、全体的に「特にない」と無回答を合わせて8割弱を占めている。

○障害別に見ると、知的障害・精神障害で4人に1人と高い割合で「いじめや差別にあった」を挙げている。精神障害においては、「障害を理由に入学を断られたり、学校をやめてほしいと言われた」(約14%)、「望まない治療や訓練、施設への入所などを強制された」(約13%)と他の障害より高くなっている。

問 29. 権利がうばわれたり、そこなわれたりした経験 × 障害種類別



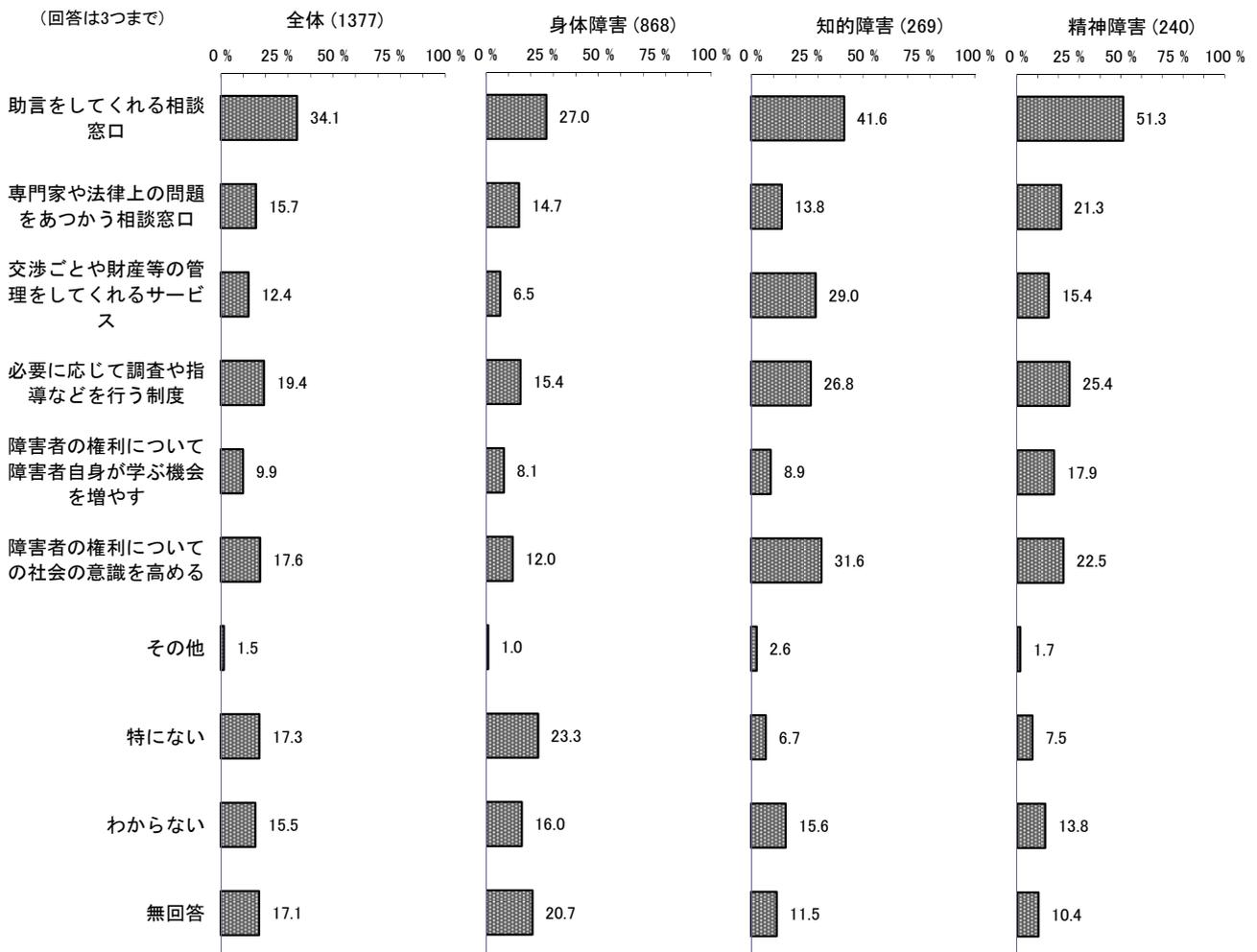
### (3) 権利がうばわれたり、そこなわれたりしないために必要な手助けや取り組み

○人権擁護のための手助けや取り組みについては、全体では、「助言してくれる相談窓口」が最も多く、「必要に応じて調査や指導などを行う制度」「障害者の権利についての社会の意識を高める」と高くなっている。身体障害においても、全体とほぼ同様な傾向であった。

○知的障害では、「障害者の権利についての社会の意識を高める」「交渉ごとや財産等の管理をしてくれるサービス」が全体より10ポイント以上高くなっている。

○精神障害では、「助言してくれる相談窓口」を挙げる割合が半数を超え、「障害者の権利について障害者自身が学ぶ機会を増やす」を挙げる割合も他の障害より高くなっている。

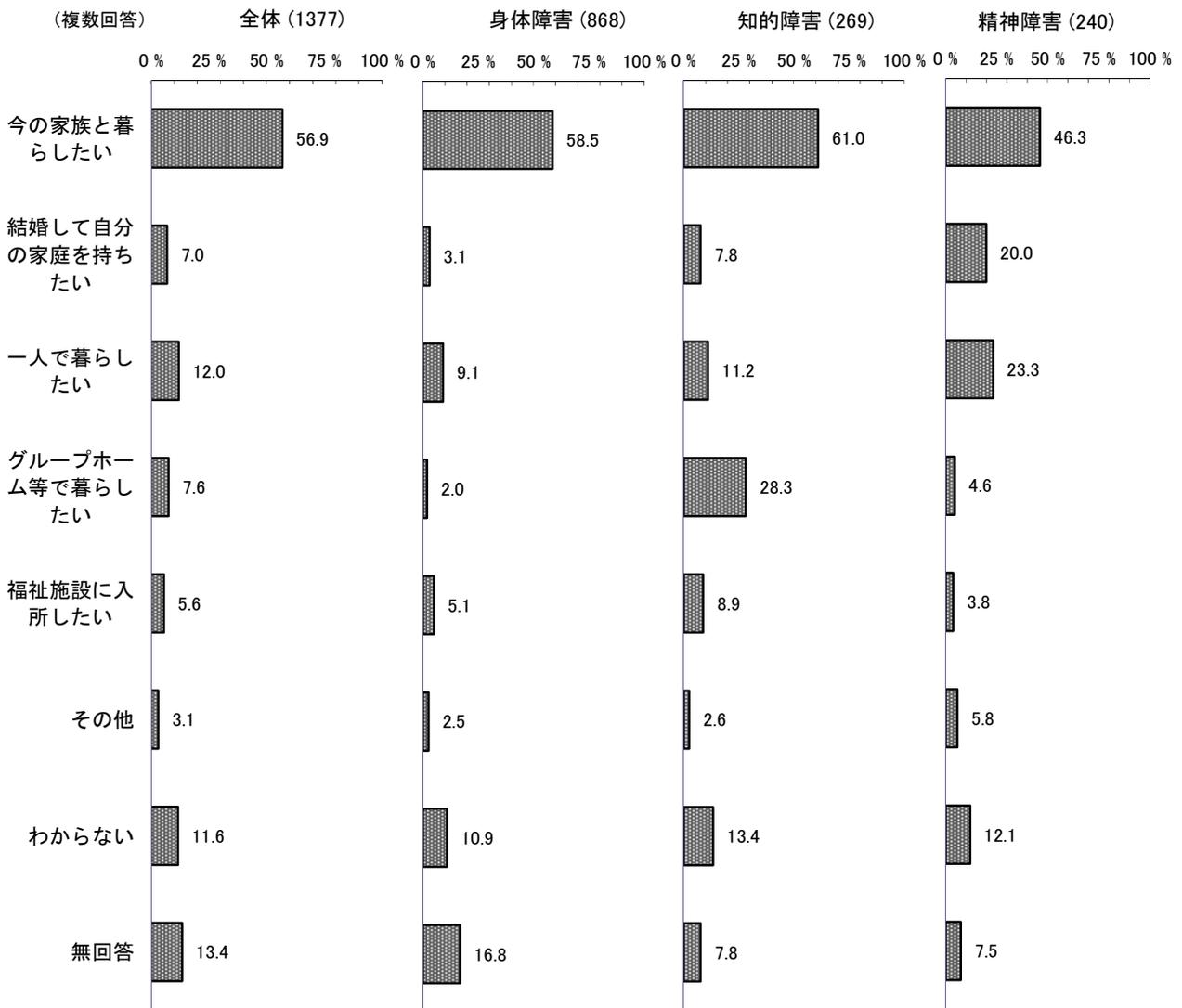
問 30. 権利がうばわれたり、そこなわれたりしないために必要な手助けや取り組み×障害種類別



#### (4) 今後の暮らし方

- 身体障害では、「今の家族と暮らしたい」が6割程度を占め、他は少数である。
- 知的障害では、身体障害と同様、「今の家族とくらしたい」が高い割合を占めているが、「グループホーム等で暮らしたい」が約28%と他の障害より20ポイント以上高くなっている。
- 精神障害でも「今の家族と暮らしたい」が最も多いものの、5割を切っており、全体と比較しても10ポイント程度低くなっている。一方、「結婚して自分の家庭を持ちたい」「一人で暮らしたい」など、独立した生活を希望する割合が他の障害よりも高くなっている。

問 31. 今後の暮らし方 × 障害種類別



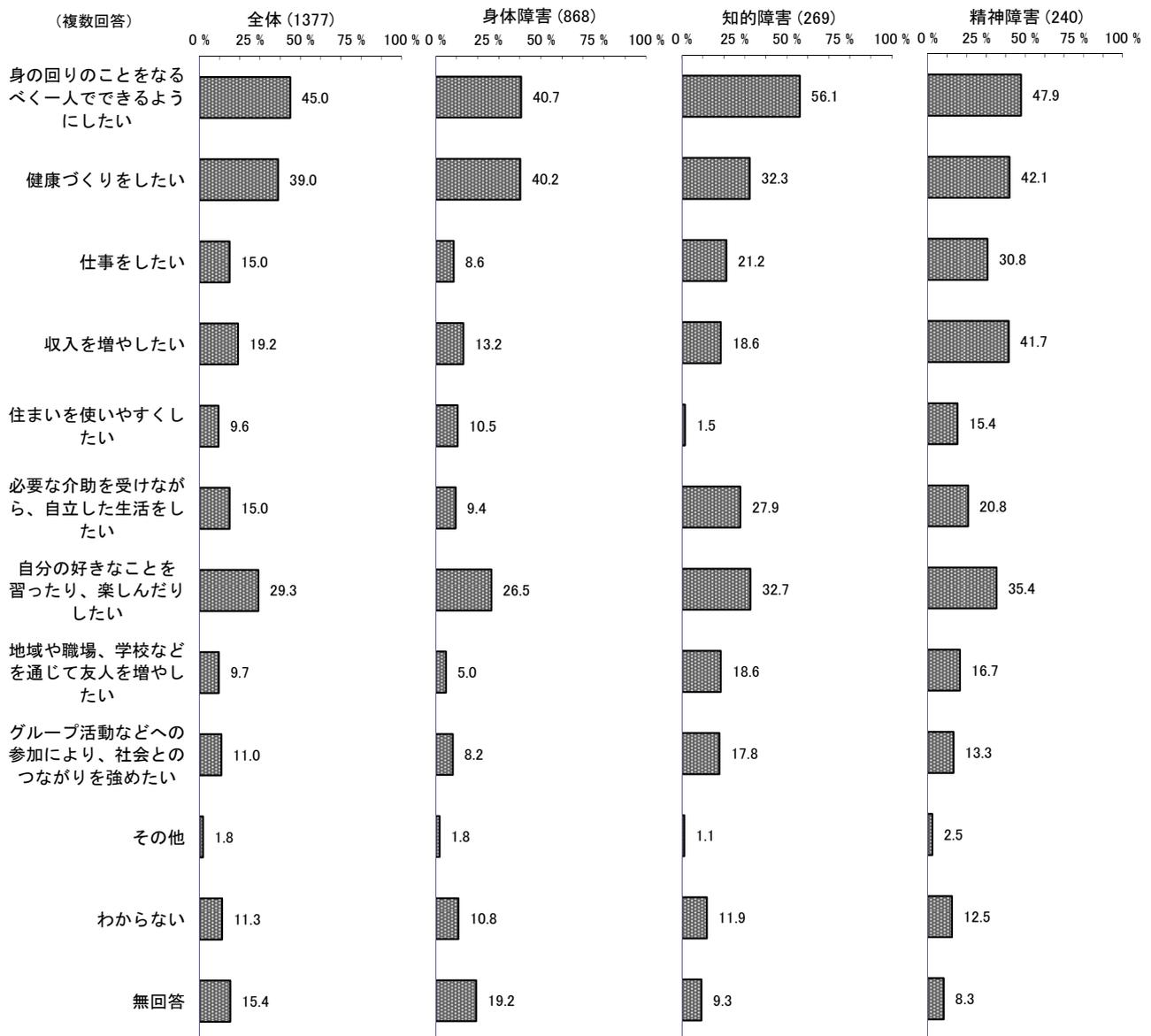
### (5) 今後、取り組みたい活動

○全体的に「身の回りのことを一人でできるようにしたい」「健康づくりをしたい」「自分の好きなことを習ったり、楽しんだりしたい」の3項目が上位を占めている。生活面で自立し、健康で生きがいのある生活を送りたいという意向がうかがわれる。

○知的障害では、これらの他に「仕事をしたい」「必要な介助を受けながら、自立した生活をしたい」など自立に関する項目や、「友人を増やしたい」「社会とのつながりを強めたい」など人との交流や社会参加に関する項目の割合が比較的高くなっている。

○精神障害では、「仕事したい」「収入を増やしたい」の割合が他の障害より高く、経済的な自立度を高めたいという意向が強いことがうかがわれる。

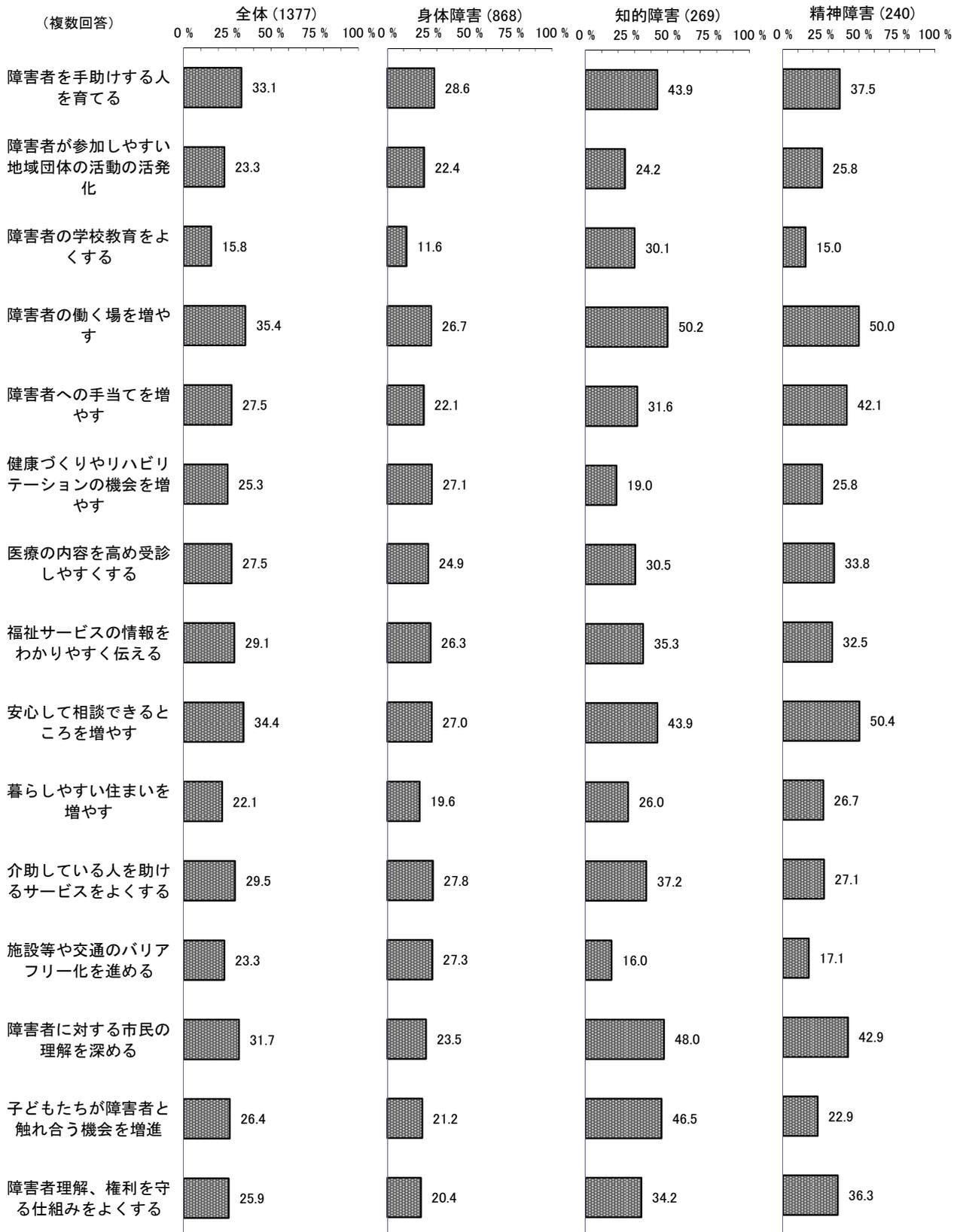
問 32. 今後、取り組みたい活動 × 障害種類別



## (6) ノーマライゼーションの実現のために必要なこと

- ノーマライゼーションの実現のために必要なこととして示した次頁 15 項目（その他、わからないを除く）のうち、全体で最も割合の高いのは「障害者の働く場を増やす」である。最も割合の低い「障害者の学校教育をよくする」でも約 16%を占めており、すべての項目の必要性が高くなっている。
- 全体での上位には、「障害者の働く場を増やす」の他、「安心して相談できるところを増やす」「障害者を手助けする人を育てる」「障害者に対する市民の理解を深める」などが挙げられる。
- 身体障害では、「施設等や交通のバリアフリー化を進める」「健康づくりやリハビリテーションの機会を増やす」が比較的高くなっている。
- 知的障害・精神障害では、「障害者の働く場を増やす」「安心して相談できるところを増やす」「障害者に対する市民の理解を深める」を挙げる割合が 40～50%と高くなっている。

問 33. ノーマライゼーションの実現のために必要なこと × 障害種別



### III 手帳非所持者調査の結果

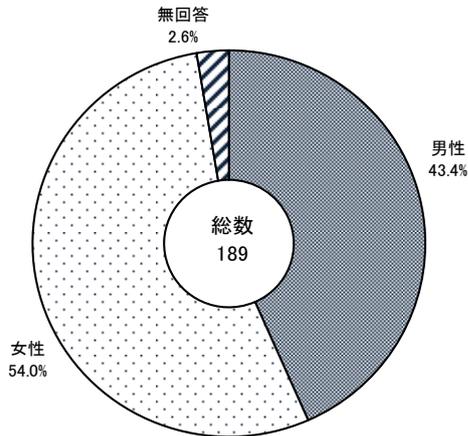
#### 1 対象者の属性

##### (1) 性別・年齢

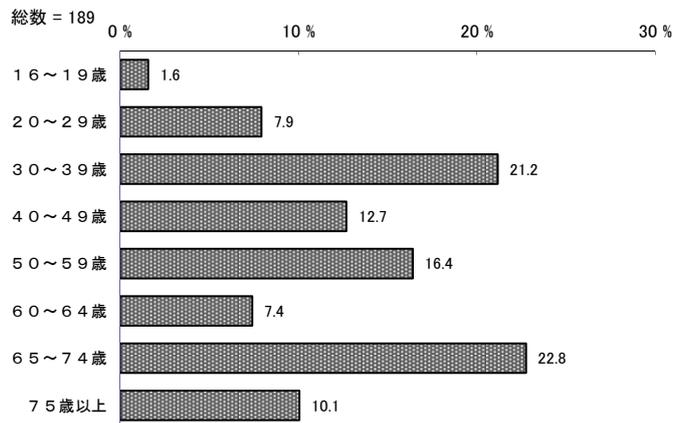
○性別では、対象者の 54%を女性が、約 43%を男性が占めている。

○年齢では、65～74 歳が 23%と一番多く、次に 30～39 歳 21%、50～59 歳 16%とつづいている。

問 1. (1)性別



(2)年齢

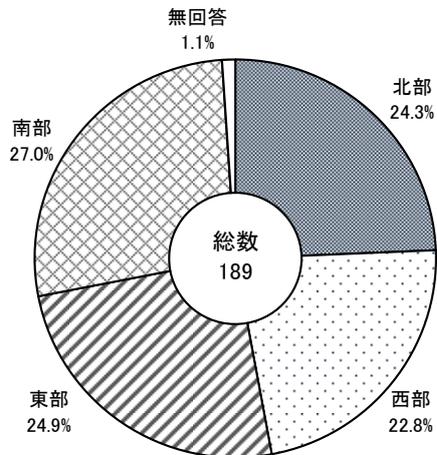


##### (2) 住まいの地域

○住まいの地域は、南部が 27%と多くなっているが概ね均等である。

※地域区分については p4 を参照

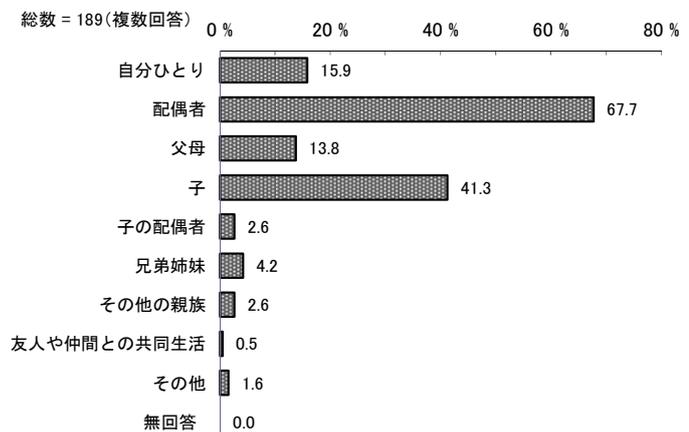
問 2. 住まいの地域



##### (3) 同居している方

○同居家族としては、配偶者(約 68%)、子(約 41%)、父母(約 14%)を挙げられる割合が高くなっている。また、自分ひとりも約 16%と比較的高い。

問 3. 同居している方

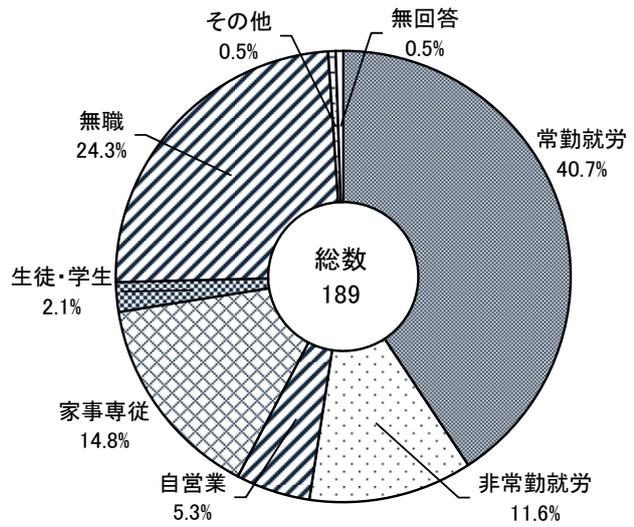


(4) 職業

○回答者の約4割以上が常勤就労である。  
 ついで、無職が約24%、家事専従が約15%、非常勤就労が約12%と多く、自営業が約5%、学生が約2%と少数である。

○年代別では、20～50歳代で常勤就労が半数以上を占め、65歳以上で無職の割合が6割以上となっている。

問4. 職業



問4. 職業 ×年代別

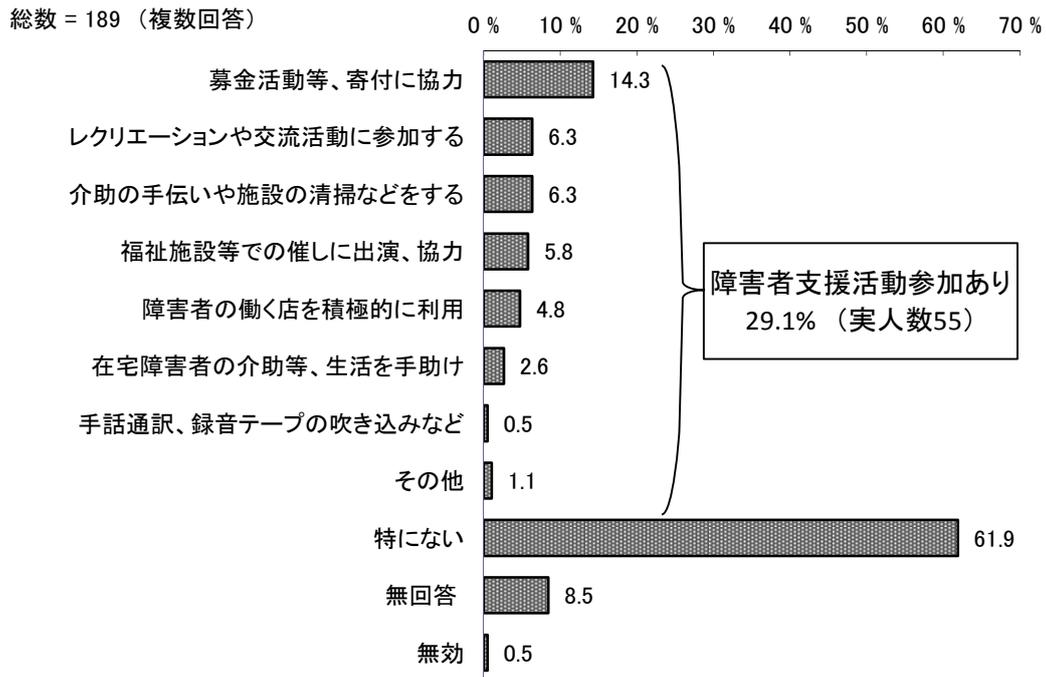
		全体	常勤就労	非常勤就労	自営業	家事専従	生徒・学生	無職	その他	無回答
全体		189	77	22	10	28	4	46	1	1
		100.0	40.7	11.6	5.3	14.8	2.1	24.3	0.5	0.5
年代	16～19歳	3	-	-	-	-	3	-	-	-
		100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-
	20～29歳	15	9	4	1	-	1	-	-	-
		100.0	60.0	26.7	6.7	-	6.7	-	-	-
	30～39歳	40	27	4	1	7	-	1	-	-
		100.0	67.5	10.0	2.5	17.5	-	2.5	-	-
	40～49歳	24	12	5	-	5	-	2	-	-
		100.0	50.0	20.8	-	20.8	-	8.3	-	-
	50～59歳	31	16	4	4	6	-	1	-	-
	100.0	51.6	12.9	12.9	19.4	-	3.2	-	-	
60～64歳	14	6	2	1	3	-	2	-	-	
	100.0	42.9	14.3	7.1	21.4	-	14.3	-	-	
65～74歳	43	5	3	2	6	-	27	-	-	
	100.0	11.6	7.0	4.7	14.0	-	62.8	-	-	
75歳以上	19	2	-	1	1	-	13	1	1	
	100.0	10.5	-	5.3	5.3	-	68.4	5.3	5.3	

※クロス項目において上位2位までの割合を網掛け。

(5) 障害者を支援する活動経験

- これまでに障害者を支援する活動に参加した経験が「特にない」とする割合が約 62%と最も高くなっている。
- 一方、障害者を支援する活動として最も参加の多いもの（複数回答）は、「募金活動等寄付に協力」（14%）で、「レクリエーションや交流活動に参加」、「介助の手伝いや施設の清掃などをする」「福祉施設等での催しに出演、協力」などへの参加が約 6%前後と続いている。

問 14. 障害者を支援する活動の経験



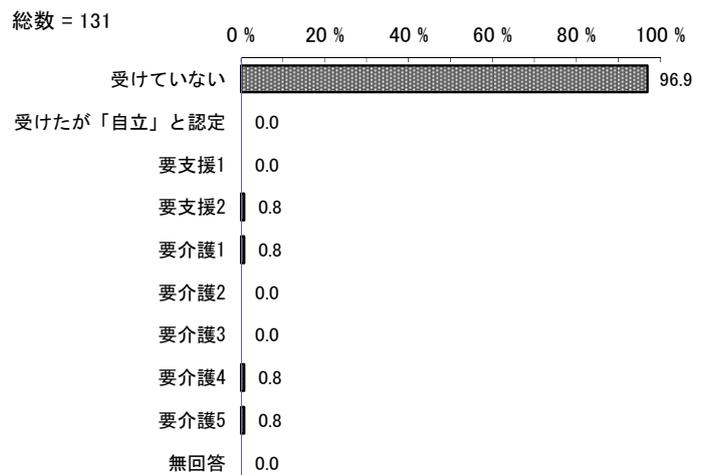
※「障害者を支援する活動」と「特にない」の双方を回答したものに関して無効としている。

## 2 健康・福祉に対する関心について

### (1) 要介護認定

○40歳以上の人で要介護認定を受けている人はきわめて少なく、「受けていない」とする割合が約97%と大部分を占めている。手帳所持者と比較して、「受けていない」割合が30ポイント程度高くなっている。(p6 参照)

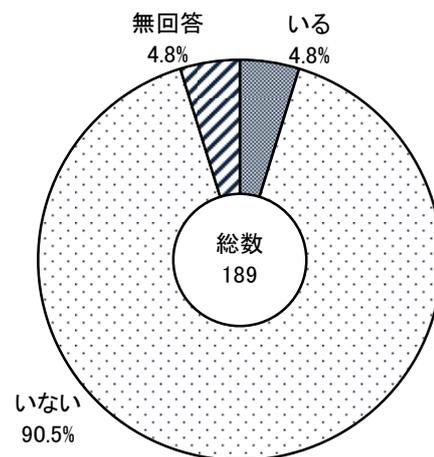
問5. 要介護認定



### (2) 介護が必要な家族の有無

○要介護の家族が「いる」人は5%程度を占める。手帳所持者全体と比較して8ポイント程度低くなっている。(p6 参照)

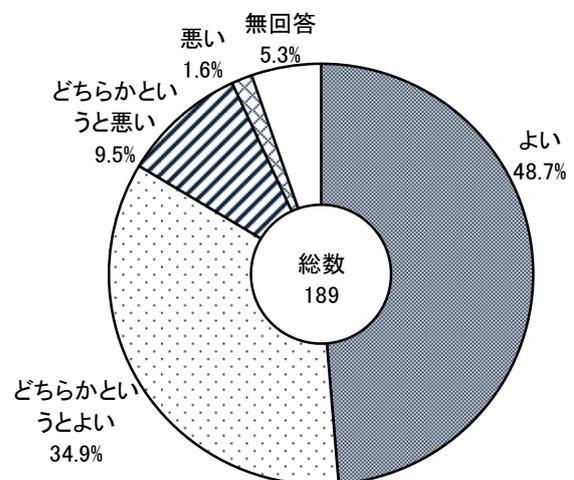
問6. 介護が必要な家族の有無



### (3) 健康状態

○健康状態の「よい」人は約49%、「どちらかというとい」とよい」は約35%で、合わせて8割を超える人が健康状態は良好である。なお、「どちらかというとい」と悪い」と「悪い」は、合わせて1割程度にとどまっている。健康状態が良好とする割合（「よい」と「どちらかというとい」とよい」の計）は、手帳所持者全体では約7割であり (p12 参照)、10ポイント以上上回っている。

問7. 健康状態

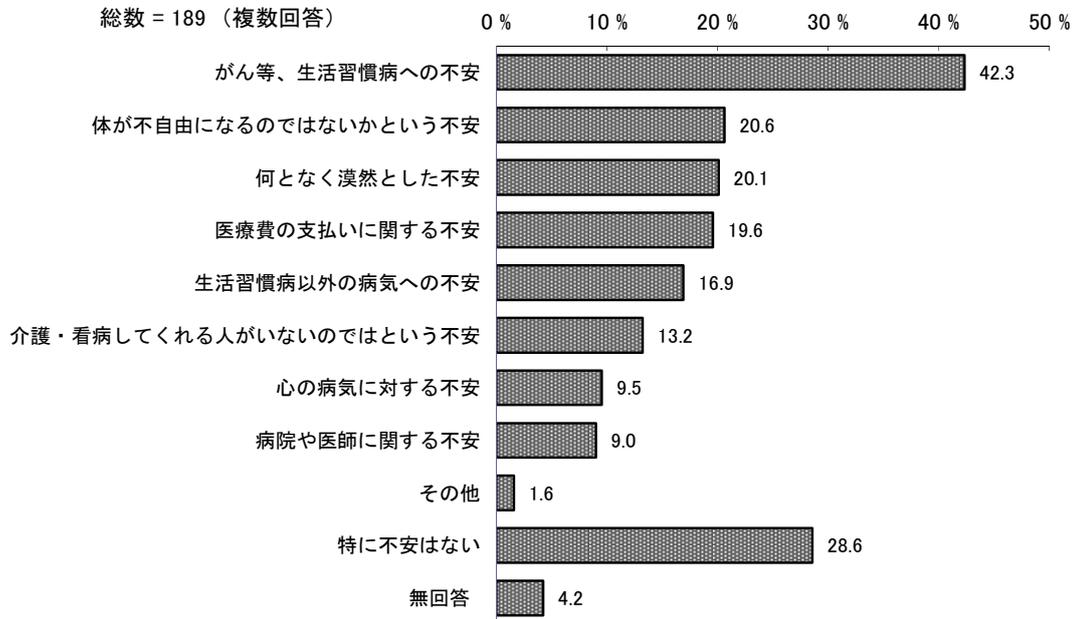


(4) 健康について不安を感じていること

○健康の不安については、全体では「がん等、生活習慣病への不安」が最も多い。

○年代別でみると、「体が不自由になるのではという不安」を挙げる割合は50歳以上で高くなっている。

問 8. 健康について不安を感じていること



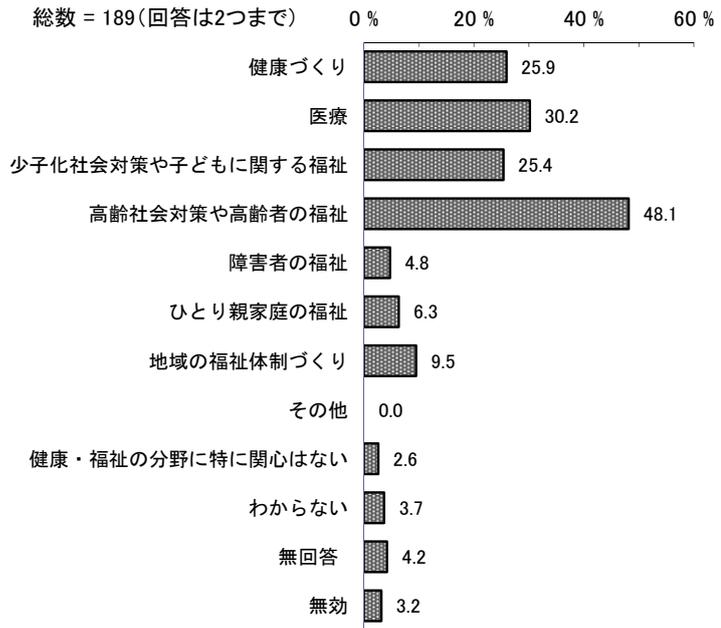
問 8. 健康について不安を感じていること ×年代別

	全体	がん等、生活習慣病への不安	生活習慣病以外の病気への不安	心の病気に対する不安	体が不自由になるのではという不安	介護・看病してくれる人がいないのではという不安	病院や医師に関する不安	医療費の支払いに関する不安	何となく漠然とした不安	その他	特に不安はない	無回答	
		割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	
全体	189	80 42.3	32 16.9	18 9.5	39 20.6	25 13.2	17 9.0	37 19.6	38 20.1	3 1.6	54 28.6	8 4.2	
年代	16~19歳	3	-	-	-	-	-	-	-	-	2 66.7	1 33.3	
	20~29歳	15	4 26.7	3 20	3 20	3 20	-	1 6.7	2 13.3	-	5 33.3	2 13.3	
	30~39歳	40	18 45	11 27.5	5 12.5	5 12.5	6 15	6 15.0	9 22.5	4 10	-	11 27.5	2 5
	40~49歳	24	13 54.2	3 12.5	4 16.7	3 12.5	4 16.7	3 12.5	8 33.3	6 25	1 4.2	6 25	-
	50~59歳	31	13 41.9	4 12.9	3 9.7	9 29	7 22.6	4 12.9	5 16.1	6 19.4	1 3.2	11 35.5	-
	60~64歳	14	9 64.3	4 28.6	2 14.3	3 21.4	2 14.3	1 7.1	6 42.9	2 14.3	-	1 7.1	-
	65~74歳	43	14 32.6	5 11.6	-	10 23.3	3 7	2 4.7	5 11.6	13 30.2	-	14 32.6	2 4.7
	75歳以上	19	9 47.4	2 10.5	1 5.3	6 31.6	3 15.8	1 5.3	3 15.8	5 26.3	1 5.3	4 21.1	1 5.3

(5) 特に関心がある健康・福祉の領域

○全体では「高齢者対策や高齢者の福祉」についての関心が最も高く、約50%となっている。一方、障害者の福祉についての関心は、5%で相対的に低くなっている。

問 9. 特に関心がある健康・福祉の領域



○男女別にみると、女性より男性で、「少子化社会対策や子供に関する福祉」を挙げる割合が高くなっている。

○障害を支援する活動に参加したことが「ある」層と「ない」層では大きな差はない。

問 9. 関心がある健康・福祉分野 ×性別・年代別・支援活動別

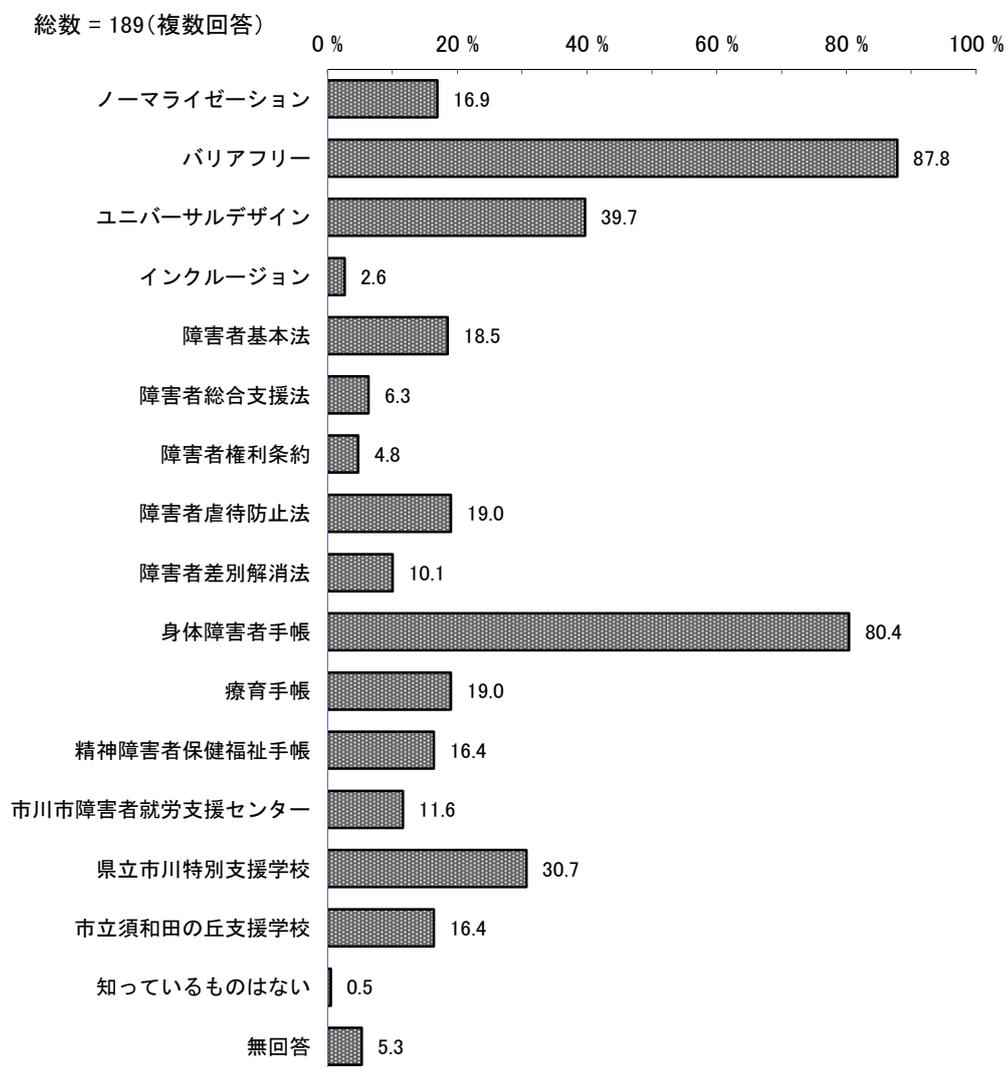
	全体	健康づくり	医療	少子化社会対策や子どもに関する福祉	や高齢社会対策や高齢者の福祉	障害者の福祉	ひとり親家庭の福祉	地域の福祉体制づくり	その他	健康・福祉の分野に特に関心はない	わからない	無回答	無効	
全体	189 100.0	49 25.9	57 30.2	48 25.4	91 48.1	9 4.8	12 6.3	18 9.5	-	5 2.6	7 3.7	8 4.2	6 3.2	
性別	男性	82 100.0	21 25.6	24 29.3	26 31.7	39 47.6	3 3.7	3 3.7	5 6.1	-	4 4.9	2 2.4	2 2.4	3 3.7
	女性	102 100.0	28 27.5	31 30.4	21 20.6	49 48.0	5 4.9	9 8.8	13 12.7	-	1 1.0	5 4.9	5 4.9	3 2.9
	無回答	5 100.0	-	2 40.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	-	-	-	-	-	1 20.0	-
年代	16~19歳	3 100.0	-	-	-	-	-	1 33.3	-	-	1 33.3	1 33.3	-	-
	20~29歳	15 100.0	5 33.3	3 20.0	8 53.3	2 13.3	1 6.7	1 6.7	1 6.7	-	1 6.7	2 13.3	-	
	30~39歳	40 100.0	6 15.0	15 37.5	18 45.0	14 35.0	3 7.5	1 2.5	1 2.5	-	1 2.5	2 5.0	4 10.0	
	40~49歳	24 100.0	4 16.7	9 37.5	9 37.5	9 37.5	1 4.2	3 12.5	5 20.8	-	-	2 8.3	-	1 4.2
	50~59歳	31 100.0	12 38.7	12 38.7	2 6.5	15 48.4	-	2 6.5	3 9.7	-	2 6.5	1 3.2	-	1 3.2
	60~64歳	14 100.0	6 42.9	3 21.4	2 14.3	11 78.6	-	1 7.1	1 7.1	-	1 7.1	-	-	-
	65~74歳	43 100.0	11 25.6	14 32.6	7 16.3	28 65.1	3 7.0	1 2.3	3 7.0	-	-	1 2.3	2 4.7	-
	75歳以上	19 100.0	5 26.3	1 5.3	2 10.5	12 63.2	1 5.3	3 15.8	3 15.8	-	1 5.3	-	1 5.3	-
支援活動	障害者支援活動参加あり	55 100.0	14 25.5	18 32.7	22 40.0	23 41.8	1 1.8	2 3.6	6 10.9	-	2 3.6	1 1.8	4 7.3	2 3.6
	障害者支援活動参加なし	117 100.0	31 26.5	35 29.9	26 22.2	55 47.0	6 5.1	10 8.5	10 8.5	-	3 2.6	5 4.3	3 2.6	4 3.4
	無回答	16 100.0	4 25.0	4 25.0	-	13 81.3	2 12.5	-	2 12.5	-	-	-	1 6.3	-
	無効	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-	-

### 3 日常生活における障害者との関わりについて

#### (1) 知っている言葉

- 障害者福祉に関連する用語（15の語句）のなかで知っているものとしては、全体では「バリアフリー」が88%と高い割合になっており、ほぼ定着していると言える。
- 法律用語に関しては、「障害者虐待防止法」を挙げた割合が19%と比較的高くなっている。
- 「身体障害者手帳」は80%を超え認知度が高いことが分かるが、一方で「療育手帳」、「精神障害者保健福祉手帳」はともに全体では10%台となっており、十分に知られていない。
- 学校等においては、「県立市川特別支援学校」が31%と比較的知られているが、他は10%台と十分知られていない。

#### 問 10. 知っている言葉



○年代別に見ると、「ノーマライゼーション」、「ユニバーサルデザイン」など、外来の用語は若年層で認知度が高くなっている。

○障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層と「ない」層で比較すると、全般的に「ある」層が高い割合になっている。特に法律用語に関して「ある」層と「ない」層の差が大きくなっている。

問 10. 知っている言葉 ×性別・年代別・支援活動別

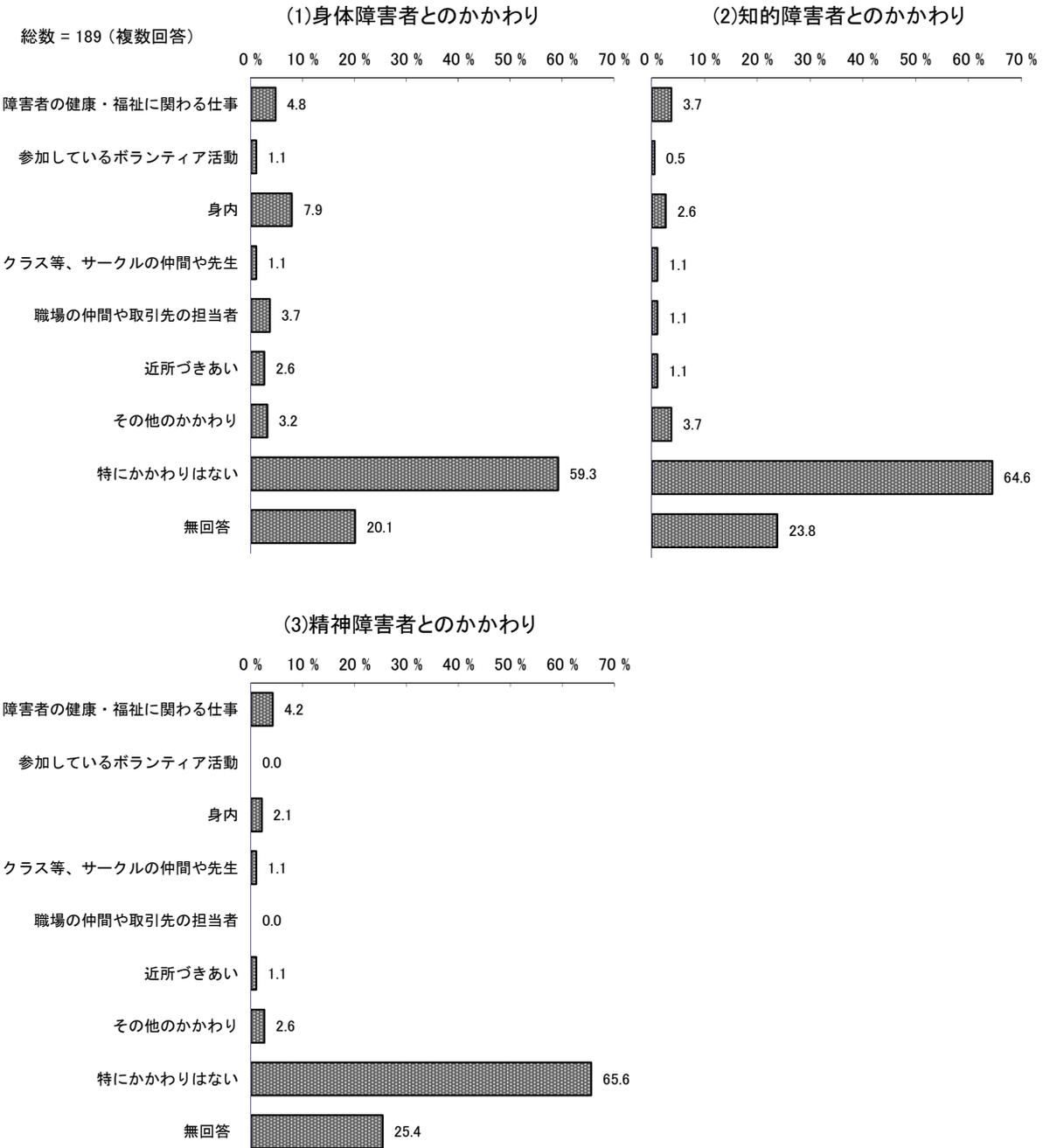
	全体	ノーマライゼーション	バリアフリー	ユニバーサルデザイン	インクルージョン	障害者基本法	障害者総合支援法	障害者権利条約	障害者虐待防止法	障害者差別解消法	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	就労支援センター 市川市障害者	県立市川特別支援学校	市立須和田の丘支援学校	知っているものはない	無回答	
全体	189 100.0	32 16.9	166 87.8	75 39.7	5 2.6	35 18.5	12 6.3	9 4.8	36 19.0	19 10.1	152 80.4	36 19.0	31 16.4	22 11.6	58 30.7	31 16.4	1 0.5	10 5.3	
性別	男性	82 100.0	14 17.1	73 89.0	30 36.6	2 2.4	15 18.3	7 8.5	4 4.9	15 18.3	10 12.2	63 76.8	9 11.0	8 9.8	9 11.0	20 24.4	8 9.8	1 1.2	2 2.4
	女性	102 100.0	17 16.7	89 87.3	44 43.1	3 2.9	20 19.6	5 4.9	5 4.9	21 20.6	9 8.8	85 83.3	27 26.5	22 21.6	13 12.7	37 36.3	23 22.5	-	7 6.9
	無回答	5 100.0	1 20.0	4 80.0	1 20.0	-	-	-	-	-	-	4 80.0	-	1 20.0	-	1 20.0	-	-	1 20.0
年代	16～19歳	3 100.0	2 66.7	2 66.7	1 33.3	-	1 33.3	-	-	-	-	1 33.3	-	-	-	2 66.7	-	-	-
	20～29歳	15 100.0	5 33.3	15 100.0	11 73.3	-	6 40.0	2 13.3	3 20.0	3 20.0	3 20.0	14 93.3	1 6.7	3 20.0	-	2 13.3	-	-	-
	30～39歳	40 100.0	8 20.0	40 100.0	19 47.5	2 5.0	8 20.0	3 7.5	2 5.0	10 25.0	2 5.0	36 90.0	13 32.5	5 12.5	1 2.5	11 27.5	3 7.5	-	-
	40～49歳	24 100.0	5 20.8	23 95.8	13 54.2	1 4.2	2 8.3	-	1 4.2	5 20.8	1 4.2	22 91.7	8 33.3	4 16.7	2 8.3	9 37.5	9 37.5	-	-
	50～59歳	31 100.0	5 16.1	27 87.1	18 58.1	1 3.2	5 16.1	3 9.7	1 3.2	3 9.7	5 16.1	26 83.9	6 19.4	5 16.1	5 16.1	13 41.9	9 29.0	1 3.2	1 3.2
	60～64歳	14 100.0	-	13 92.9	3 21.4	-	2 14.3	-	-	1 7.1	1 7.1	11 78.6	1 7.1	1 7.1	2 14.3	5 35.7	2 14.3	-	-
	65～74歳	43 100.0	5 11.6	34 79.1	9 20.9	1 2.3	8 18.6	3 7.0	2 4.7	11 25.6	6 14.0	32 74.4	7 16.3	12 27.9	11 25.6	13 30.2	6 14.0	-	5 11.6
	75歳以上	19 100.0	2 10.5	12 63.2	1 5.3	-	3 15.8	1 5.3	-	3 15.8	1 5.3	10 52.6	-	1 5.3	1 5.3	3 15.8	2 10.5	-	4 21.1
支援活動	障害者支援活動参加あり	55 100.0	14 25.5	50 90.9	26 47.3	3 5.5	18 32.7	7 12.7	7 12.7	17 30.9	10 18.2	47 85.5	16 29.1	16 29.1	7 12.7	28 50.9	12 21.8	-	2 3.6
	障害者支援活動参加なし	117 100.0	17 14.5	105 89.7	46 39.3	2 1.7	15 12.8	4 3.4	1 0.9	14 12.0	6 5.1	94 80.3	18 15.4	13 11.1	13 11.1	29 24.8	16 13.7	1 0.9	4 3.4
	無回答	16 100.0	1 6.3	10 62.5	2 12.5	-	2 12.5	1 6.3	1 6.3	4 25.0	3 18.8	10 62.5	2 12.5	2 12.5	2 12.5	1 6.3	2 12.5	-	4 25.0
	無効	1 100.0	-	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	-	-

(2) 障害のある方とのかかわり

○障害のある方とのかかわりは、全体で見ると、3 障害を通じて「特にかかわりはない」が半数以上と高い割合になっている。

○身体障害者とのかかわりでは、「身内」を挙げる割合が、他の障害に比べ高い割合になっている。

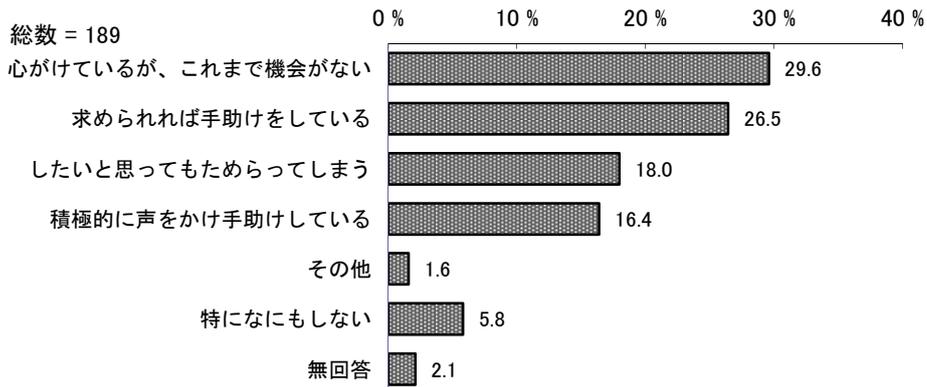
問 11. 障害のある方とのかかわり



(3) 困っている障害者をみかけた時の手助け

- 全体では、「心がけているが、これまで機会がない」(約 30%)、「求められれば手助けをしている」(約 27%)が高い。
- 年代別に見ると、「積極的に声をかけ手助けしている」割合は、60歳以上で高く、「したいと思ってもためらってしまう」割合は、30歳代、40歳代で高い。
- 障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層の方が、「ない」層と比較すると「積極的に声をかけて手助けしている」、「求められれば手助けしている」割合が高い。

問 12. 困っている障害者をみかけた時の手助け



問 12. 困っている障害者をみかけた時の手助け ×年代別・支援活動別

		全体	積極的に声をかけ手助けしている	求められれば手助けしている	したいと思ってもためらってしまう	心がけているがこれまで機会がない	その他	特になにもしない	無回答
全体		189 100.0	31 16.4	50 26.5	34 18.0	56 29.6	3 1.6	11 5.8	4 2.1
年代	16～19歳	3 100.0	-	1 33.3	1 33.3	-	-	1 33.3	-
	20～29歳	15 100.0	2 13.3	5 33.3	13.3	3 20.0	-	3 20.0	-
	30～39歳	40 100.0	4 10.0	13 32.5	11 27.5	8 20.0	2 5.0	2 5.0	-
	40～49歳	24 100.0	4 16.7	4 16.7	7 29.2	9 37.5	-	-	-
	50～59歳	31 100.0	5 16.1	9 29.0	5 16.1	11 35.5	-	1 3.2	-
	60～64歳	14 100.0	3 21.4	5 35.7	2 14.3	4 28.6	-	-	-
	65～74歳	43 100.0	10 23.3	10 23.3	5 11.6	12 27.9	1 2.3	2 4.7	3 7.0
	75歳以上	19 100.0	3 15.8	3 15.8	1 5.3	9 47.4	-	2 10.5	1 5.3
支援活動	障害者支援活動参加あり	55 100.0	11 20.0	23 41.8	7 12.7	11 20.0	-	1 1.8	2 3.6
	障害者支援活動参加なし	117 100.0	17 14.5	25 21.4	23 19.7	38 32.5	2 1.7	10 8.5	2 1.7
	無回答	16 100.0	2 12.5	2 12.5	4 25.0	7 43.8	1 6.3	-	-
	無効	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-

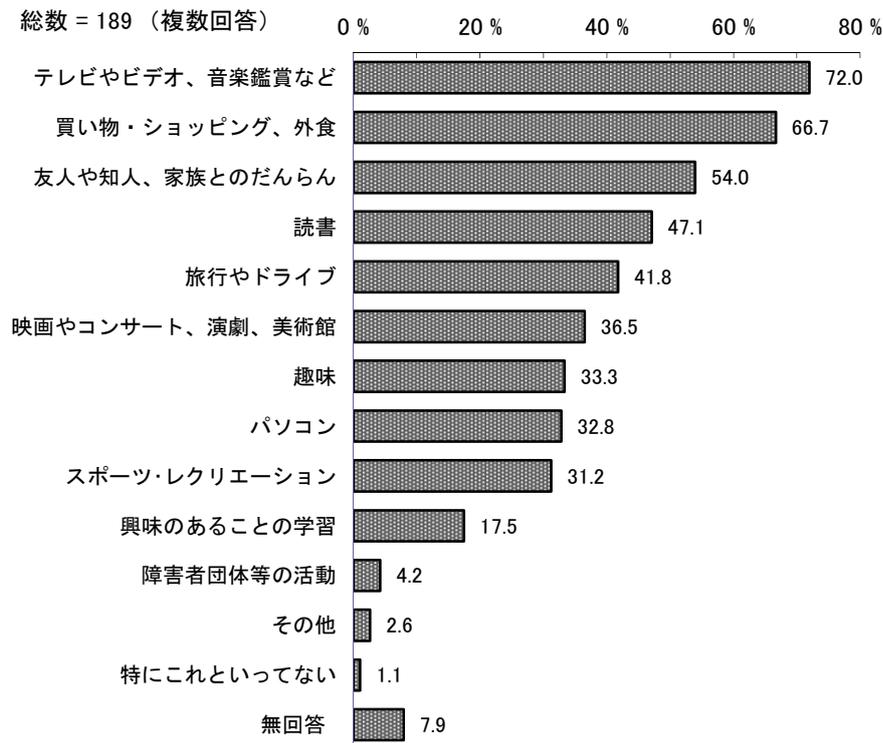
#### 4 余暇活動や障害者を支援する活動について

##### (1) 自由時間の過ごし方

###### ① 現在やっていること

- 自由時間の過ごし方として、現在やっていることは全体では「テレビやビデオ、音楽鑑賞など」が72%で最も高く、ついで「買い物・ショッピング、外食」も60%を超えている。
- 全体的に手帳非所持者の方が手帳所持者より高い割合となっている。特に「買い物・ショッピング、外食」「友人や知人、家族とのだんらん」「旅行やドライブ」においては20ポイント以上の差が開いている。

問 13. 自由時間の過ごし方①現在やっていること



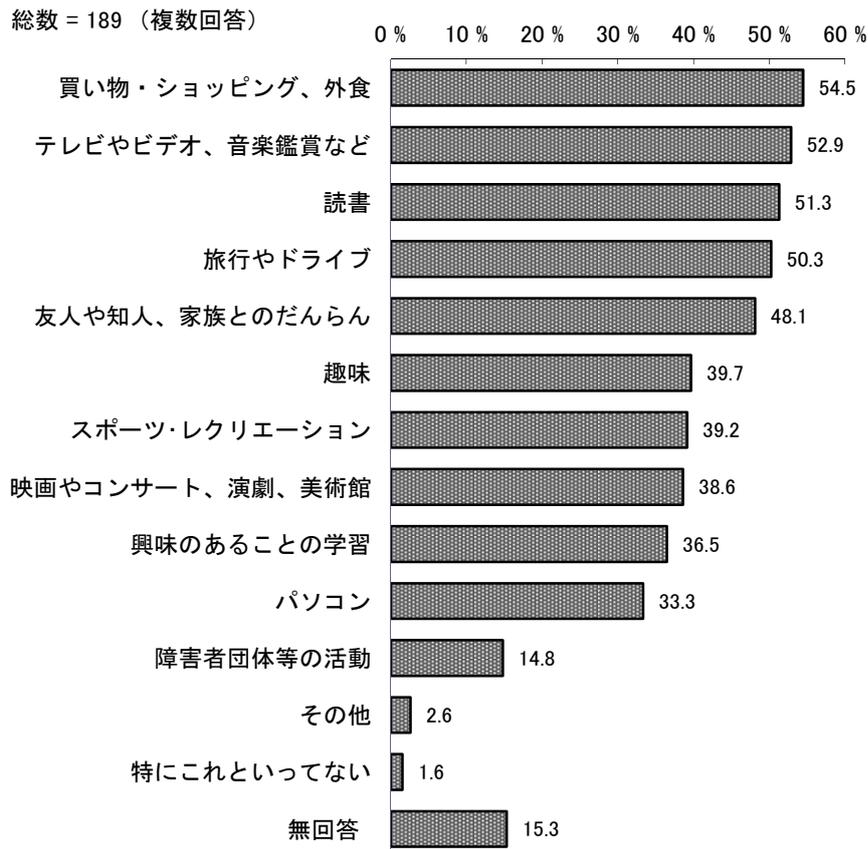
問 13. 自由時間の過ごし方①現在やっていること－手帳所持者との比較－

	全体	テレビやビデオ、音楽鑑賞	買い物・ショッピング、外食	読書	友人や知人、家族とのだんらん	パソコン	旅行やドライブ	趣味	映画やコンサート、演劇、美術館	スポーツ・レクリエーション	興味のあることの学習	障害者団体等の活動	その他	特にこれといってない	無回答
手帳所持者	1377 100.0	875 63.5	553 40.2	513 37.3	473 34.4	300 21.8	280 20.3	263 19.1	240 17.4	172 12.5	160 11.6	69 5.0	52 3.8	105 7.6	290 21.1
手帳非所持者	189 100.0	136 72.0	126 66.7	89 47.1	102 54.0	62 32.8	79 41.8	63 33.3	69 36.5	59 31.2	33 17.5	8 4.2	5 2.6	2 1.1	15 7.9

② 今後も続けたいこと、新しくやりたいこと

- 自由時間の過ごし方として、今後も続けたい、新しくやりたいこととしては、全体では、「買い物・ショッピング、外食」、「テレビやビデオ、音楽鑑賞など」、「読書」、「旅行やドライブ」が 50%を超えて高くなっている。
- 手帳非所持者と手帳所持者とは、現状の参加率と同様大きな差は見られないが、希望率としては、20～30 ポイントの差が見られる。

問 13. 自由時間の過ごし方②今後も続けたい、新しくやりたいこと



問 13. 自由時間の過ごし方②今後も続けたい、新しくやりたいことー手帳所持者との比較ー

	全体	テレビやビデオ、音楽鑑賞など	読書	パソコン	趣味	友人や知人、家族とのだんらん	スポーツ・レクリエーション	障害者団体等の活動	買い物・ショッピング、外食	興味のあることの学習	映画やコンサート、演劇、美術館	旅行やドライブ	その他	特にこれとってない	無回答
手帳所持者	1377	499	333	258	259	370	199	105	378	209	266	315	37	71	597
	100.0	36.2	24.2	18.7	18.8	26.9	14.5	7.6	27.5	15.2	19.3	22.9	2.7	5.2	43.4
手帳非所持者	189	100	97	63	75	91	74	28	103	69	73	95	5	3	29
	100.0	52.9	51.3	33.3	39.7	48.1	39.2	14.8	54.5	36.5	38.6	50.3	2.6	1.6	15.3

(2) 障害者支援活動で参加したことがあるもの

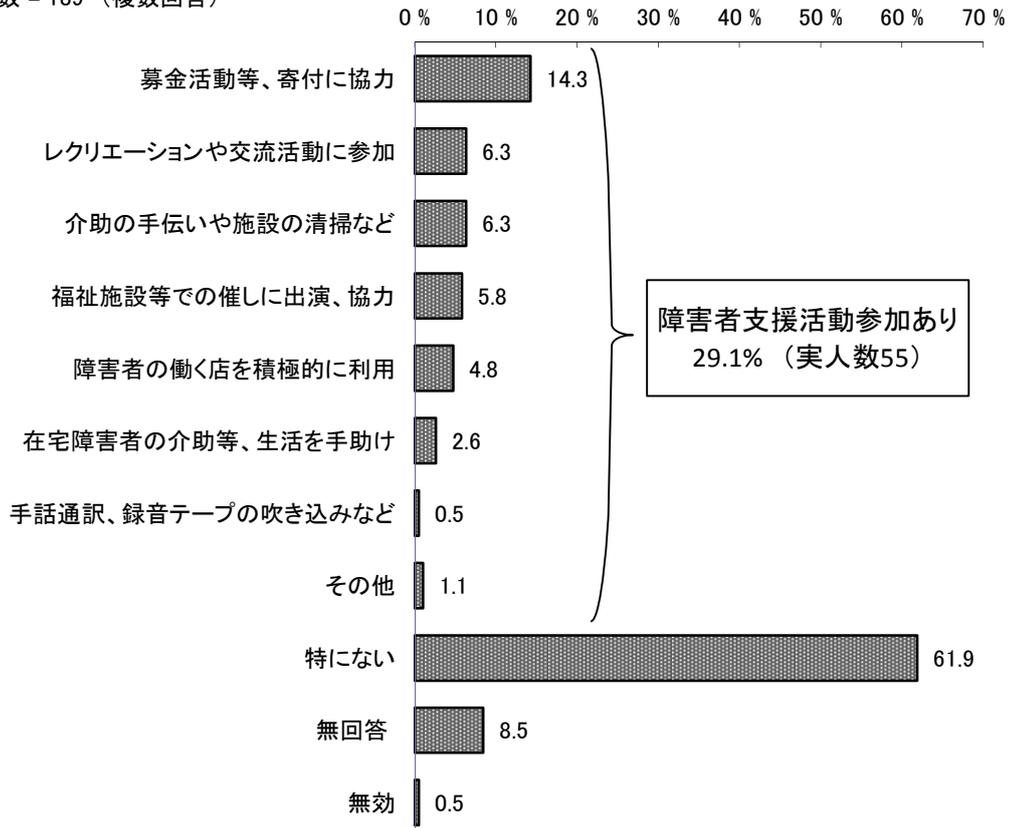
① 参加経験

○全体では、参加した活動が「特にない」とする割合が62%と半数以上を占める。

○参加したことがある活動としては、「募金活動等、寄付に協力」が約14%と最も高く、ついで「レクリエーションや交流活動に参加」、「介助の手伝いや施設の掃除」が約6%と高くなっている。

問 14. 障害者支援活動①参加経験

総数 = 189 (複数回答)



○活動への参加者が少ないため、一定の傾向を指摘するのは難しいが、男女別では女性の方が全体的に各活動へ参加している割合が高く、「募金活動等、寄付に協力」においては、10ポイント以上高くなっている。

○また、年代別では「特にない」が40歳代と50歳代で全体より10ポイント以上高く、反対に20歳代で一般的に参加率が高くなっている。

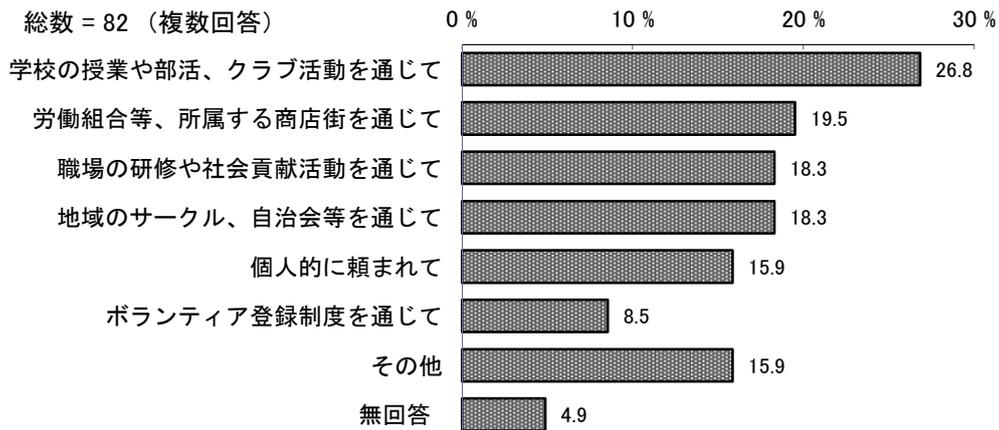
問 14. 障害者支援活動①参加経験 ×性別・年代別

		全体	福祉施設等での催し に出演、協力	レクリエーションや 交流活動に参加	介助の手伝いや施設 の清掃など	在宅障害者の介助 等、生活を手助け	手話通訳、録音テー プの吹き込みなど	障害者の働く店を積 極的に利用	募金活動等、寄 付に協力	その他	特にな い	無回 答	無効
全体		189 100.0	11 5.8	12 6.3	12 6.3	5 2.6	1 0.5	9 4.8	27 14.3	2 1.1	117 61.9	16 8.5	1 0.5
性別	男性	82 100.0	4 4.9	4 4.9	3 3.7	2 2.4	1 1.2	3 3.7	7 8.5	-	57 69.5	7 8.5	-
	女性	102 100.0	7 6.9	8 7.8	7 6.9	3 2.9	-	6 5.9	19 18.6	2 2.0	58 56.9	9 8.8	1 1.0
	無回答	5 100.0	-	-	2 40.0	-	-	-	1 20.0	-	2 40.0	-	-
年代	16～19歳	3 100	-	-	-	-	-	-	1 33.3	-	2 66.7	-	-
	20～29歳	15 100.0	3 20.0	2 13.3	2 13.3	1 6.7	-	1 6.7	4 26.7	-	8 53.3	-	-
	30～39歳	40 100.0	5 12.5	6 15.0	5 12.5	1 2.5	-	3 7.5	6 15.0	1 2.5	24 60.0	-	-
	40～49歳	24 100.0	1 4.2	1 4.2	1 4.2	1 4.2	-	1 4.2	-	1 4.2	18 75.0	1 4.2	1 4.2
	50～59歳	31 100.0	2 6.5	1 3.2	2 6.5	-	-	1 3.2	4 12.9	-	23 74.2	1 3.2	-
	60～64歳	14 100.0	-	-	1 7.1	1 7.1	-	2 14.3	3 21.4	-	8 57.1	-	-
	65～74歳	43 100.0	-	1 2.3	1 2.3	1 2.3	1 2.3	1 2.3	5 11.6	-	25 58.1	9 20.9	-
	75歳以上	19 100.0	-	1 5.3	-	-	-	-	4 21.1	-	9 47.4	5 26.3	-

② 参加形式

- 障害者を支援する活動では、「学校の授業や部活、クラブ活動を通じて」が最も多く、ついで、「労働組合等、所属する商店街を通じて」「職場の研修や社会貢献活動を通じて」「地域のサークル、自治会等を通じて」が20%弱となっている。
- 年代別では参加者が少ないため、一定の傾向を指摘するのは難しいが、50歳代以下では「学校の授業やクラブ活動を通じて」、「職場の研修や社会貢献活動を通じて」が多く、60歳以上では、「地域のサークル、自治会等を通じて」が多くなっている。

問 14-1. 障害者支援活動②参加形式



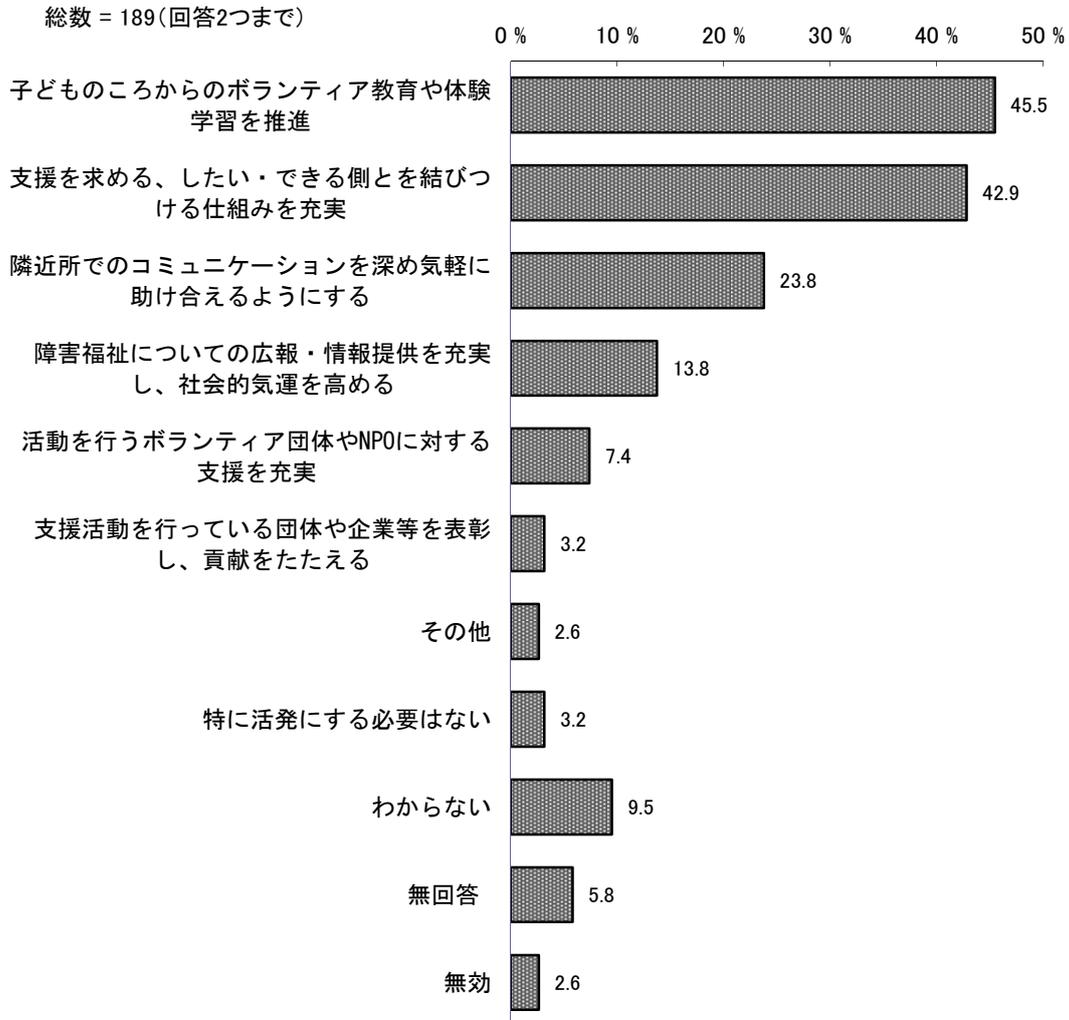
問 14-1. 障害者支援活動②参加形式 ×性別・年代別

		合計	学校の授業や部活、クラブ活動を通じて	職場の研修や社会貢献活動を通じて	労働組合等、所属する商店街を通じて	地域のサークル、自治会等を通じて	ボランティア登録制度を通じて	個人的に頼まれて	その他	無回答
全体		82	22	15	16	15	7	13	13	4
		100.0	26.8	18.3	19.5	18.3	8.5	15.9	15.9	4.9
性別	男性	24	7	5	1	7	1	2	5	1
		100.0	29.2	20.8	4.2	29.2	4.2	8.3	20.8	4.2
	女性	55	14	9	15	8	5	11	8	3
	100.0	25.5	16.4	27.3	14.5	9.1	20.0	14.5	5.5	
	無回答	3	1	1	-	-	1	-	-	-
		100.0	33.3	33.3	-	-	33.3	-	-	-
年代	16~19歳	1	-	-	-	-	-	-	1	-
		100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	20~29歳	13	9	4	-	2	-	-	-	-
		100.0	69.2	30.8	-	15.4	-	-	-	-
	30~39歳	26	7	7	9	5	3	4	5	-
		100.0	26.9	26.9	34.6	19.2	11.5	15.4	19.2	-
	40~49歳	10	1	-	5	-	-	4	2	-
		100.0	10.0	-	50.0	-	-	40.0	20.0	-
50~59歳	10	5	3	-	-	-	-	2	-	
	100.0	50.0	30.0	-	-	-	-	20.0	-	
60~64歳	7	-	-	1	4	-	2	1	1	
	100.0	-	-	14.3	57.1	-	28.6	14.3	14.3	
65~74歳	10	-	1	1	3	4	2	1	1	
	100.0	-	10.0	10.0	30.0	40.0	20.0	10.0	10.0	
75歳以上	5	-	-	-	1	-	1	1	2	
	100.0	-	-	-	20.0	-	20.0	20.0	40.0	

### (3) 障害者支援活動を活発にするために必要なこと

○障害者支援活動を活発にするために必要なこととして、全体では、「子供のころからボランティア教育や体験学習を推進」が約46%、ついで、「支援を求める、したい・できる側とを結びつける仕組みを充実」が約43%と、40%を超え高くなっている。

#### 問 15. 障害者支援活動を活発にするために必要なこと



○男女別では、大きな回答傾向の差は見られない。年代別では、40歳代で「子どものころからのボランティア教育や体験学習を推進」が約75%と、全体より30ポイントも高くなっている。また、65歳以上で「隣近所でのコミュニケーションを深め、気軽に助け合えるようにする」が30%を超え高くなっている。

○障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層は、「ない」層と比較すると、「活動を行うボランティア団体やNPOに対する支援を充実」、「隣近所でのコミュニケーションを深め、気軽に助け合えるようにする」を挙げる割合が高くなっている。

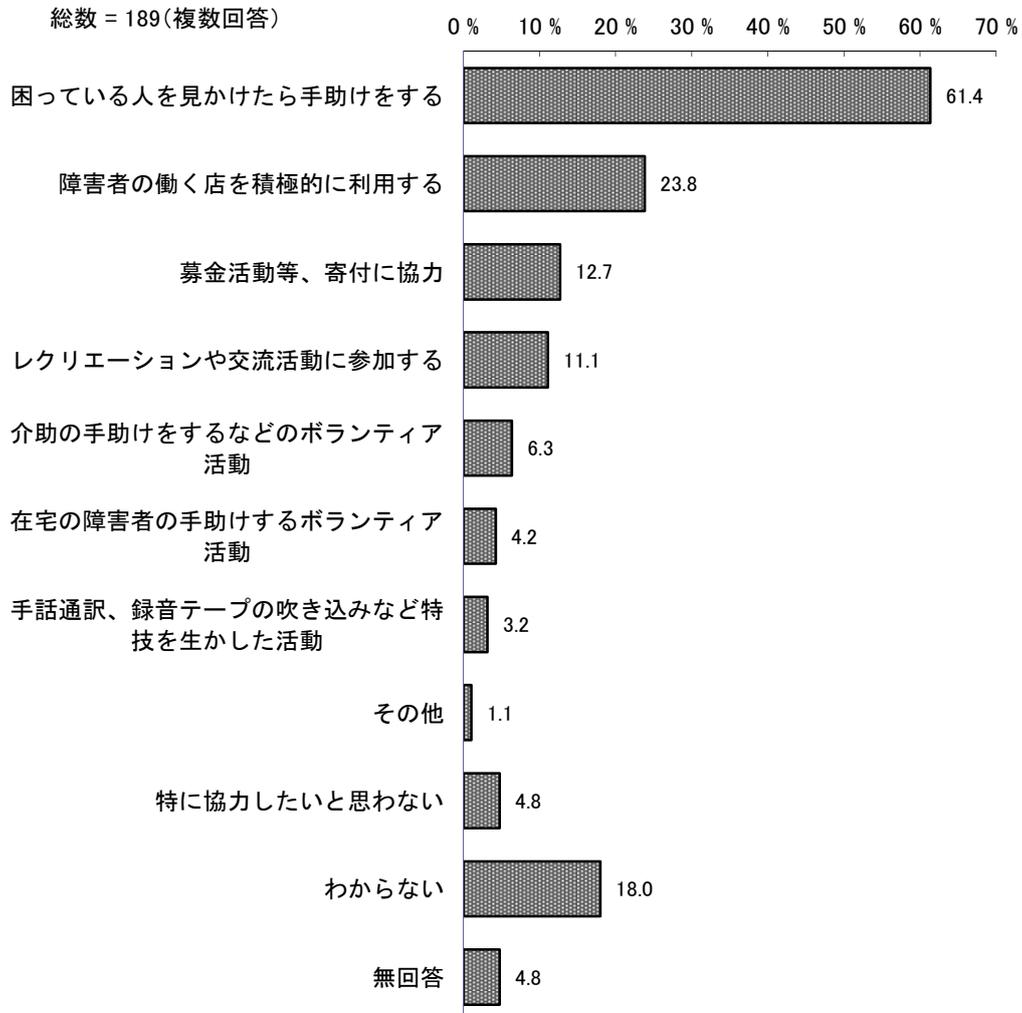
問 15. 障害者支援活動を活発にするために必要なこと ×年代別・支援活動別

	全体	支援を求め、結びつける仕組みを充実	子どものころからのボランティア教育や体験学習を推進	支援活動を行っている団体や企業等を表彰し、貢献をたたえる	活動を行うボランティア団体やNPOに対する支援を充実	障害福祉についての広報・情報提供を充実し、社会的気運を高める	隣近所でのコミュニケーションを深め、気軽に助け合えるようにする	その他	特に活発にする必要はない	わからない	無回答	無効
全体	189 100.0	81 42.9	86 45.5	6 3.2	14 7.4	26 13.8	45 23.8	5 2.6	6 3.2	18 9.5	11 5.8	5 2.6
年代	16～19歳	3 100.0	2 66.7	1 33.3	1 33.3	-	1 33.3	1 33.3	-	-	-	-
	20～29歳	15 100.0	7 46.7	7 46.7	-	3 20.0	2 13.3	3 20.0	-	1 6.7	2 13.3	-
	30～39歳	40 100.0	23 57.5	18 45.0	2 5.0	6 15.0	5 12.5	7 17.5	3 7.5	1 2.5	1 2.5	-
	40～49歳	24 100.0	11 45.8	18 75.0	1 4.2	1 4.2	5 20.8	5 20.8	1 4.2	-	-	1 4.2
	50～59歳	31 100.0	13 41.9	12 38.7	1 3.2	-	4 12.9	3 9.7	1 3.2	1 3.2	5 16.1	2 6.5
	60～64歳	14 100.0	7 50.0	5 35.7	-	-	2 14.3	2 14.3	-	1 7.1	2 14.3	1 7.1
	65～74歳	43 100.0	14 32.6	19 44.2	-	2 4.7	5 11.6	18 41.9	-	2 4.7	5 11.6	3 7.0
	75歳以上	19 100.0	4 21.1	6 31.6	1 5.3	2 10.5	2 10.5	6 31.6	-	-	3 15.8	4 21.1
支援活動	障害者支援活動参加あり	55 100.0	24 43.6	24 43.6	-	7 12.7	9 16.4	15 27.3	4 7.3	1 1.8	2 3.6	6 10.9
	障害者支援活動参加なし	117 100.0	53 45.3	58 49.6	5 4.3	6 5.1	17 14.5	24 20.5	1 0.9	5 4.3	13 11.1	4 3.4
	無回答	16 100.0	4 25.0	4 25.0	1 6.3	1 6.3	-	6 37.5	-	-	3 18.8	4 25.0
	無効	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0

#### (4) 今後の障害者支援活動への協力、活動への参加意向

○今後、どのような形で障害者支援活動に協力したいかについては、「困っている人を見かけたら手助けする」が全体の6割を占めている。ついで、「障害者の働く店を積極的に利用する」が約24%、「募金活動等、寄付に協力」が約13%と続いている。

問 16. 今後の障害者支援活動への協力、活動への参加意向



○男女別では、「障害者の働く店を積極的に利用する」、「募金活動等、寄付に協力する」、「困っている人を見かけたら手助けをする」が女性の方が 10 ポイント程度高くなっている。年代別では大きな回答の差は見られない。

○障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層と「ない」層で比較すると、「ある」層は、一般的に今後の参加意向が高く、支援活動への参加を高めるためには、実際に活動を体験することが重要であることを示唆している。

問 16. 今後の障害者支援活動への協力、活動への参加意向 ×性別・年代別・支援活動別

		全体	介助のボランティアをするなどの活動	在宅の障害者の手助けをする	レクリエーションや交流活動に参加する	手話通訳、録音テープの吹き込みなど特技を生かした活動	障害者の働く店を積極的に利用する	募金活動等、寄付に協力	困っている人を見かけたら手助けをする	その他	特に協力したいと思わない	わからない	無回答
全体		189 100.0	12 6.3	8 4.2	21 11.1	6 3.2	45 23.8	24 12.7	116 61.4	2 1.1	9 4.8	34 18.0	9 4.8
性別	男性	82 100.0	6 7.3	5 6.1	11 13.4	4 4.9	14 17.1	6 7.3	47 57.3	-	7 8.5	17 20.7	5 6.1
	女性	102 100.0	5 4.9	2 2.0	9 8.8	2 2.0	30 29.4	18 17.6	67 65.7	2 2.0	2 2.0	15 14.7	3 2.9
	無回答	5 100.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	-	1 20.0	-	2 40.0	-	-	2 40.0	1 20.0
年代	16～19歳	3 100.0	-	-	-	-	1 33.3	1 33.3	-	-	1 33.3	-	-
	20～29歳	15 100.0	2 13.3	1 6.7	3 20.0	-	1 6.7	2 13.3	8 53.3	1 6.7	1 6.7	3 20.0	-
	30～39歳	40 100.0	3 7.5	-	8 20.0	2 5.0	9 22.5	6 15.0	26 65.0	-	-	7 17.5	-
	40～49歳	24 100.0	1 4.2	2 8.3	3 12.5	2 8.3	12 50.0	1 4.2	18 75.0	1 4.2	1 4.2	4 16.7	1 4.2
	50～59歳	31 100.0	1 3.2	-	3 9.7	2 6.5	7 22.6	6 19.4	19 61.3	-	1 3.2	7 22.6	1 3.2
	60～64歳	14 100.0	3 21.4	1 7.1	1 7.1	-	6 42.9	3 21.4	8 57.1	-	1 7.1	1 7.1	-
	65～74歳	43 100.0	1 2.3	3 7.0	2 4.7	-	6 14.0	4 9.3	26 60.5	-	4 9.3	8 18.6	4 9.3
	75歳以上	19 100.0	1 5.3	1 5.3	1 5.3	-	3 15.8	1 5.3	11 57.9	-	-	4 21.1	3 15.8
支援活動	障害者支援活動参加あり	55 100.0	17 30.9	7 12.7	27 49.1	-	29 52.7	25 45.5	43 78.2	4 7.3	-	7 12.7	3 5.5
	障害者支援活動参加なし	117 100.0	3 2.6	3 2.6	5 4.3	6 5.1	26 22.2	8 6.8	77 65.8	-	8 6.8	25 21.4	1 0.9
	無回答	16 100.0	-	-	-	-	1 6.3	-	7 43.8	1 6.3	-	3 18.8	5 31.3
	無効	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-	-

## 5 障害者福祉の情報について

### (1) 障害のある方の問題や障害者福祉についての関心

#### ① 関心の程度

○障害のある方の問題や障害者福祉について、全体では「ある程度関心がある」が約 44%と最も高い割合を占めており、「非常に関心がある」を含めると全体の約 47%を占める。

○男女別では、全体的にほとんど差は見られない。年代別では、40 歳代が全体より 10 ポイント以上高く、30 歳代が全体より 10 ポイント程度低い。

○障害者を支援する活動に参加したこと「ある」層の方が、「ない」層より「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた割合が 20 ポイント以上高い。

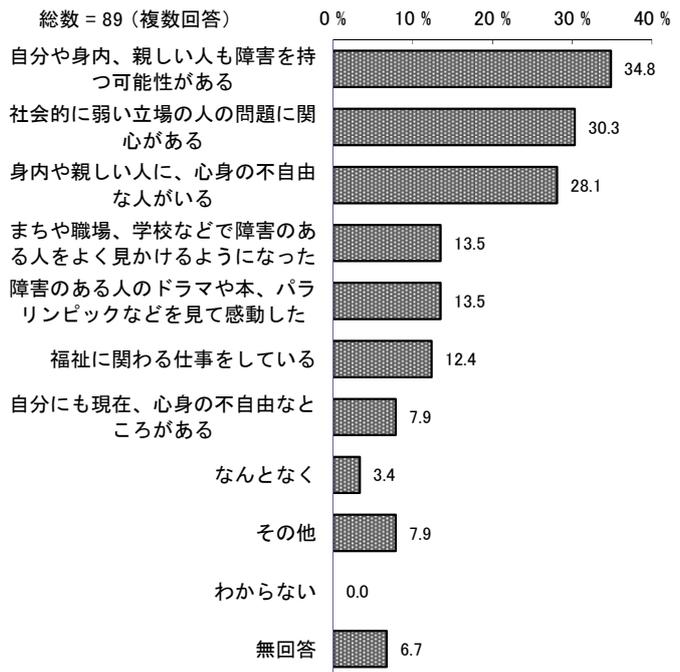
問 17. 障害のある方の問題や障害者福祉についての関心①関心の程度×年代別・支援活動別

		合計	非常に 関心がある	ある 程度関心 がある	あまり 関心がない	全く 関心がない	どちらとも いえない	わからない	無回答	「非常に 関心がある」 の割合 計
	全体	189 100.0	5 2.6	84 44.4	44 23.3	2 1.1	37 19.6	7 3.7	10 5.3	89 47.1
年代	16～19歳	3 100.0	-	-	2 66.7	1 33.3	-	-	-	-
	20～29歳	15 100.0	-	7 46.7	3 20.0	1 6.7	2 13.3	1 6.7	1 6.7	7 46.7
	30～39歳	40 100.0	1 2.5	14 35.0	14 35.0	-	11 27.5	-	-	15 37.5
	40～49歳	24 100.0	1 4.2	13 54.2	2 8.3	-	5 20.8	1 4.2	2 8.3	14 58.4
	50～59歳	31 100.0	1 3.2	13 41.9	7 22.6	-	6 19.4	3 9.7	1 3.2	14 45.1
	60～64歳	14 100.0	1 7.1	6 42.9	4 28.6	-	3 21.4	-	-	7 50.0
	65～74歳	43 100.0	1 2.3	22 51.2	7 16.3	-	8 18.6	1 2.3	4 9.3	23 53.5
	75歳以上	19 100.0	-	9 47.4	5 26.3	-	2 10.5	1 5.3	2 10.5	9 47.4
支援活動	障害者支援活動 参加あり	55 100.0	2 3.6	32 58.2	11 20.0	-	6 10.9	1 1.8	3 5.5	34 61.8
	障害者支援活動 参加なし	117 100.0	1 0.9	44 37.6	29 24.8	2 1.7	29 24.8	6 5.1	6 5.1	45 38.5
	無回答	16 100.0	2 12.5	7 43.8	4 25.0	-	2 12.5	-	1 6.3	9 56.3
	無効	1 100.0	-	1 100.0	-	-	-	-	-	1 100.0

## ② 関心を持っている理由やきっかけ

○前設問で「非常に関心がある」、「ある程度関心がある」とした回答者が、障害者福祉に関心を持つようになった理由としては、「自分や身内、親しい人も障害を持つ可能性がある」「社会的に弱い立場の人の問題に関心がある」を挙げた割合が30%以上と高く、身近な問題に共感する人や社会意識の強い人が多い。

付問 17-1. 関心を持っている理由やきっかけ

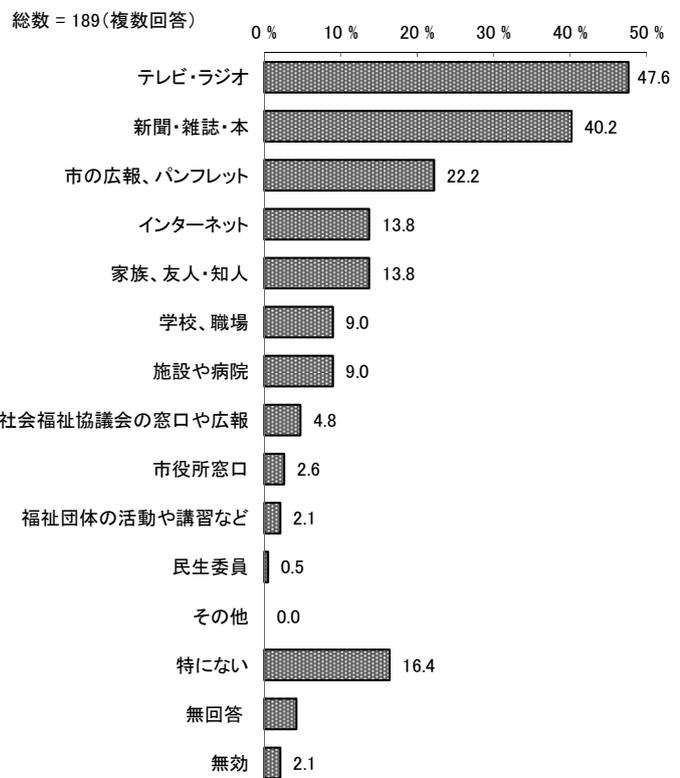


## (2) 障害者福祉についての情報入手先

○障害者福祉の情報の入手先は、「テレビ・ラジオ」、「新聞・雑誌・本」が40%を超え高く、マスコミが主体となっている。

○市の広報や、社会福祉協議会の窓口など公共機関の広報活動を挙げた割合は低くなっている。

問 18. 障害者福祉についての情報入手先

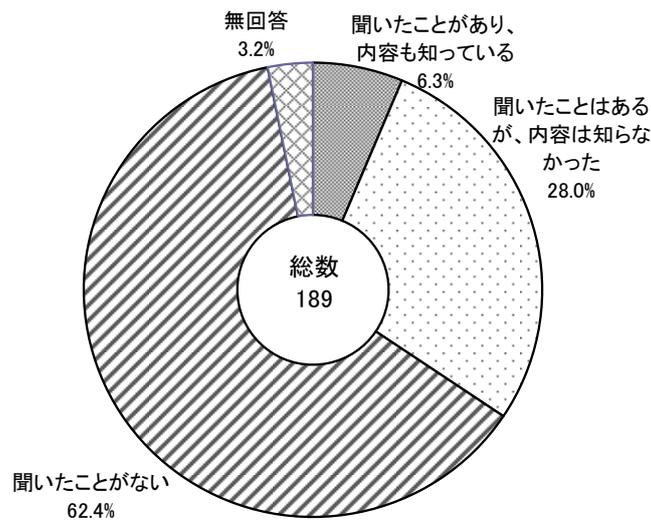


## 6 これからの障害福祉について

### (1) 「障害者差別解消法」という法律について

- 「障害者差別解消法」という法律を、その内容とともに知っているかという問に対しては、「聞いたことがない」が約62%と大半を占めている。
- 男女別では回答傾向に大きな差はなく、年代別では、50歳代と65歳以上において「聞いたことがあるが、内容は知らなかった」を挙げる割合が高くなっている。
- 障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層と「ない」層においては、特に回答傾向に大きな差は見られない。

問 19. 「障害者差別解消法」という法律について



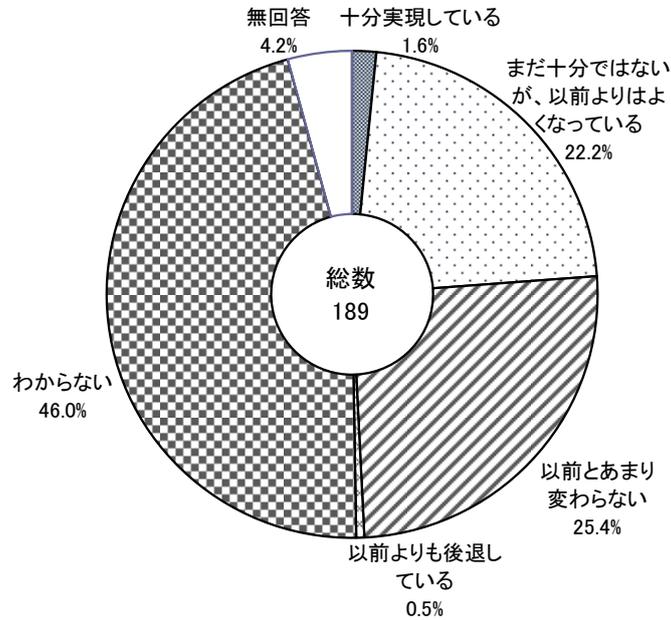
問 19. 「障害者差別解消法」という法律について ×年代別

		全体	聞いたことがあるが、内容は知らない	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことはあるが、内容は知らなかった	聞いたことがない	無回答
全体		189 100.0	12 6.3	53 28.0	118 62.4	6 3.2	
年代	16～19歳	3 100.0	-	-	3 100.0	-	-
	20～29歳	15 100.0	2 13.3	-	12 80.0	1 6.7	
	30～39歳	40 100.0	2 5.0	4 10.0	34 85.0	-	
	40～49歳	24 100.0	2 8.3	4 16.7	18 75.0	-	
	50～59歳	31 100.0	1 3.2	13 41.9	16 51.6	1 3.2	
	60～64歳	14 100.0	-	3 21.4	11 78.6	-	
	65～74歳	43 100.0	4 9.3	19 44.2	18 41.9	2 4.7	
	75歳以上	19 100.0	1 5.3	10 52.6	6 31.6	2 10.5	

(2) 「障害者差別解消法」の実現状況

○全体では、「わからない」が約46%と半数を占め、ついで「以前とあまり変わらない」が約25%と高い。「十分実現している」と「まだ十分ではないが以前よりはよくなっている」を合わせると約4人に1人がよくなっていると感じている。

問 20. 「障害者差別解消法」の実現状況

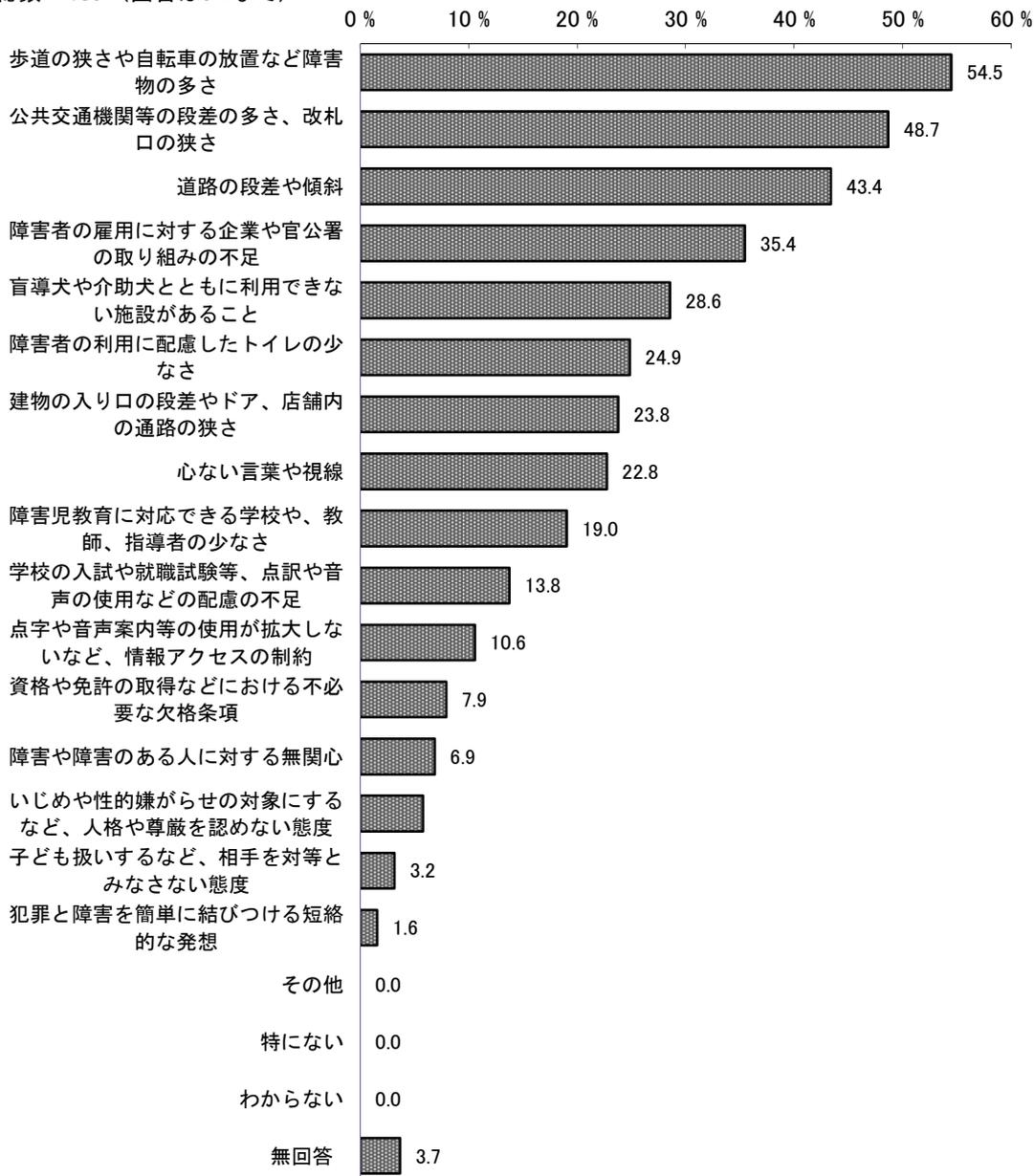


### (3) 社会的障壁の除去における大きな課題

- 社会的障壁の除去における大きな課題として、「歩道の狭さや自転車の放置など障害物の多さ」(約 55%)、「公共交通機関等の段差の多さ、改札口の狭さ」(約 49%)、「道路の段差や傾斜」(約 43%)と物理的な障壁が上位を占めている。
- また、「障害者の雇用に対する企業や官公署の取り組み不足」(約 35%)、「盲導犬や介助犬とともに利用できない施設があること」(約 29%)、「心ない言葉や視線」(約 23%)と社会的な制度や仕組み、人々の偏見等の課題を挙げる割合も多い。

問 21. 社会的障壁の除去における大きな課題

総数 = 189 (回答は5つまで)

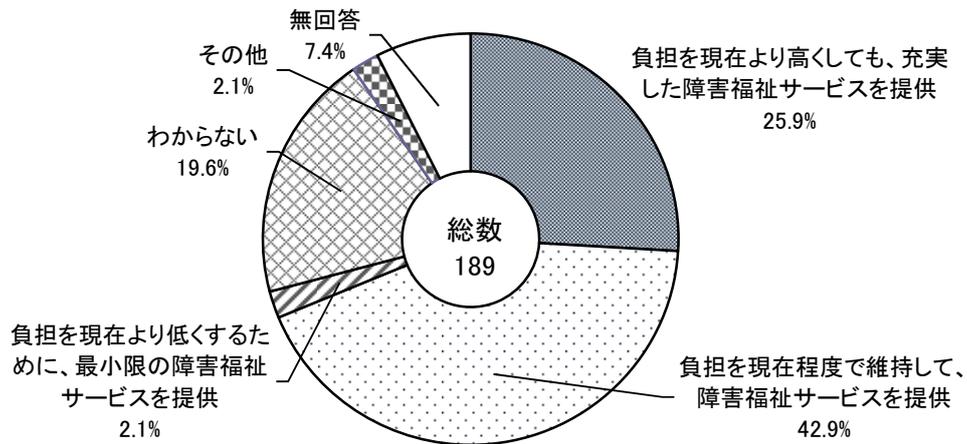


(4) 今後の障害福祉サービスと社会負担のバランス

○全体では、「負担を現在程度で維持し、障害福祉サービスを提供」が約 43%で最も高く、ついで、「負担を現在より高くし、充実した障害福祉サービスを提供」が約 26%となり、一方「負担をより低くするため、最小限の障害福祉サービスを提供」は約 2%と低く、現状以上の障害福祉サービスを望む割合が多くなった。

○年代別では、「負担を現在より高くし、充実したサービスを提供」とする割合が、40歳代で約 33%、60歳以上で 27~36%と高く、一方「負担を現状程度で維持し、障害福祉サービスを提供」は、20歳代、30歳代で高い。

問 22. 今後の障害福祉サービスと社会負担のバランス



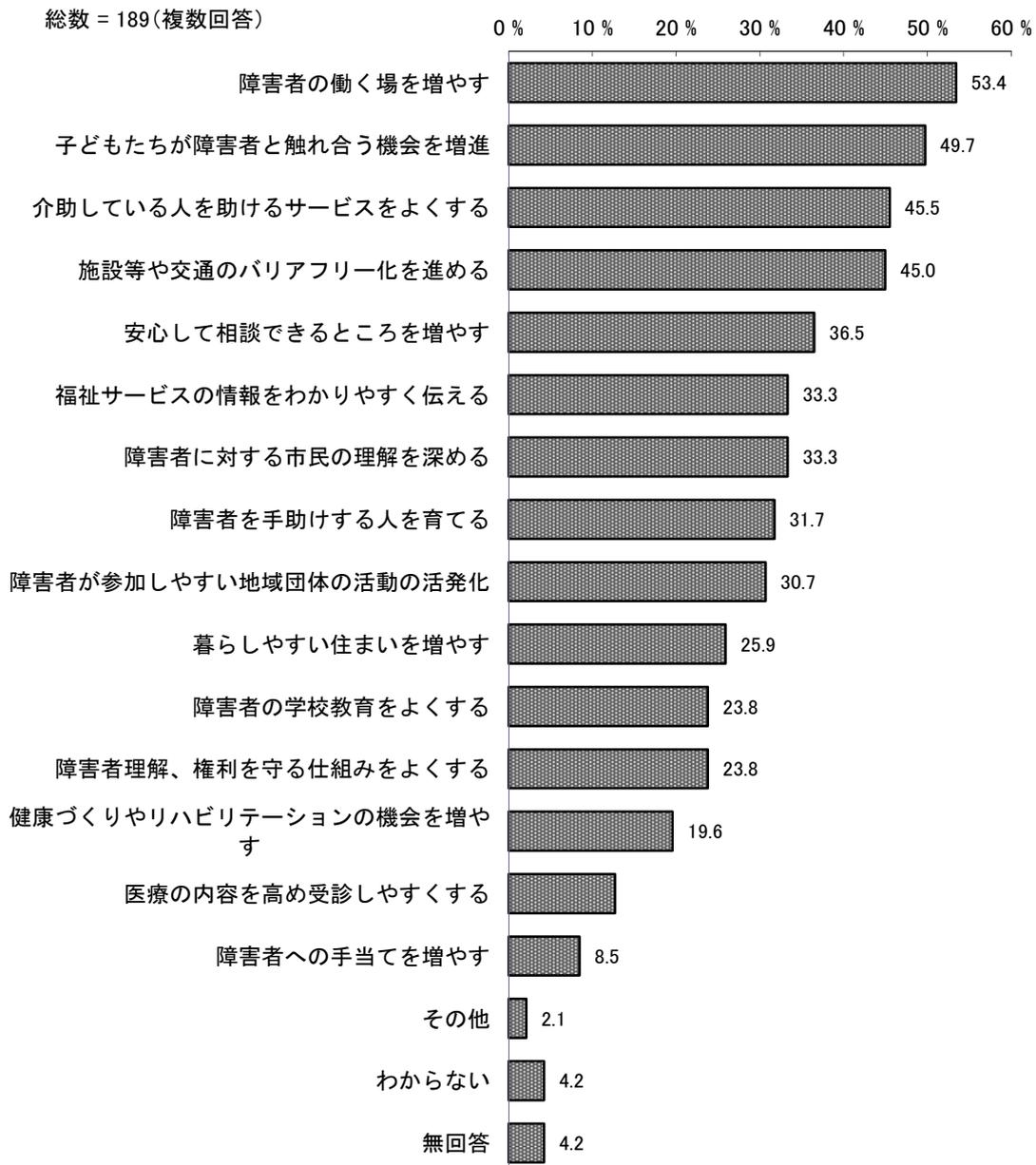
問 22. 今後の障害福祉サービスと社会負担のバランス ×年代別

	全体	負担を現在より高くしても、充実したサービスを提供	負担を現在程度で維持して、障害福祉サービスを提供	負担を現在より低くするために、最小限の障害福祉サービスを提供	わからない	その他	無回答
全体	189 100.0	49 25.9	81 42.9	4 2.1	37 19.6	4 2.1	14 7.4
年代	16~19歳	3 100.0	-	1 33.3	-	2 66.7	-
	20~29歳	15 100.0	3 20.0	9 60.0	1 6.7	1 6.7	1 6.7
	30~39歳	40 100.0	8 20.0	25 62.5	-	5 12.5	1 2.5
	40~49歳	24 100.0	8 33.3	10 41.7	-	4 16.7	2 8.3
	50~59歳	31 100.0	7 22.6	13 41.9	1 3.2	9 29.0	1 3.2
	60~64歳	14 100.0	4 28.6	6 42.9	-	3 21.4	-
	65~74歳	43 100.0	12 27.9	13 30.2	1 2.3	9 20.9	-
	75歳以上	19 100.0	7 36.8	4 21.1	1 5.3	4 21.1	-
	75歳以上	3 100.0	7 233.3	4 133.3	1 33.3	4 133.3	-

(5) すべての人が自分らしく生きることができる社会にするために重要なこと

○障害のある人もない人も自分らしく生きることができる社会にするために、特に重要なこととして全体では、「障害者の働く場を増やす」(約 53%)、「子どもたちが障害者と触れ合う機会を増進」(約 50%)、「介助している人を助けるサービスをよくする」(約 46%)、「施設等や交通のバリアフリー化を進める」(約 45%) と高くなっている。

問 23. すべての人が自分らしく生きることができる社会にするために重要なこと



○男女別では、それほど差は見られないが「福祉サービスの情報をわかりやすく伝える」が男性に比べ女性の方が20ポイント以上高くなっている。

○年代別で見ると、全体の上位の項目については大きな違いはないが、各項目では、「暮らしやすい住まいを増やす」は20歳代で約60%と高く、「障害者を手助けする人を育てる」は65歳以上で40%前後と高くなっている。

○障害者を支援する活動に参加したことが「ある」層は、「ない」層と比べて、どの項目も大体回答率が高い傾向があり、障害者施策の全般的な充実が必要と考えていることがわかる。

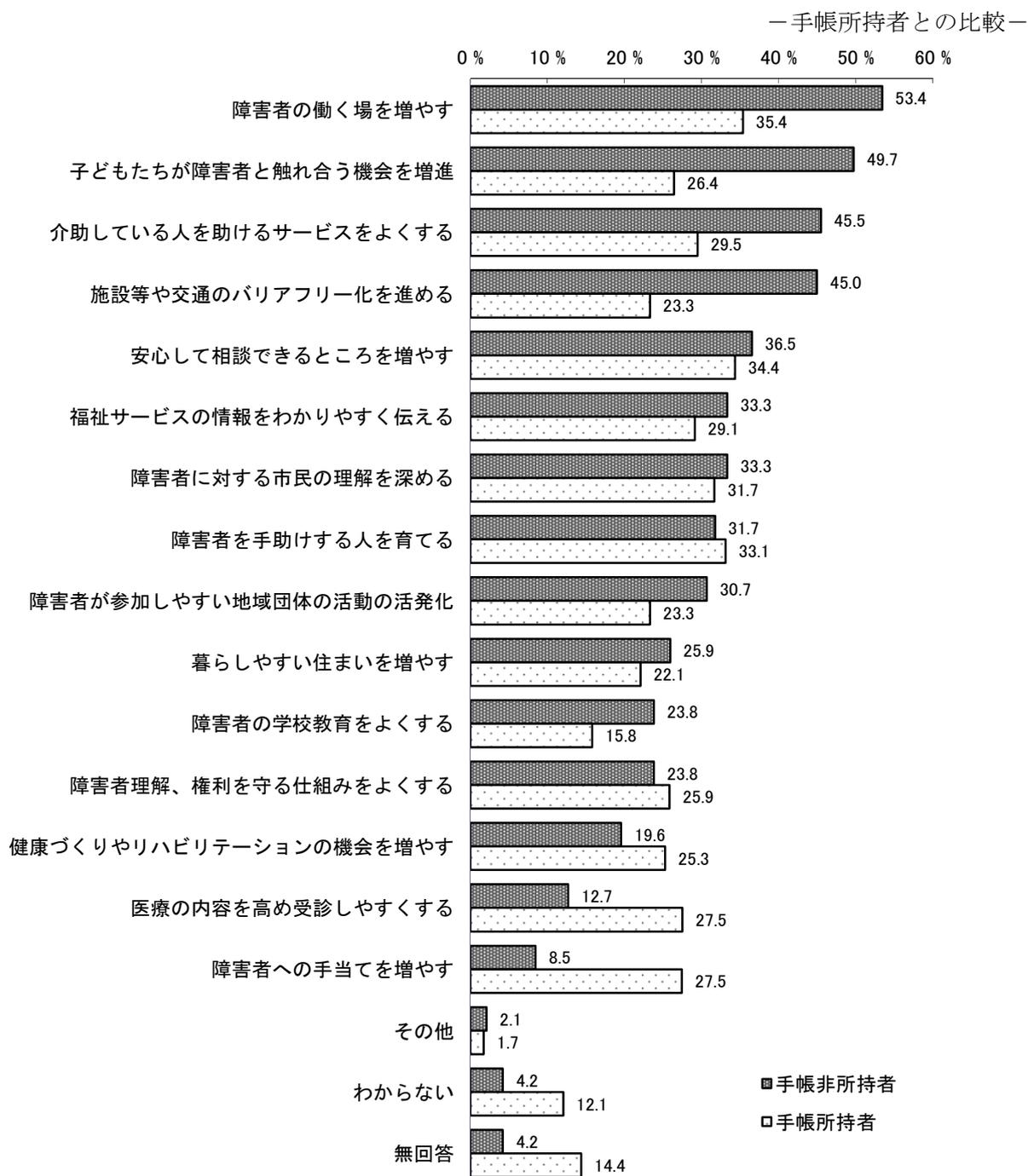
問23. すべての人が自分らしく生きることができる社会にするために重要なこと

×性別・年代別・支援活動別

	全体	障害者を手助けする人を育てる	障害者が参加しやすい地域団体の活動の活発化	障害者の学校教育をよくする	障害者の働く場を増やす	障害者への手当を増やす	健康づくりやリハビリテーションの機会を増やす	医療の内容を高め受診しやすくする	福祉サービスの情報をわかりやすく伝える	安心して相談できるところを増やす	暮らしやすい住まいを増やす	介助している人を助けるサービスをよくする	施設等や交通のバリアフリー化を進める	障害者に対する市民の理解を深める	子どもたちが障害者と触れ合う機会を増進	障害者理解 権利を守る仕組みをよくする	その他	わからない	無回答	
全体	189 100.0	60 31.7	58 30.7	45 23.8	101 53.4	16 8.5	37 19.6	24 12.7	63 33.3	69 36.5	49 25.9	86 45.5	85 45.0	63 33.3	94 49.7	45 23.8	4 2.1	8 4.2	8 4.2	
性別	男性	82 100.0	24 29.3	26 31.7	17 20.7	46 56.1	6 7.3	15 18.3	10 12.2	15 18.3	24 29.3	19 23.2	33 40.2	29 35.4	35 42.7	19 23.2	3 3.7	5 6.1	6 7.3	
	女性	102 100.0	33 32.4	31 30.4	28 27.5	52 51.0	9 8.8	22 21.6	12 11.8	45 44.1	43 42.2	30 29.4	50 50.0	51 51.0	34 55.9	26 25.5	1 1.0	3 2.9	2 2.0	
	無回答	5 100.0	3 60.0	1 20.0	-	3 60.0	1 20.0	-	2 40.0	3 60.0	2 40.0	-	4 80.0	1 20.0	2 40.0	-	-	-	-	
年代	16~19歳	3 100.0	1 33.3	1 33.3	-	-	1 33.3	-	-	-	-	1 33.3	1 33.3	-	1 33.3	-	-	-	-	
	20~29歳	15 100.0	5 33.3	1 6.7	2 13.3	10 66.7	1 6.7	4 26.7	-	2 13.3	7 46.7	9 60.0	8 53.3	8 53.3	5 40.0	6 20.0	3 20.0	-	1 6.7	-
	30~39歳	40 100.0	7 17.5	10 25.0	16 40.0	23 57.5	4 10.0	9 22.5	9 22.5	13 32.5	13 32.5	11 27.5	21 52.5	22 55.0	14 35.0	20 50.0	13 32.5	2 5.0	1 2.5	-
	40~49歳	24 100.0	10 41.7	11 45.8	5 20.8	15 62.5	2 8.3	4 16.7	3 12.5	9 37.5	13 54.2	7 29.2	15 62.5	10 41.7	8 33.3	18 75.0	6 25.0	1 4.2	-	-
	50~59歳	31 100.0	9 29.0	10 32.3	9 29.0	17 54.8	3 9.7	5 16.1	3 9.7	15 48.4	12 38.7	10 32.3	15 48.4	16 51.6	13 41.9	15 48.4	10 32.3	-	1 3.2	-
	60~64歳	14 100.0	2 14.3	7 50.0	1 7.1	8 57.1	1 7.1	3 21.4	2 14.3	5 35.7	5 35.7	4 28.6	3 21.4	7 50.0	3 21.4	6 42.9	3 21.4	-	1 7.1	2 14.3
	65~74歳	43 100.0	19 44.2	13 30.2	7 16.3	19 44.2	4 9.3	6 14.0	4 9.3	14 32.6	15 34.9	6 14.0	16 37.2	15 34.9	16 37.2	21 48.8	6 14.0	-	2 4.7	3 7.0
	75歳以上	19 100.0	7 36.8	5 26.3	5 26.3	9 47.4	1 5.3	5 26.3	3 15.8	5 26.3	4 21.1	2 10.5	7 36.8	6 31.6	4 21.1	7 36.8	4 21.1	1 5.3	2 10.5	3 15.8
支援活動	障害者支援活動参加あり	55 100.0	18 32.7	20 36.4	13 23.6	34 61.8	5 9.1	11 20.0	9 16.4	21 38.2	19 34.5	14 25.5	29 52.7	28 50.9	17 30.9	30 54.5	15 27.3	1 1.8	1 1.8	3 5.5
	障害者支援活動参加なし	117 100.0	35 29.9	34 29.1	29 24.8	61 52.1	10 8.5	23 19.7	12 10.3	38 32.5	44 37.6	30 25.6	52 44.4	51 43.6	39 33.3	55 47.0	26 22.2	3 2.6	6 5.1	2 1.7
	無回答	16 100.0	6 37.5	4 25.0	3 18.8	6 37.5	1 6.3	3 18.8	3 18.8	4 25.0	6 37.5	5 31.3	4 25.0	6 37.5	7 43.8	9 56.3	4 25.0	-	1 6.3	3 18.8
	無効	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-

○手帳所持者の回答傾向と比較すると、手帳所持者は全ての施策を必要としているが、手帳非所持者は、働く場や触れ合う機会を増やす、介助者を助けるサービスの充実などを挙げる割合が高い一方、障害者手当や医療を受診しやすくする等を挙げる割合は低く、手帳所持者との差は10～20ポイント程度開いている。

問 23. すべての人が自分らしく生きることができる社会にするために重要なこと



## IV 自由意見

記述式による意見欄には、延べ 488 件の意見及び要望が寄せられた。主な意見と件数は次のとおりである。

### 1 経済的な支援

項目	意見の概要	件数			
		身体障害	知的障害	精神障害	手帳非所持者
障害者年金	障害者年金が下りない	2	0	0	0
	障害者年金額を上げて欲しい	0	0	2	0
助成金・補助金	手厚くして欲しい	5	0	0	0
	所得制限をなくして欲しい	1	1	1	0
その他	税金や保険料が高い	5	1	3	0
	経済支援(生活保護等)を受けたいが、相談場所が分からない、相手にされない	1	0	0	0
	安心して暮らせるように支えて欲しい	6	3	4	0
	級の設定方法を見直して欲しい	2	1	0	0
	他の市や東京都等のサービスと同等を希望	7	2	2	0
	計	29	8	12	0

### 2 福祉制度について

項目	意見の概要	件数			
		身体障害	知的障害	精神障害	手帳非所持者
行政一般	手続きを支所や郵送などで行えるようにして欲しい	2	2	3	0
	窓口が分かりにくい、窓口を一括して欲しい	2	1	0	0
	手続きが分かりにくい、簡潔にして欲しい	2	1	0	0
	支援制度の変更や更新手続きが必要な際は、連絡をして欲しい	0	2	1	0
	役所・保健所・病院等の連絡・情報共有をしっかりとって欲しい	1	0	0	0
	市のHPを見やすくして欲しい	1	0	0	0
	市の広報・ガイドにFax番号・メールアドレスを書いて欲しい	1	0	0	0
	駐車禁止除外措置を承認してもらえない	2	0	0	0
	関係者の思いやりのある対応が欲しい	3	9	4	0
	知識・情報を身に付けて提供して欲しい				
	障害者福祉やボランティア活動等の情報が少なく、分かりにくい	0	0	0	3
	後見人が選べない、市で推薦して欲しい	0	1	0	0
	安心して相談できる場所が欲しい	1	2	0	1
	担当者がよく代わり、担当者が分からず連絡がしづらい、事情や病状の説明を繰り返さないといけない	1	2	1	0
	地域で頑張っている施設等を応援して欲しい	0	0	0	1
現場の声を聴いて、必要なことを実施して欲しい	0	0	0	1	
高齢・障害者	紙パンツを支給して欲しい	1	0	0	0
	緊急用報知器の設置をして欲しい(一人でいるとき体調を崩した際、緊急対応してもらえる体制を希望)	2	1	1	0
サービス	手話通訳派遣サービスの休日利用・メールでの予約希望	3	0	0	0
	ショートステイ等のサービスの手続きを短縮化し、利用したいときにすぐに利用できるようにして欲しい	1	1	1	0

(つづく)

サービス	デイサービス・補助具の支給等の利用制限を見直して欲しい	4	2	1	0
	日常生活用具にスマートフォンを入れて欲しい	2	0	0	0
	リハビリの回数を増やして欲しい 制限等なく自由にリハビリをできるようにして欲しい	3	0	0	0
	送迎エリアの拡張、県区市に関係なく送迎サービスをして欲しい	1	0	0	0
	移動支援の充実	1	0	0	0
	補聴器の電池の給付をして欲しい	1	0	0	0
	サービスの利用料金を下げて欲しい	1	0	0	0
	サービスや施設の信頼できる情報が欲しい	2	1	0	0
	受けられるサービスや制度変更等の情報が分かりにくい 役所や病院等色々な場所で積極的情報発信して欲しい	3	3	1	0
	分かりやすいパンフレットが欲しい HPだけでなくパンフレット等も充実させて欲しい	2	0	0	0
	介護者へのケアを充実して欲しい	2	2	1	2
	信頼できるケアマネジャーがいない	1	0	0	0
	障害を他者に知らせるワッペン・バッジのような物が欲しい	3	0	1	0
	施設	入所施設を充実させて欲しい、入所期間を長くして欲しい	1	4	1
グループホームを増やして欲しい		0	1	1	0
通所施設を増やして欲しい		0	1	0	0
子どもがグループレクレーションできる機会を増やして欲しい		1	0	0	0
リハビリ施設・先生が少ない		5	2	1	0
事業所によって受けられるサービスが違う		0	1	0	0
関係者の知識経験が十分でない		0	2	1	0
介護従事者の給与面や待遇面での改善が必要		3	3	0	0
	計	59	44	19	8

### 3 社会環境

項目	意見の概要	件数			
		身体障害	知的障害	精神障害	手帳非所持者
安全	災害時の情報収集及び避難生活を送れるための事前準備・対策が必要	3	1	1	0
	地域安全対策が必要、地域との連携が重要	0	2	0	0
交通	道路及び公共交通機関のバリアフリーの推進	17	1	2	3
	利用料金が高い	7	1	8	0
	駅のエレベーター・エスカレーターが少ない	2	0	0	0
	障害者向けの交通情報(電車の遅れや事故)アプリが欲しい	1	0	0	0
	バス路線の充実	2	1	2	0
	優先席が使いにくい	3	0	0	0
	タクシーチケットの運転手側の理解がなく、使いにくい	2	0	0	0
施設	公民館や公共施設の利用料値上げはやめて欲しい	1	0	0	0
	役所・公共施設のバリアフリー化して欲しい	3	1	2	0
	障害者に慣れている人がいる施設・病院かどうか等、障害者に特化した情報が欲しい	0	4	0	0
	病院の予約・順番待ちの通知等をネットでできるようにして欲しい	2	0	0	0

(つづく)

学校	近くに学校がない、スクールバス・通学支援を導入して欲しい	1	9	0	0
	手すり・エレベーターをつけて欲しい	1	1	0	0
	通常級の先生とは別にサポートの人をつけて欲しい	1	1	0	0
	一人一人に適切な支援が受けられるよう、手厚い支援をして欲しい、先生への教育が必要	0	1	0	0
	学校の情報が分かりにくい	0	0	1	0
就労	職が見つからない	1	2	2	0
	障害者のための就職斡旋窓口を設けて欲しい 就職サポートセンターが遠い、窓口を増やして欲しい	2	0	2	0
	障害者が安心して働ける職場を増やして欲しい	4	5	4	0
	作業所を増やして欲しい	0	1	0	0
	給料を増やして欲しい	0	1	2	0
	計	53	32	26	3

#### 4 その他

項目	意見の概要	件数			
		身体障害	知的障害	精神障害	手帳非所持者
不安	病状や将来の状況に対する不安、心情の吐露	24	6	4	0
	介護施設・サービスの従事者・社会に対する不安	5	1	0	0
	介助者が居なくなった時の心配や不安	2	14	3	0
	施設に入れるか不安	2	0	0	0
	外見だけで障害があるとはわからないので、他人から気を遣ってもらえない。何かあったときは不安	3	0	2	0
	医師とのやり取りが不安	1	0	2	0
	差別、人権侵害への不満 みんなが暮らしやすい社会にして欲しい	6	5	5	8
その他	運動や外出など、障害によってできないことが淋しい	3	0	0	0
	選挙の投票に関して記載しやすい様式にして欲しい	1	0	0	0
	家が借りられない	1	0	0	0
	一般的なルールの徹底をしてほしい (喫煙スペースや犬の散歩など)	1	1	0	0
	バリアフリー以外の面でも自立して生活できるような製品を作って欲しい	1	0	0	0
	偏見をなくすために、学校教育を含め、市民への教育・啓蒙活動が必要	0	3	0	5
	社会、特に低年齢からの障害者への理解のため、触れ合う機会を増やして欲しい	0	0	0	3
	市川市の障害者福祉について、あまりよく知りません	0	0	0	1
	アンケートを答えることで、障害者福祉等を考えるきっかけとなった	0	0	0	5
	アンケートの内容が多い、理解しにくい、答えにくい	14	6	2	4
	市の取り組み、関係者への謝辞	34	8	4	5
	計	98	44	22	31

## V 今後の課題

### 1 必要に応じたサービスを「選べる」、「決められる」条件の整備

- ・調査結果では、各種サービス利用の満足度は必ずしも低くはないが、障害によって利用できるサービスの内容や提供体制の整備の遅れもあり、現実的にはサービス選択の余地は少ないという指摘もある。
- ・今後は、障害者の自立状況に対応したサービスが提供され、また、サービス利用者が主体的に選択・決定できるよう、利用できるサービスの拡大とともに、必要な情報提供や助言等を行う相談窓口の充実や利用頻度や利用するメニューの調整を図る計画相談支援や障害児相談支援の量の確保及び質の向上が重要である。

### 2 日中活動の場の拡充と制度の狭間にいる障害者への支援

- ・日中活動の場に対するニーズが非常に高く、福祉サービス（法定、法定外ともに）の充実以外に、健康づくりや生涯学習などにおいても、障害者が参加しやすい環境を整備するなどの対応を進め、障害者の社会参加を促進する必要がある。
- ・一方で、現在サービスに繋がっていない人や制度の狭間に落ちてしまっている障害者もいることから、そのような障害者に対する支援方法やサービスの提供、制度の枠を超えた支援が必要だと言える。

### 3 安心できる生活環境の確保、地域生活への移行が可能となる地域づくり

- ・調査結果は、暮らしを取り巻く環境について、生活に困らないだけの収入があることや災害時の情報収集や避難などの対策を重要視する一方で満足度が低く、課題となっていることを示している。また、医療やリハビリの充実についても、求める声が多くなっている。
- ・また、道路や建物のバリアフリーなどの物理的な障壁とともに、社会の仕組みなどの制度的障壁や、障害に対する偏見や誤解などの心理的障壁について、課題とする声は大きくなっている。
- ・障害のある人が地域生活を続けられるように、また、入所・入院している人が地域生活に移行できるように、必要な居住の場を充実したものとするとともに、地域移行支援や地域定着支援の活用、身近な自立訓練事業等の実施が必要である。
- ・あわせて、特に精神障害のある人にとっては、地域において安心して心を開ける人間関係が確立されていないケースが多く、必ずしも「住みなれた地域、住みやすい地域」とはなっていない。精神障害のみならず、障害のある人を特別視せず、社会の一員として自然に受け入れる地域づくりが重要であり、障害への理解を醸成するため、子どもの頃からの福祉教育や体験などの市民意識づくり、日常的な近所付き合いの醸成など、施設やサービス面以外で取り組むべき課題は多いといえる。
- ・特に、調査結果からは、障害者を支援する活動の経験のある人ほど、障害者福祉への関心が高く、活動への参加意欲が高い傾向があることから、具体的な活動への参加を積極的に促したり、結びつけたりすることが、将来的な福祉人材の確保に向けても極めて重要である。

### 4 関係機関との連携による就労支援の仕組みづくり

- ・障害のある人の自立にとって、就労は大きな目標であり、将来の希望となっている。就労支援事業等の推進により、一般就労への移行が進められるとともに、福祉施設における就労機会の拡大が図られることとなった。今後、障害のある人が就労したり、働き続けていく上で、助言や相談を行う機関の存在や関係機関による連携はこれまで以上に重要なものになるといえる。

# 調査票



# 障害のある方々の暮らしと福祉についての意識調査

障害福祉の計画づくりのためのアンケート調査です。ぜひ、ご協力ください。

日ごろから、市民の皆様には福祉行政に多大なご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、市川市では、「市川市障害者計画基本計画」及び「第2次いちかわハートフルプラン【市川市障害者計画（第3次実施計画）・第4期市川市障害福祉計画】」に基づき、障害者の福祉向上のための施策・事業を推進してまいりましたが、このたび、両計画の終期が近づいていること、また、障害者施策に関する様々な法改正があり、障害福祉サービスのあり方が大きく変化したことから、障害福祉に関わる新たな計画が必要となりました。

このアンケート調査は、新たな計画に、市民の皆様のご意見を反映するために実施するもので、身体障害者手帳を持つ市民1,500人、療育手帳を持つ市民500人、精神障害者保健福祉手帳を持つ市民500人、手帳を持たない市民500人をコンピューター処理により無作為に選び、ご協力をお願いするものです。

調査は無記名であり、回答結果は統計的に処理されますので、あなた個人が特定されることはありません。また、調査結果は調査の目的以外に利用されることはありませんので、調査の趣旨をご理解のうえ、ぜひ、ご協力くださいますよう、お願いいたします。

平成28年8月

市川市

## ご記入にあたって

- この調査票は、手帳を持っておられる、あてなのご本人のお考えや暮らしぶりをお聞きするものです。もし、ご本人がご記入できない場合は、どなたかがご本人のご意見を聞いて、または、ご本人の立場にたってお答えくださいますよう、お願いします。
- この調査票は、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を持つ方々を対象に、共通の内容で作成しています。そのため、手帳の種類によっては、選択肢のなかにあてはまらない内容が含まれている場合があることをご了承ください。

### 【視覚障害のある方々、視覚障害のある方を介助なさっている方へ】

この調査票については、点字や録音での回答が困難であるため、誠に申し訳ありませんが、点字版や録音版をご用意しておりません。記入にあたりましては、日ごろ、介助なさっている方のご協力をいただきますよう、お願いいたします。また、ご記入が困難な場合は、下記の問い合わせにご連絡いただければ、調査員が聞き取りに伺いますので、遠慮なくお申し出ください。

- それぞれの問について、あてはまる番号を○で囲んでください。「その他」を選ばれたときは、( )内にその内容を具体的にお書きください。
- 回答に要する時間は、概ね30分程度になります。
- ご記入が済んだ調査票は、同封の返信用封筒（切手、記名は不要）に入れて、

**9月2日(金)までに**ご投函ください。

■ご不明な点などありましたら、下記までお問い合わせください。

**市川市 福祉部 障害者支援課 障害者地域生活支援センター**

**電話：047-370-1871 ファックス：047-370-1872**

## 1 まず、記入者についてお聞きします

問1 調査票にお答えになる方はどなたですか（○は1つ）。

1. あてなのご本人が記入
2. あてなのご本人の意見を確認しながら、家族や介助者が記入
3. あてなのご本人の立場にたって考えながら、家族や介助者が記入

## 2 あなたやご家族のことについておたずねします

問2. あなたの性別と年齢は。

①性別は（○は1つ）

1. 男性
2. 女性

②今年の4月1日では、満何歳でしたか（○は1つ）

- |           |           |            |
|-----------|-----------|------------|
| 1. 0～5歳   | 5. 18～19歳 | 9. 50～59歳  |
| 2. 6～11歳  | 6. 20～29歳 | 10. 60～64歳 |
| 3. 12～14歳 | 7. 30～39歳 | 11. 65～74歳 |
| 4. 15～17歳 | 8. 40～49歳 | 12. 75歳以上  |

問3. あなたのお住まいの地域は。（○は1つ）

1. 国府台地区（国府台）
2. 国分地区（北国分・中国分・堀之内・稲越町・東国分・国分）
3. 曾谷地区（曾谷）
4. 大柏地区（大町・大野町・南大野・柏井町・奉免町）
5. 宮久保・下貝塚地区（宮久保・下貝塚）
6. 市川第一地区（市川・市川南3～4丁目・真間1丁目）
7. 市川第二地区（市川南1・2・5丁目・新田・平田・大洲・大和田・稲荷木・東大和田）
8. 真間地区（真間2～5丁目）
9. 菅野・須和田地区（菅野・須和田・東菅野）
10. 八幡地区（八幡・南八幡）
11. 市川東部地区（北方町・本北方・若宮・北方・中山・鬼越・高石神・鬼高）
12. 信篤・二俣地区（田尻・高谷・原木・二俣・上妙典・二俣新町・高谷新町・東浜）
13. 行徳地区（河原・妙典・下妙典・下新宿・本行徳・本塩・関ヶ島・伊勢宿・富浜・末広・塩焼・宝・幸・加藤新田・高浜町・千鳥町）
14. 南行徳第一地区（押切・湊・湊新田・香取・欠真間・相之川・広尾・新井・南行徳・島尻）
15. 南行徳第二地区（行徳駅前・入船・日之出・福栄・新浜・塩浜）

問4. あなたと同居している方は。

(○はあてはまるものすべて)

1. 自分ひとり
2. 配偶者 (あなたの妻または夫)
3. 父母 (配偶者の父母を含む)
4. 子
5. 子の配偶者
6. 兄弟姉妹
7. その他の親族
8. 友人や仲間との共同生活
9. 入所施設、グループホーム、生活ホーム、病院等
10. その他 ( )

問5. 一緒に住んでいる方のうち、あなた (ご本人) 以外の同居ご家族に、介助が必要な高齢者・障害者・病人等はいますか。(○は1つ)

1. いる
2. いない

問6. (40歳以上の方にお聞きします) あなたは介護保険制度による要介護認定を受けていますか。(○は1つ)

- |                |         |
|----------------|---------|
| 1. 受けていない      | 6. 要介護2 |
| 2. 受けたが「自立」と認定 | 7. 要介護3 |
| 3. 要支援1        | 8. 要介護4 |
| 4. 要支援2        | 9. 要介護5 |
| 5. 要介護1        |         |

問7. あなた (ご本人) のお持ちの手帳は、つぎのどれでしょうか。

(1)身体障害者手帳は。(○は1つ)

- |           |       |       |
|-----------|-------|-------|
| 1. 持っていない | 4. 3級 | 7. 6級 |
| 2. 1級     | 5. 4級 |       |
| 3. 2級     | 6. 5級 |       |

(2)療育手帳は。(○は1つ)

- |           |        |
|-----------|--------|
| 1. 持っていない | 4. Aの1 |
| 2. A      | 5. Aの2 |
| 3. Aの1    | 6. Bの1 |
| 3. Aの2    | 6. Bの2 |

(3)精神障害者保健福祉手帳は。(○は1つ)

- |           |       |
|-----------|-------|
| 1. 持っていない | 3. 2級 |
| 2. 1級     | 4. 3級 |

問8. あなたの障害についてお聞きします。

(1)どのような障害がありますか。あなたの生活にもっとも影響のあるものを選んでください。  
(○は1つ)

- |   |            |
|---|------------|
| 1. 視覚障害                                   | 6. 知的障害    |
| 2. 聴覚障害・平衡機能の障害                           | 7. 精神障害    |
| 3. 音声・言語、そしゃく機能の障害                        | 8. 発達障害    |
| 4. 肢体不自由(上肢・下肢・体幹・移動機能の障害)                | 9. 高次脳機能障害 |
| 5. 内部障害(心臓・じん臓・呼吸器・ぼうこう・直腸・小腸・肝臓・免疫機能の障害) | 10. 難病     |
|   | 11. その他( ) |

(2)前の質問(1)で選んだ障害が生じたのは何歳のときですか。(○は1つ)

- |               |           |
|---------------|-----------|
| 1. 0歳(出生前を含む) | 7. 50～59歳 |
| 2. 1～9歳       | 8. 60～64歳 |
| 3. 10～19歳     | 9. 65～74歳 |
| 4. 20～29歳     | 10. 75歳以上 |
| 5. 30～39歳     | 11. わからない |
| 6. 40～49歳     |           |

### 3 健康について

問9. この1か月程度の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

1. よい
2. どちらかというときよい
3. どちらかというとき悪い
4. 悪い

問10. あなたは現在、病院にかかっていますか(定期健診や検診は含みません)。(○は1つ)

1. 入院している
2. 往診してもらっている
3. 通院している(薬剤のみの処方も含む)
4. 病院にはかかっていない

問 1 1. あなたは、病院や診療所を利用する際に、なにか不便を感じることはありませんか。現在は通院していない方も、過去にどうだったかお答えください。(○はあてはまるものすべて)

1. 病院に行くときに付き添ってくれる人がいない
2. 病院に行くときの交通手段が確保しにくい
3. 専門的な治療を行ってくれる病院が近くにない
4. 病院内の点字案内や音声による案内、手話通訳などが少ない
5. 病院内のバリアフリー化が十分でない
6. 医師や看護師などに話がうまく伝わらない、理解してもらえない
7. 診療室や受付などでの話が外に聞こえてしまう、プライバシーが保てない
8. お金がかかる
9. 時間がかかる
10. その他 ( )
11. 特に困ることはない
12. わからない

#### 4 暮らしを取り巻く環境について

問12. 次の(1)～(20)までのことは、あなたにとってどのくらい重要ですか。それぞれ、「1重要」から「5重要でない」のなかから、あてはまるものを選んでください。(○は1つ)

		重要	とどちらかという	ない	とどちらかという	重要でない	わからない
		1	2	3	4	5	6
社会意識	(1)障害があるからといって、学校や職場で仲間はずれにされたり、無視されたりしないこと	1	2	3	4	5	6
	(2)外で困ったとき、周囲の人が手助けしてくれること	1	2	3	4	5	6
生活支援	(3)困りごとや悩みを、安心して相談できる場所が身近にあること	1	2	3	4	5	6
	(4)身の回りの用事や家事を助けてくれるサービスがいつでも受けられ、もし一人暮らしになっても、不安がないこと	1	2	3	4	5	6
	(5)仕事をしたり、趣味を楽しんだりしながら、同じ障害のある仲間と過ごす場所が身近にあること	1	2	3	4	5	6
生活環境	(6)道路や施設が安全で、外に出かけても事故やけがの心配がないこと	1	2	3	4	5	6
	(7)日ごろから災害に備えた情報が行き届き、もし、災害が発生したときでも、安全に避難できること	1	2	3	4	5	6
	(8)人にだまされたり、泥棒にあたりしないこと	1	2	3	4	5	6
生活基盤	(9)暮らしに困らないだけの収入があること	1	2	3	4	5	6
	(10)安心して暮らし続けられる住まいがあること	1	2	3	4	5	6
教育	(11)自分の障害にあった学校で学べること	1	2	3	4	5	6
	(12)普通学級の子どもたちと一緒に自分にあった教育が受けられること	1	2	3	4	5	6
	(13)高校や大学等で障害に配慮した教育が受けられること	1	2	3	4	5	6
就労	(14)障害のある人に適した様々な職場があり、自分にあった職場を選べること	1	2	3	4	5	6
	(15)同じ仕事の質であれば、障害のある人も、ない人も同じように評価されること	1	2	3	4	5	6
	(16)仕事で必要な技術や知識を学ぶ場があること	1	2	3	4	5	6
保健	(17)費用の心配をせずに、必要な医療を受けられること	1	2	3	4	5	6
	(18)自分にあたりリハビリテーションの機会が身近にあること	1	2	3	4	5	6
情報	(19)いろいろな人とコミュニケーションができること	1	2	3	4	5	6
	(20)まちや建物の案内板やアナウンス、世間のニュースなど、自分に必要な情報を得やすいこと	1	2	3	4	5	6

問13. では、問12でお聞きした項目について、現在、あなたはどの程度満足していますか。  
「1満足」から「5不満」までの5段階でおこたえください。(○は1つ)

		満足	うどち 満 足	えど ち な い	うどち 不 満	不 満	わ か ら な い
		1	2	3	4	5	6
社会 意識	(1)障害があるからといって、学校や職場で仲間はずれにされたり、無視されたりしないこと	1	2	3	4	5	6
	(2)外で困ったとき、周囲の人が手助けしてくれること	1	2	3	4	5	6
生活 支 援	(3)困りごとや悩みを、安心して相談できるところが身近にあること	1	2	3	4	5	6
	(4)身の回りの用事や家事を助けてくれるサービスがいつでも受けられ、もし一人暮らしになっても、不安がないこと	1	2	3	4	5	6
	(5)仕事をしたり、趣味を楽しんだりしながら、同じ障害のある仲間と過ごす場所が身近にあること	1	2	3	4	5	6
生活 環 境	(6)道路や施設が安全で、外に出かけても事故やけがの心配がないこと	1	2	3	4	5	6
	(7)日ごろから災害に備えた情報が行き届き、もし、災害が発生したときでも、安全に避難できること	1	2	3	4	5	6
	(8)人にだまされたり、泥棒にあたりしないこと	1	2	3	4	5	6
生活 基 盤	(9)暮らしに困らないだけの収入があること	1	2	3	4	5	6
	(10) 安心して暮らし続けられる住まいがあること	1	2	3	4	5	6
教 育	(11)自分の障害にあった学校で学べること	1	2	3	4	5	6
	(12)普通学級の子どもたちと一緒に自分にあった教育が受けられること	1	2	3	4	5	6
	(13)高校や大学等で障害に配慮した教育が受けられること	1	2	3	4	5	6
就 労	(14)障害のある人に適した様々な職場があり、自分にあった職場を選べること	1	2	3	4	5	6
	(15)同じ仕事の質であれば、障害のある人も、ない人も同じように評価されること	1	2	3	4	5	6
	(16)仕事で必要な技術や知識を学ぶ場があること	1	2	3	4	5	6
保 健	(17)費用の心配をせずに、必要な医療を受けられること	1	2	3	4	5	6
	(18)自分にあたりリハビリテーションの機会が身近にあること	1	2	3	4	5	6
情 報	(19)いろいろな人とコミュニケーションができること	1	2	3	4	5	6
	(20)まちや建物の案内板やアナウンス、世間のニュースなど、自分に必要な情報を得やすいこと	1	2	3	4	5	6

## 5 暮らしの場や家計について

問14. あなた（ご本人）が現在暮らしているのは、つぎのどれにあてはまりますか。（○は1つ）

1. 持ち家（マンションを含む）
2. 民間の賃貸住宅
3. 市営・県営、公社・公団の賃貸住宅
4. 社宅・寮・官舎
5. グループホーム（生活ホーム、ふれあいホーム等も含む）

付問14-1、2も  
お答えください

6. 入所施設に入所中
7. 病院に入院中
8. その他（                      ）

問15に進んでください

付問14-1.（問14で1～5を選んだ方にお聞きします）現在のお住まいで、障害にあわせて暮らしやすいように住まいを改造したところがありますか。（○はあてはまるものすべて）

- |        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 1. 玄関  | 5. 階段                          |
| 2. 風呂  | 6. 廊下                          |
| 3. トイレ | 7. その他（                      ） |
| 4. 台所  | 8. 改造していない                     |

付問14-2.（問14で1～5を選んだ方にお聞きします）現在のお住まいで、障害にあわせてくらしやすいよう、これから改造したいところがありますか。（○はあてはまるものすべて）

- |        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 1. 玄関  | 5. 階段                          |
| 2. 風呂  | 6. 廊下                          |
| 3. トイレ | 7. その他（                      ） |
| 4. 台所  | 8. 改造したいところはない                 |

問15. （再びすべての方にお聞きします）あなたのお宅の生活費をどのようにまかなっていますか。（○は1つ）

1. すべてあなたの収入でまかなっている
2. あなたの収入がほとんどで、一部、家族の収入でおぎなっている
3. 家族の収入がほとんどで、一部、あなたの収入でおぎなっている
4. すべて家族の収入でまかなっている
5. その他（                      ）

問16. あなた自身の収入源はどのようなものですか。また、そのなかでもっとも金額の多いものはどれですか。

	(1)収入源は (○はあてはまるもの すべて)	(2)もっとも金額の 多いものは (○は1つ)
1. 給料など仕事で得る収入	1	1
2. 障害年金・障害基礎年金	2	2
3. 障害年金・障害基礎年金以外の年金	3	3
4. 福祉手当などの手当	4	4
5. 生活保護	5	5
6. 家族からの仕送り	6	6
7. その他 ( )	7	7
8. 特にない	8	

## 6 介助について

問17. 日常生活の状況は、次のどれにあてはまりますか。(1)~(9)についてそれぞれお答えください。(○は1つ)

	一人で できる  1	時間はかかる が、一人で できる  2	一部、介助や 見守りが必要  3	全部、介助や 見守りが必要  4	体調によっ て、一人で できたり、できな かったりする  5
(1)食事	1	2	3	4	5
(2)トイレ	1	2	3	4	5
(3)入浴	1	2	3	4	5
(4)着替え	1	2	3	4	5
(5)家の中の移動	1	2	3	4	5
(6)炊事・洗濯・掃除などの家事	1	2	3	4	5
(7)日用品の買い物	1	2	3	4	5
(8)お金の管理	1	2	3	4	5
(9)コミュニケーション	1	2	3	4	5



## 7 外出について

問20. ふだん、あなたは1週間に何日ぐらい外出しますか。(○は1つ)

1. ほとんど毎日
2. 週に3、4日
3. 週に1、2日

付問20-1、2も  
お答えください

4. あまり外出しない
5. まったく外出しない

付問20-3もお答えください

付問20-1. (問20で1~3を選んだ方にお聞きします) どのような用事や目的で外出することが多いですか。(○は4つまで)

1. 仕事
2. 施設通所・施設の利用
3. 病院への通院
4. 通学・通園
5. 役所や銀行、郵便局などへの用事
6. 買い物
7. 散歩
8. 食事
9. 趣味・遊び・スポーツ
10. サークル活動・グループ活動
11. 友人とのつきあい
12. 旅行
13. その他 ( )

付問20-2. (問20で1~3を選んだ方にお聞きします) あなたが外出したとき、何か困ることがありますか。(○はあてはまるものすべて)

1. 道路や階段が不便・危険である
2. 電車やバスが利用しにくい
3. 障害者用のトイレが少ない
4. お店やレストランが利用しにくい
5. 家族以外の介助者が確保できない
6. 人との会話などコミュニケーションがむずかしい
7. 人の目が気にかかる
8. その他 ( )
9. 特にない

付問20-3. (問20で4~5を選んだ方にお聞きします) あなたがあまり外出しない、まったく外出しない理由は何でしょうか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 障害が重いから
2. 付き添ってくれる人がいないから
3. 出かけなくてはならない用事や目的がないから
4. 電車やバス、道路や建物などが使いにくく危険だから
5. 人ごみがきらいだから
6. 人目が気になって仕方がないから
7. 出かけると迷うことがあるから
8. その他 ( )
9. 特に理由はない

## 8 サービス利用の現況と今後の希望について

問2 1. あなたは現在、つぎの障害福祉サービスや施設を利用していますか。利用している場合は、満足度もお答えください。また、今後、引き続き利用したい、あるいは新たに利用してみたいものはありますか。

サービス項目		(1)利用していますか (※①～⑰の項目ごとに○は1つ)						(2)今後、引き続き(あるいは新たに)利用したいものはありますか (○はあてはまるものすべて)
		利用していない	利用している (満足度を選んでください)					
			満足	やや満足	普通	やや不満	不満	
		1	2	3	4	5	6	7
訪問	(1)居宅介護(身体介護)	1	2	3	4	5	6	7
	(2)居宅介護(家事援助)	1	2	3	4	5	6	7
	(3)居宅介護(移動介護)	1	2	3	4	5	6	7
	(4)重度訪問介護	1	2	3	4	5	6	7
	(5)同行援護	1	2	3	4	5	6	7
	(6)行動援護	1	2	3	4	5	6	7
日中活動	(7)生活介護	1	2	3	4	5	6	7
	(8)自立訓練(機能訓練)	1	2	3	4	5	6	7
	(9)自立訓練(生活訓練)	1	2	3	4	5	6	7
	(10)就労移行支援	1	2	3	4	5	6	7
	(11)就労継続支援A型	1	2	3	4	5	6	7
	(12)就労継続支援B型	1	2	3	4	5	6	7
	(13)療養介護	1	2	3	4	5	6	7
	(14)短期入所(ショートステイ)	1	2	3	4	5	6	7
	(15)地域活動支援センター	1	2	3	4	5	6	7
居住	(16)共同生活援助(グループホーム) (生活ホーム、ふれあいホーム等を含む)	1	2	3	4	5	6	7
	(17)入所施設	1	2	3	4	5	6	7
相談支援	(18)計画相談支援・障害児相談支援	1	2	3	4	5	6	7
	(19)地域移行支援・地域移行支援	1	2	3	4	5	6	7



問23. (問22で1~2を選んだ方にお聞きします) あなたの通園・通学先は次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

- |                       |                  |
|-----------------------|------------------|
| 1. まだ通園・通学の年齢に達していない  | 問26に進んでください      |
| 2. 保育園、幼稚園、通園施設       | 付問23-1、2もお答えください |
| 3. 特別支援学校・盲学校・ろう学校    |                  |
| 4. 小・中学校 (特別な支援のある学級) |                  |
| 5. 小・中学校              |                  |
| 6. 高等学校               |                  |
| 7. 大学、専門学校 (職業訓練校も含む) | 問26に進んでください      |
| 8. その他 ( )            |                  |

付問23-1. (問23で2~7を選んだ方にお聞きします) あなたが通っている学校などをもっとよくするためにはどうしたらよいと思いますか。(○はあてはまるものすべて)

1. 授業を受けやすくなるよう、施設や設備を充実する
2. 将来の仕事に役立つ技術をもっと学べるようにする
3. 手話や点字、パソコンなどコミュニケーション技術をもっと学べるようにする
4. 障害のない人といっしょに勉強できるようにする
5. クラブやサークル、部活動を活発にする
6. 地域の人や同じぐらゐの年代の人との交流機会を増やす
7. 就職のための指導や相談を充実する
8. その他 ( )
9. わからない
10. 特にない

付問23-2. (問23で2~7を選んだ方にお聞きします) 5年後の進路について、あなたはどのように希望していますか。(○は1つ)

- |                                       |             |
|---------------------------------------|-------------|
| 1. 今の保育園、幼稚園を卒園後、小・中学校の普通学級に進みたい      | 問26に進んでください |
| 2. 今の保育園、幼稚園を卒園後、特別な支援のある学級に進みたい      |             |
| 3. 今の保育園、幼稚園を卒園後、特別支援学校・盲学校・ろう学校に進みたい |             |
| 4. 今の学校を卒業後、さらに上級の学校、専門学校などに進みたい      |             |
| 5. 今の学校を卒業後、会社や役所などに就職したい             |             |
| 6. 今の学校を卒業後、家業を手伝いたい                  |             |
| 7. 今の学校を卒業後、福祉施設に通いたい                 |             |
| 8. 今の学校を卒業後、自宅で過ごしたい                  |             |
| 9. その他 ( )                            |             |
| 10. 特に考えていない                          |             |



(4)全体として、現在の仕事先に満足していますか。(○は1つ)

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1. 満足している    | 問26に進んでください |
| 2. 満足していない   | 問25に進んでください |
| 3. どちらともいえない | 問26に進んでください |
| 4. わからない     |             |

問25.(問22で7~10を選んだ方と、問24(4)で2を選んだ方にお聞きします)あなたは今後、機会があれば働きたい、あるいは転職したいと思いますか。(○は1つ)

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| 1. 思う        | 付問25-1、2もお答えください |
| 2. 思わない      | 付問25-3もお答えください   |
| 3. どちらともいえない | 問26へ進んでください      |
| 4. わからない     |                  |

付問25-1.(問25で1を選んだ方にお聞きします)どのような働き方を希望しますか。(○は1つ)

- |                   |              |
|-------------------|--------------|
| 1. 正社員・正職員        | 5. 福祉施設で働きたい |
| 2. 臨時社員やパート、アルバイト | 6. その他( )    |
| 3. 家業にたずさわる       | 7. わからない     |
| 4. 自分で会社をおこして働きたい |              |

付問25-2.(問25で1を選んだ方にお聞きします)将来、仕事を選ぶときに、あなたにとって重要な条件はありますか。(○は2つまで)

- |                         |             |
|-------------------------|-------------|
| 1. 自宅から近いこと             | 問26に進んでください |
| 2. 自分の特技、経験が活かせること      |             |
| 3. 勤務時間が長くないこと          |             |
| 4. 休暇がとしやすいこと           |             |
| 5. 同じ障害のある仲間と一緒に働けること   |             |
| 6. 障害があるからといって特別視されないこと |             |
| 7. 経済的に自立できる収入であること     |             |
| 8. その他( )               |             |
| 9. 特にない                 |             |
| 10. わからない               |             |

付問25-3. (問25で2を選んだ方にお聞きします) 働きたいと思わない理由は何でしょうか。(〇は2つまで)

1. 通勤が大変だから
2. 職場を探すのが大変だから
3. 福祉施設が近くにないから
4. 収入が低いだろうから
5. 自分に向けた仕事がないだろうから
6. 対人関係がうまくいかないだろうから
7. 家事・育児などとの両立が大変だろうから
8. 高齢だから
9. 働く自信がないから
10. その他 ( )

問26に進んでください

## 10 余暇活動、地域活動について

問26. あなたは、仕事や学校などの用事のない自由時間をどのように過ごしていますか。また、今後も続けたいこと、新しくやってみたいことはどれですか。

	(1) 現在やっていることは何ですか  (〇はあてはまるものすべて)	(2) 今後も続けたいこと、新しくやりたいことはありますか  (〇はあてはまるものすべて)
1. テレビやビデオ、音楽鑑賞など	1	1
2. 読書(新聞や雑誌、本などを読む)	2	2
3. パソコン	3	3
4. 趣味(料理や囲碁・将棋、手芸、絵画、創作など)	4	4
5. 友人や知人、家族とのだんらん	5	5
6. スポーツ・レクリエーション	6	6
7. 地域活動やボランティア活動、障害者団体等の活動	7	7
8. 買い物・ショッピング、外食	8	8
9. 興味のあることの学習	9	9
10. 映画やコンサート、演劇、美術館	10	10
11. 旅行やドライブ	11	11
12. その他 ( )	12	12
13. 特にこれとってない	13	13

問27. あなたの近所づきあいの状況をおたずねします。

(1)現在の近所づきあいは次のどれに近いですか。(○は1つ)

1. 日常親しく付き合っている
2. ときどき世間話をする
3. あいさつを交わす程度
4. ほとんど付き合いはない

(2)今後は、どのようにしたいですか。(○は1つ)

1. 日常親しく付き合いたい
2. ときどき世間話をするようにしたい
3. あいさつを交わす程度にしたい
4. ほとんど付き合いはなくてよい

## 11 これからの障害福祉について

問28. あなたはこれまで、障害があるためにあきらめたり、しかたなくがまんしたりしたことがありますか。(○はあてはまるものすべて)

1. 進学
2. 仕事や就職
3. 異性との付き合い
4. 結婚
5. 子育て
6. 泊りがけの旅行
7. ひとりでの外出
8. 友人との付き合い
9. スポーツ
10. 趣味、文化活動
11. その他 ( )
12. 特にない
13. わからない

問29 あなたはこれまで、自分の権利がうばわれたり、損なわれたりした経験がありますか。

(○はあてはまるものすべて)

1. 障害を理由に、住まいが借りられなかった
2. 障害を理由に、入学を断られたり、学校をやめて欲しいと言われた
3. 障害を理由に、入社を断られたり、会社をやめて欲しいと言われた
4. 障害を理由に、いじめや差別にあった
5. 自分の財産や持ち物を知らないうちに処分されたり、使われたりした
6. 自分あての手紙や自分の日記などを見られたり、調べられたりした
7. 自分の望まない治療や訓練、施設への入所などを強制された
8. その他 ( )
9. 特にない

問30 あなたの権利がうばわれたり、損なわれたりしないようにするために、どのような手助けや取り組みがあるとよいと思いますか。(○は3つまで)

1. ちょっとした困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口
2. 弁護士など法律の専門家や法律上の問題をあつかう相談窓口
3. 自分の代わりに交渉ごとや財産等の管理をしてくれるサービス
4. 障害者の権利がそこなわれたときの苦情を受けつけ、必要におうじて調査や指導などを行う制度(第三者評価制度)
5. 障害者の権利について、障害者自身が学ぶ機会を増やすこと
6. 障害者の権利についての社会の意識を高めること
7. その他 ( )
8. 特にない
9. わからない

問31 あなたはこれからどのように暮らしたいですか。(○はあてはまるものすべて)

1. 今の家族と暮らしたい
2. 結婚して自分の家庭を持ちたい
3. 一人で暮らしたい
4. グループホーム※等で暮らしたい
5. 福祉施設に入所したい
6. その他 ( )
7. わからない

※グループホームとは、数人が共同の住まいで世話人の援助を受けながら暮らす住居のことで、そこから就労や日中活動の場に通う人もいます。

問32. あなたはこれから、どのような活動に取り組んでいきたいですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 家事や身の回りのことをなるべく一人でできるようにしたい
2. 体の動きや働きを高めたり、健康づくりをしたい
3. 仕事をしたい
4. 収入を増やしたい
5. 住まいを使いやすくしたい
6. 必要な介助を受けながら、自立した生活をしたい
7. 趣味や文化活動など、自分の好きなことを習ったり、楽しんだりしたい
8. 地域や職場、学校などを通じて友人を増やしたい
9. グループ活動などへの参加により、社会とのつながりを強めたい
10. その他 ( )
11. わからない

問33. あなたは、障害のある人もない人も、自立して共に社会に参加し、自分らしく生きることのできる社会とするために、特に何が重要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 障害者を手助けする人を育てる
2. 障害者が参加しやすい地域の催しを増やしたり、地域団体の活動を活発にする
3. 障害児者の学校教育をよくする
4. 障害者の働く場を増やす
5. 障害者への手当を増やす
6. 障害者の健康づくりやリハビリテーションの機会を増やす
7. 障害者の医療の内容を高めたり、受診しやすくする
8. 福祉サービスの情報をもっとわかりやすく伝える
9. 本人や家族の心配事、悩みなどを安心して相談できるところを増やす
10. 障害者が暮らしやすい住まいを増やす
11. 家族など、介助している人を助けるサービスをよくする
12. 施設や建物、交通のバリアフリー化を進める
13. 障害、障害者に対する市民の理解を深める
14. 障害のない子どもたちが障害者について学んだり、触れ合う機会を増やす
15. 障害者の権利に対する社会の理解を深めたり、権利を守る仕組みをよくする
16. その他 ( )
17. わからない

質問は以上です。最後に、生活していて不便や不安を感じる問題や、市川市の障害福祉についてのご意見などがありましたら、以下の欄にご自由にお書きください。

長時間にわたるご協力、ありがとうございました。

ご記入のおわった質問票は、同封の返信用封筒に入れ、**9月2日（金）まで**にご投函ください。

# 暮らしと福祉についての意識調査

障害福祉の計画づくりのためのアンケート調査です。ぜひ、ご協力ください。

日ごろから、市民の皆様には福祉行政に多大なご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、市川市では、「市川市障害者計画基本計画」及び「第2次いちかわハートフルプラン【市川市障害者計画（第3次実施計画）・第4期市川市障害福祉計画】」に基づき、障害者の福祉向上のための施策・事業を推進してまいりましたが、このたび、この計画の終期が近づいていること、また、障害者施策に関する様々な法改正があり、障害福祉サービスのあり方が大きく変化したことから、障害福祉に関わる新たな計画が必要となりました。

このアンケート調査は、新たな計画に、市民の皆様のご意見を反映するために実施するもので、身体障害者手帳を持つ市民1,500人、療育手帳を持つ市民500人、精神障害者保健福祉手帳を持つ市民500人、手帳を持たない市民500人をコンピューター処理により無作為に選び、ご協力をお願いするものです。

調査は無記名であり、回答結果は統計的に処理されますので、あなた個人が特定されることはありません。また、調査結果は調査の目的以外に利用されることはありませんので、調査の趣旨をご理解のうえ、ぜひ、ご協力くださいますよう、お願いいたします。

平成28年8月

市川市

## ご記入にあたって

- この調査票は、身体障害者手帳などをお持ちでない16歳以上の市民を対象とするものです。
- 宛名のご本人がお答えください。
- それぞれの問について、あてはまる番号を○で囲んでください。「その他」を選ばれたときは、( ) 内にその内容を具体的にお書きください。
- 設問によっては、一部の方にお聞きするものがありますので、問の→(矢印) などにしたがって、ご回答ください。
- 回答に要する時間は、概ね20分程度になります。
- ご記入が済んだ調査票は、同封の返信用封筒(切手、記名は不要)に入れて、

**9月2日(金)までに**ご投函ください。

■ご不明な点などありましたら、下記までお問い合わせください。

**市川市 福祉部 障害者支援課 障害者地域生活支援センター**

**電話：047-370-1871 ファックス：047-370-1872**



問3. あなたと同居している方は。

(○はあてはまるものすべて)

1. 自分ひとり
2. 配偶者 (妻または夫)
3. 父母 (配偶者の父母を含む)
4. 子
5. 子の配偶者
6. 兄弟姉妹
7. その他の親族
8. 友人や仲間との共同生活
9. その他 ( )

問4. あなたのご職業は。(○は1つ)

1. 常勤就労
2. 非常勤就労 (パートタイム・アルバイト・内職)
3. 自営業
4. 家事専従
5. 生徒・学生
6. 無職
7. その他 ( )

## 2 健康・福祉に対するご関心についてお聞きします

問5. (40歳以上の方におたずねします) あなたは介護保険制度による要介護認定を受けていますか。(○は1つ)

- |                |         |
|----------------|---------|
| 1. 受けていない      | 5. 要介護2 |
| 2. 受けたが「自立」と認定 | 6. 要介護3 |
| 3. 要支援1        | 7. 要介護4 |
| 4. 要支援2        | 8. 要介護5 |
| 5. 要介護1        |         |

問6. あなたを含めた同居ご家族に、介護の必要な方はおられますか。(○は1つ)

1. いる
2. いない



### 3 日常生活における障害者との関わりについてお聞きします

問10. 次にあげた言葉のうち、あなたが知っているものはどれですか。(○はあてはまるものすべて)

- |               |                          |
|---------------|--------------------------|
| 1. ノーマライゼーション | 9. 障害者差別解消法              |
| 2. バリアフリー     | 10. 身体障害者手帳              |
| 3. ユニバーサルデザイン | 11. 療育手帳                 |
| 4. インクルージョン   | 12. 精神障害者保健福祉手帳          |
| 5. 障害者基本法     | 13. 市川市障害者就労支援センター（アクセス） |
| 6. 障害者総合支援法   | 14. 県立市川特別支援学校           |
| 7. 障害者権利条約    | 15. 市立須和田の丘支援学校          |
| 8. 障害者虐待防止法   | 16. 知っているものはない           |

問11. あなたは日常生活で、なんらかの障害のある方とのかかわりがありますか。また、あなたとはどのような間柄ですか。障害者別にお答えください。

	(1) 身体障害者の方とは	(2) 知的障害者の方とは	(3) 精神障害者の方とは
1. 障害者の健康・福祉に関わる仕事をしているのでかかわりがある	1	1	1
2. 自分が参加しているボランティア活動でかかわりがある	2	2	2
3. 身内である	3	3	3
4. クラスや部活、サークルの仲間や先生である	4	4	4
5. 職場の仲間や取引先の担当者である	5	5	5
6. 近所づきあいをしている	6	6	6
7. その他のかかわりがある	7	7	7
8. 特にかかわりはない	8	8	8

問12. あなたは、何か困っている障害者を見かけた時、手助けをしますか。(○は1つ)。

1. なるべく積極的に声をかけ、手助けしている
2. 求められれば手助けをしている
3. したいと思っているが、いつもためらってしまう
4. 心がけているが、これまで機会がない
5. その他 ( )
6. 特になにもしない

#### 4 余暇活動や障害者を支援する活動についてお聞きします。

問13. あなたは、仕事や学校などの用事のない自由時間を、普段、どのように過ごしていますか。また、今後も続けたいこと、新しくやってみたいことはどれですか。

	(1) 現在やっていること  (○はあてはまるものすべて)	(2) 今後も続けたいこと、 新しくやりたいこと  (○はあてはまるものすべて)
1. テレビやビデオ、音楽鑑賞など	1	1
2. 読書（新聞や雑誌、本などを読む）	2	2
3. パソコン	3	3
4. 趣味（料理や囲碁・将棋、手芸、絵画、創作など）	4	4
5. 友人や知人、家族とのだんらん	5	5
6. スポーツ・レクリエーション	6	6
7. 地域活動やボランティア活動、障害者団体等の活動	7	7
8. 買い物・ショッピング、外食	8	8
9. 興味のあることの学習	9	9
10. 映画やコンサート、演劇、美術館	10	10
11. 旅行やドライブ	11	11
12. その他（ ）	12	12
13. 特にこれとってない	13	13

問14. あなたはこれまで、障害者を支援する次のような活動に参加したことはありますか。(○はあてはまるものすべて)。

1. 福祉施設等での演奏会やその他の催しに出演したり、協力したりする	付問14-1も お答えください
2. 障害者のレクリエーションや交流活動に参加する	
3. 福祉施設での介助の手伝いや施設の清掃などをする	
4. 在宅障害者の介助、買物の付き添い、代行や自動車の運転など生活を 手助けする	
5. 手話通訳、点訳、要約筆記、録音テープの吹き込みなどをする	
6. 福祉施設の製品や障害者の働く店を積極的に利用する	
7. 募金活動を呼びかけたり、募金、寄付に協力する	
8. その他（ ）	問15に進んで ください
9. 特にない	

付問14-1. (問14で1~7を選んだ方にお聞きします) あなたはその活動に、どのよ

うな形で参加しましたか。(○はあてはまるものすべて)

1. 通っている学校の授業や部活、クラブ活動を通じて
2. 職場の研修や社会貢献活動を通じて
3. 労働組合や同業者団体、所属する商店街・商店会などの活動を通じて
4. 所属している地域のサークル・ボランティア団体、自治会等の活動を通じて
5. ボランティア登録制度を通じて
6. 個人的に頼まれて
7. その他 ( )

問15. (再びすべての方にお聞きします) 障害者を支援する活動を活発にするためには、どのようなことが必要だとお考えですか。(○は2つまで)

1. 支援を求める側と、支援をしたい・できる側とを結びつける仕組みを充実する
2. 子どものころからのボランティア教育や体験学習を推進する
3. 支援活動を行っている団体やNPO、企業、学校を表彰するなど、貢献をたたえる
4. 障害福祉の活動を行うボランティア団体やNPOに対する支援を充実する
5. 障害者や障害福祉についての広報・情報提供を充実するなど、社会的気運を高める
6. 隣近所でのコミュニケーションを深め、気軽に助け合えるようにする
7. その他 ( )
8. 特に活発にする必要はない
9. わからない

問16. あなたは、今後、障害者を支援する何らかの活動に協力したいと思いますか。また、どのような活動に参加したいですか。(○はあてはまるものすべて)。

1. 福祉施設で介助の手助けをするなどのボランティア活動
2. 在宅の障害者の手助けするボランティア活動
3. 障害者のレクリエーションや交流活動に参加する
4. 手話通訳、点訳、要約筆記、録音テープの吹き込みなど、特技を生かした活動
5. 福祉施設の製品や障害者の働く店を積極的に利用する
6. 募金活動を呼びかけたり、募金、寄付に協力する
7. 困っている人を見かけたら、なるべく手助けをする
8. その他 ( )
9. 特に協力したいと思わない
10. わからない



## 6 これからの障害福祉についてお聞きします

問19. 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」いわゆる「障害者差別解消法」（すべての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指した法律）が平成28年4月に施行されましたが、この法律をご存じですか。（○は1つ）

1. 聞いたことがあり、内容も知っている
2. 聞いたことはあるが、内容は知らなかった
3. 聞いたことがない

問20. あなたの身の回りでは、「差別の解消」が実現されていると思いますか。以前（5年ぐらい前）と比較して、どうでしょうか。（○は1つ）

1. 十分実現している
2. まだ十分ではないが、以前（5年ぐらい前）よりはよくなっている
3. 以前（5年ぐらい前）とあまり変わらない
4. 以前（5年ぐらい前）よりも後退している
5. わからない



問23. あなたは、障害のある人もない人も、自立して共に社会に参加し、自分らしく生きる  
ことのできる社会とするために、特に何が重要だと思いますか。(〇はあてはまるものす  
べて)。

1. 障害者を手助けする人を育てる
2. 障害者が参加しやすい地域の催しを増やしたり、地域団体の活動を活発にする
3. 障害児者の学校教育をよくする
4. 障害者の働く場を増やす
5. 障害者への手当を増やす
6. 障害者の健康づくりやリハビリテーションの機会を増やす
7. 障害者の医療の内容を高めたり、受診しやすくする
8. 福祉サービスの情報をもっとわかりやすく伝える
9. 本人や家族の心配事、悩みなどを安心して相談できるところを増やす
10. 障害者が暮らしやすい住まいを増やす
11. 家族など、介助している人を助けるサービスをよくする
12. 施設や建物、交通のバリアフリー化を進める
13. 障害、障害者に対する市民の理解を深める
14. 障害のない子どもたちが障害者について学んだり、触れ合う機会を増やす
15. 障害者の権利に対する社会の理解を深めたり、権利を守る仕組みをよくする
16. その他 ( )
17. わからない

質問は以上です。最後に、市川市の障害者福祉についてのご意見などがありましたら、以下の欄にご自由にお書きください。

長時間にわたるご協力、ありがとうございました。ご記入のおわった質問票は、同封の返信用封筒に入れ、**9月2日(金)まで**にご投函ください。



## 用語解説



## ア行

### 移動支援

地域生活支援事業の一つで、一人で外出するのが困難な障害者等の余暇活動等の社会参加のために、ガイドヘルパーが移動の支援を行うもの。

### インクルージョン

インクルージョンという言葉は、本来「包含、包み込む」ことを意味する。このような意味を持つインクルージョンは、教育及び福祉の領域においては、「障害があっても地域で地域の資源を利用し、市民が包み込んだ共生社会を目指す」という理念として捉えられている。

## カ行

### 計画相談支援

障害福祉サービスの一つで、障害者の利用するサービスの内容等を定めた「サービス等利用計画」の作成を行い、一定期間ごとに見直しを行うもの。

### 欠格条項

公的な資格・免許・許認可を受けるにあたって、事前に排除されるべき条件を規定するもの。

### 共同生活援助

障害福祉サービスの一つで、障害者に対し、主に夜間において、共同生活を行う住居（グループホーム）で、相談や食事提供等の支援、または入浴、排泄又は食事の介護等を行うもの。→グループホーム

### 居宅介護

障害福祉サービスの一つで、居宅での入浴、排泄、食事、家事などの援助、通院の介助等を行うもの。

### グループホーム

障害者総合支援法によって定められた「共同生活援助（障害者に対し、主に夜間において、共同生活を行う住居（グループホーム）で、相談や食事提供等の支援、または入浴、排泄又は食事の介護等を行うもの）」、またはそのサービスを提供する共同住居のこと。→共同生活援助

## 高次脳機能障害

記憶に照らして認識したり、認識に基づいて判断し、行動したり、計画したりする高度な脳の働きを高次脳機能という。事故や疾病（脳卒中など）により脳に損傷を受けたことで、こうした働きに障害が生じ、記憶障害や欲求・感情のコントロール障害、注意障害等により生活に支障を来すことを高次脳機能障害という。外見上は障害が分かりにくい、当事者も障害を十分に認識できていないことがあるといった特性がみられる。

## 行動援護

障害福祉サービスの一つで、重度の知的・精神障害による著しい行動障害のある方に、見守りや危険回避の援護を提供するもの。

## サ行

## 施設入所支援

障害福祉サービスの一つで、施設に入所する障害者に対し、主に夜間において、入浴、排泄又は食事の介護等を行うもの。

## 指定難病

いわゆる「難病」のうち、難病法による医療費助成の対象とする疾患のこと。難病法で定義される条件に加えて、①患者数が本邦において一定の人数(人口の約0.1%程度)に達しないこと、②客観的な診断基準(またはそれに準ずるもの)が成立していること、の2つの条件が必要となる。平成27年7月1日から既存の110疾病に新たに196疾病が追加となり、合計306疾病が対象となっている。→難病・難病法

## 児童発達支援

障害児支援事業の一つで、障害児に対し、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練などを行うもの。

## 社会的障壁

障害のある人が社会生活を送る上で障壁（バリア）となるもののことで、物理的、制度的、慣行的、観念的なもの全てを含む。

## 重度訪問介護

障害福祉サービスの一つで、重度の肢体不自由により、常時介護が必要な身体障害者に、長時間にわたる介護と移動介護を総合的に提供するもの。

## 就労移行支援

障害福祉サービスの一つで、就労を希望する障害者に、一定期間、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、就労に必要な知識や能力の向上のための訓練を行うもの。

## 就労継続支援 A 型・B 型

障害福祉サービスの一つで、通常の事業所に雇用されることが困難な障害者に、就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じて、その知識や能力の向上のための訓練を行うもの。A 型（雇成型）と B 型（非雇成型）の類型がある。

## 障害基礎年金

国民年金に加入している間に初診日（障害の原因となった病気やケガについて、初めて医師の診療を受けた日）のある病気やケガで、法令により定められた障害等級表（1 級・2 級）による障害の状態にある間に支給される年金のこと。障害基礎年金を受けるためには、初診日の前日において、次のいずれかの要件を満たしていること（保険料納付要件：①初診日のある月の前々月までの公的年金の加入期間の 2/3 以上の期間について、保険料が納付または免除されていること②初診日において 65 歳未満であり、初診日のある月の前々月までの 1 年間に保険料の未納がないこと）が必要となる。

## 障害児相談支援

障害児支援事業の一つで、障害児の通所サービスの利用に関する援助を行い、「障害児支援利用計画」の作成を行い、一定期間ごとに見直しを行うもの。

## 障害者基本法

昭和 45 年に定められた心身障害者対策基本法を大幅に改正して制定された法律で、障害者の自立及び社会参加の支援等のための施策に関する基本となる法律。平成 23 年に改正され、これまで恩恵的な福祉施策の対象とされてきた障害者を「基本的人権を享有する個人」とするという観点から施策の主体としたこと、障害者の定義に「社会的障壁」を明記して障害の社会モデルの導入が行われたこと、さらに基本原則（差別の禁止）に「社会的障壁の除去」を掲げるなど、障害者権利条約の批准に向けて大きな転換がなされた。→障害者権利条約

## 障害者虐待防止法（障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律）

障害者権利条約の締結に向けた国内法制度の整備の一環として、障害者に対する虐待の禁止、国等の責務、障害者虐待を受けた障害者に対する保護及び自立の支援のための措置、養護者に対する支援のための措置等を定めることにより、障害者虐待の防止、養護者に対する支援等に関する施策を促進し、もって障害者の権利利益の擁護に資するこ

とを目的として、平成 24 年 10 月 1 日に施行。→障害者権利条約

## **障害者計画**

障害者基本法第 11 条の規定に基づき都道府県及び市町村に策定が義務付けられている法定計画。都道府県及び市町村における障害者の状況等を踏まえ、当該都道府県及び市町村における障害者のための施策に関する基本的な計画である。

## **障害者権利条約（障害者の権利に関する条約）**

2006 年（平成 18 年）12 月、国連総会において採択され、障害者の固有の尊厳、個人の自律及び自立、差別されないこと、社会への参加等を一般原則として規定し、障害者に保障されるべき個々の人権及び基本的自由について定めた上で、この人権及び基本的自由を確保し推進するための措置を締約国がとること等を定めている。日本は 2007 年（平成 19 年）に署名し、2014 年（平成 26 年）に批准している。

## **障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）**

障害者権利条約の締結に向けた国内法制度の整備の一環として、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的として、平成 25 年 6 月に制定。施行は一部の附則を除き平成 28 年 4 月 1 日。差別を解消するための措置として、国・地方公共団体等と民間事業者に差別的取扱いの禁止を義務付け、さらに、国・地方公共団体等に合理的配慮の不提供の禁止を義務付ける内容となっている。→障害者権利条約

## **障害者就労支援センター「アクセス」**

一般企業に就労可能な障害者に対し、就労に関する支援を実施するとともに、障害者の家族及びその関係者、企業等に対し、支援及び相談・調整を行う。市川市の委託により平成 12 年 6 月より設置。

## **障害者総合支援法（障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律）**

障がい者制度改革推進本部等における検討を踏まえて、地域社会における共生の実現に向けて、障害福祉サービスの充実等障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するため、新たな障害保健福祉施策を講ずるものとして、障害者自立支援法をもとに平成 25 年 4 月 1 日（一部は平成 26 年 4 月 1 日）より施行。大きな変更点としては、難病等が障害者の範囲に含まれるようになったことや、「障害支援区分」の創設、重度訪問介護の対象拡大、共同生活介護（ケアホーム）の共同生活援助（グループホーム）への一元化などが挙げられる。

## 障害福祉計画

障害者総合的支援法第 87 条第 1 項の規定に基づき、障害福祉サービス等の提供体制及び自立支援給付等の円滑な実施を確保することを目的として、国が作成する基本指針に即して、市町村・都道府県が作成する計画。市町村障害福祉計画には、①障害福祉サービス、相談支援及び地域生活支援事業の提供体制の確保に係る目標に関する事項②各年度における指定障害福祉サービス、指定地域相談支援又は指定計画相談支援の種類ごとの必要な量の見込み③地域生活支援事業の種類ごとの実施に関する事項などが記載される。

## 自立訓練

障害福祉サービスの一つで、障害者が自立した生活ができるよう、一定期間、身体機能や生活能力の向上のために必要な訓練等を行うもの。身体機能向上のための「機能訓練」と生活能力向上のための「生活訓練」の類型がある。

## 身体障害者手帳

身体障害者福祉法に定める身体上の障害がある者に対して、都道府県知事、指定都市市長又は中核市市長から交付される手帳。障害の種類として、①肢体不自由②心臓、じん臓又は呼吸器の機能障害③ぼうこう又は直腸の機能の障害④小腸の機能の障害⑤ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害⑥肝臓の機能の障害があり、いずれも一定以上で永続することが要件とされる。また、障害の種類別に重度の側から 1 級から 6 級の等級が定められている。なお、7 級の障害は、単独では交付対象とならないが、7 級の障害が 2 つ以上重複する場合又は 7 級の障害が 6 級以上の障害と重複する場合は、対象となる。

## 生活介護

障害福祉サービスの一つで、常時介護を要する障害者に、施設等で入浴や排泄、食事等の介護をしたり、創作的活動や生産活動の機会の提供等を行うもの。

## 生活ホーム

千葉県が要綱で定めたもので、独立した生活を希望し、あるいは家庭における養育が困難な知的障害者に、居室を提供し、日常生活や社会適応に必要な各種の援助を行うもの。満 15 歳以上で、①就労している者、②施設、作業所等へ通所している者、③家庭では十分な養護、監護が受けられない者のいずれかに該当する知的障害者を対象とする。また、設置・経営主体は法人でなくても実施可能で、定員は原則 4 名以内とされている。  
→ふれあいホーム

## 精神障害者保健福祉手帳

平成7年の精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の改正で同法第45条に規定された手帳で、精神障害者が一定の精神障害の状態であることを証する手段となり、各方面の協力を得て各種支援策を講じやすくすることにより、精神障害者の自立と社会参加の促進を図ることを目的としている。身体障害者手帳・療育手帳と異なり、手帳には2年の有効期限があり、2年ごとに医師の診断書とともに申請をし、手帳を更新する。診断書に基づき、診断書が書かれた時点での申請した当事者の能力障害、機能障害（精神疾患）の状態を精神保健福祉センターが判断し、手帳の支給・不支給ならびに、支給の場合は等級が決定される。等級は、障害の程度により、重い順に1級・2級・3級となっている。

## 夕行

### 短期入所（ショートステイ）

障害福祉サービスの一つで、居宅での介護を行っている方が、病気等の理由で介護できないときに、障害者等が施設への短期間の入所をし、必要な介護等のサービスを受けるもの。

### 地域移行支援

障害福祉サービスの一つで、入所施設や精神科病院に入所・入院している障害者に対し、住居の確保や地域生活への移行に関する相談や、援助などを行うもの。

### 地域活動支援センター

地域生活支援事業の一つで、障害者の地域生活支援の促進を図ることを目的に、地域活動支援センターにおいて、障害者に対する創作的活動や生産活動の機会の提供などを行うもの。

### 地域定着支援

障害福祉サービスの一つで、居宅において単身等で生活をする障害者に対し、常時の連絡体制を確保して、相談や緊急時の対応などを行うもの。

### 特別支援学校

「学校教育法等の一部を改正する法律」（平成19年4月1日施行）に基づき、複数の障害種別に対応した「特別支援教育」を実施することができる「特別支援学校」制度が創設された。これにより、従来の盲・ろう・養護学校は「特別支援学校」に移行し、児童生徒の重度・重複化に対応した教育の充実がはかられることとなった。なお、特別支

援教育とは、従来の特殊教育の対象とされる障害だけでなく、学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症を含めて障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて、その一人ひとりの教育的ニーズを把握して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うもの。

## 同行援護

障害福祉サービスの一つで、移動に著しい困難のある視覚障害者に対し、移動の支援や外出先での援護、視覚的情報の支援などを提供するもの。

## ナ行

### 難病

社会通念上は、治療の難しい病をいう。難病法では、発病の機構が明らかでなく、かつ、治療方法が確立していない希少な疾病であって、当該疾病にかかることにより長期にわたり療養を必要とすることとなるものと定義されている。→難病法・指定難病

### 難病法（難病の患者に対する医療等に関する法律）

平成 26 年 5 月 23 日成立、平成 27 年 1 月 1 日施行。持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律に基づく措置として、難病の患者に対する医療費助成に関して、法定化によりその費用に消費税の収入を充てることができるようにするなど、公平かつ安定的な制度を確立するほか、基本方針の策定、調査及び研究の推進、療養生活環境整備事業の実施等の措置を講ずることを定めている。→難病・指定難病

### 日中一時支援

地域生活支援事業の一つで、障害者等の日中における活動の場を確保し、障害者等の家族の就労支援、及び障害者等を日常的に介護している家族の一時的な休息を図るもの。

### 日常生活用具

障害者等の日常生活がより円滑に行われるための用具で、次の 3 項目（①障害者等が安全かつ容易に使用できるもので、実用性が認められるもの②障害者等の日常生活上の困難を改善し、自立を支援し、かつ、社会参加を促進すると認められるもの③用具の製作、改良又は開発に当たって障害に関する専門的な知識や技術を要するもので、日常生活品として一般に普及していないもの）を全て満たすもの。種目としては、①介護・訓練支援用具②自立生活支援用具③在宅療養等支援用具④情報・意思疎通支援用具⑤排泄管理支援用具⑥居宅生活動作補助用具（住宅改修費）が挙げられる。

## ノーマライゼーション

1960年代に北欧諸国から始まった社会福祉をめぐる社会理念の一つ。障害者や高齢者など社会的に不利益を受けやすい人々が、社会の中で他の人々と同じように生活し、活動することが社会の本来あるべきノーマル（正常）な姿であるとする考え方。またその実現に向けた運動や施策なども含まれる。

## ハ行

### 発達障害

人間の発達過程において、認知や言語、運動、社会的な能力や技術の獲得に、偏りや遅れがある状態を発達障害という。自閉症、アスペルガー症候群や学習障害、注意欠陥多動性障害のほか、これに類する脳機能の障害が含まれる。

### バリアフリー

障害者や高齢者などが日常生活を送る上での妨げとなる、さまざまな障壁（バリア）を取り除くこと。もとは段差や仕切りの解消などを指したが、現在では、意識や各種制度などあらゆる面において、社会参加を困難にするものを取り除くこととして使われる。

### 福祉施設

各種の法律にのっとり、社会福祉のためにつくられた施設のこと。

### ふれあいホーム

千葉県が要綱で定めたもので、精神科病院に社会的理由で長期入院している精神障害者や独立した生活を希望する精神障害者に対し、地域の中で住宅を提供し、日常生活や社会適応に必要な援助を行うもの。県内に居住し、①日常生活上の援助を受けながら、地域で生活することが適当であること、②日常生活を送ることに支障がない程度に身辺自立ができていないこと、③日常生活を維持するに足る収入があること、の3つの要件のいずれにも該当する精神障害者を対象とする。また、設置・経営主体は法人でなくても実施可能で、定員は原則2～3名とされている。→生活ホーム

### 保育所等訪問支援

障害児支援事業の一つで、保育所など児童が集団生活を営む施設等に通う障害児について、その施設を訪問し、その施設における障害児以外の児童との集団生活への適応のための専門的な支援などを行うもの。

## 放課後等デイサービス

障害児支援事業の一つで、障害児に対し、授業の終了後又は休業日に、通所により、生活能力の向上のための必要な訓練、社会との交流の促進等を行うもの。

## 補装具

障害者が日常生活を送る上で必要な移動等の確保や、就労場面における能率の向上を図ること及び障害児が将来、社会人として独立自活するための素地を育成助長することを目的として、身体の欠損又は損なわれた身体機能を補完・代替する用具の総称で、具体的には、義肢・装具・座位保持装置・盲人安全つえ・義眼・眼鏡・補聴器・車椅子・電動車椅子・歩行器・歩行補助つえ（T字状・棒状のものを除く）・重度障害者用意思伝達装置などがこれにあたる。

## マ行

## 民生委員

民生委員法に基づき厚生労働大臣により委嘱される無給の非常勤委員で、任期は3年。市町村または特別区の区域ごとに置かれ、社会奉仕の精神をもって生活困窮者の保護指導にあたり、社会福祉行政全般にわたる協力機関として活動する。

## ヤ行

## ユニバーサルデザイン

文化・言語・国籍の違い、老若 男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報 の設計（デザイン）をいう。

## ラ行

## 療育手帳

知的障害児（者）に対して一貫した指導・相談を行うとともに、これらの方に対する各種の援助措置を受けやすくするための手帳で、都道府県知事（政令指定都市にあってはその長）が発行する。身体障害者手帳については身体障害者福祉法に、精神障害者保健福祉手帳については精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に、それぞれ手帳発行に関する記述があるが、療育手帳に関しては知的障害者福祉法にその記述はなく、昭和48年9月27日に当時の厚生省が出した通知「療育手帳制度について」（厚生省発児第156号厚生事務次官通知。のち、平成3年9月24日の厚生省発児第133号厚生事務次官通知として知的障害者に対する旅客運賃の割引制度の適用の関係で一部が改正され

ている)、同日の見発第 725 号「療育手帳制度の実施について」に基づき各都道府県知事（政令指定都市の長）が知的障害と判定した者に発行している。このため、障害の程度の区分は各自治体により異なる。18 歳未満は児童相談所、18 歳以上は知的障害者更生相談所が判定を行なう。

### **療養介護**

障害福祉サービスの一つで、医療を要する障害者で常時介護の必要な方に、病院等で、機能訓練や療養上の管理、看護、介護等を行うもの。

### **レスパイトサービス**

介護を要する高齢者や障害者を一時的に預かって、家族の負担を軽くする援助サービスのこと。